

ケニア共和国

野生生物保全教育強化
プロジェクト
終了時評価調査報告書

平成19年9月
(2007年)

独立行政法人 国際協力機構

ケニア事務所

序 文

日本国政府はケニア国政府からの技術協力要請に基づき、平成 16 年 2 月 14 日から 3 カ年にわたる技術協力プロジェクト「ケニア共和国野生生物保全教育強化プロジェクト」を開始しました。

今般、独立行政法人国際協力機構はプロジェクトの終了時評価をおこなうことを目的として、平成 19 年 9 月 6 日から 9 月 12 日まで JICA ケニア事務所長狩野良昭を団長として派遣し、ケニア側と合同でプロジェクトの終了時評価を行いました。

調査団は、ケニア政府関係者とプロジェクトの進捗の確認と今後の方向性に関する協議及びプロジェクト・サイトでの現地調査を実施しました。

本報告書は、同調査団の調査・評価結果を取りまとめたものであり、今後のプロジェクトの展開、更には類似のプロジェクトにも活用されることを期待いたします。

終わりに、本調査に対してご協力とご支援を賜りました両国関係者の皆様に心から感謝の意を表しますと共に、引き続き一層のご支援をお願いする次第です。

平成 19 年 9 月 15 日

独立行政法人 国際協力機構
ケニア事務所長 狩野 良昭

略 語 表

略語	正式名	日本語
JOCV	Japan Overseas Cooperation Volunteer	青年海外協力隊
KWS	Kenya Wildlife Service	ケニア野生生物公社
LNNP	Lake Nakuru National Park	ナクル湖国立公園
NMK	National Museum of Kenya	ケニア国立博物館
MoTW	Ministry of Tourism and Wildlife	観光野生生物省
SV	Senior Volunteer	シニア海外ボランティア
WCK	Wildlife Club of Kenya	ケニア野生生物クラブ

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：ケニア共和国	案件名：野生生物保全教育強化プロジェクト
分野：環境管理－自然環境	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：ケニア事務所	援助金額（評価時点）：93,316 千円
協力期間：2005 年 2 月～2008 年 2 月 (R/D 締結日：2005 年 2 月 14 日)	先方関係機関：ケニア野生生物公社（KWS）
	日本側協力機関：環境省
	他の関係協力：青年海外協力隊（1992 年～） シニア海外ボランティア派遣（2004 年～） 文化無償協力（2003 年視聴覚機材供与）
1-1 協力の背景と概要	
<p>ケニア国は、世界でも有数の豊かな野生生物相を有し、国立公園・保護区における観光業が重要な外貨獲得源となっている。これらの国立公園・保護区を管理しつつ、自然環境の持続的な保全を担当するのが、1989 年に独立採算制の公社として設立されたケニア野生生物公社（Kenya Wildlife Service, KWS）である。KWS は野生生物保全及び住民の社会経済的活動との軋轢軽減に取り組むことから、環境教育にも従事し、生態系保全と住民の生活向上の両立を図ることで、貧困削減にも貢献している。しかしながら、人口増加、経済活動の拡大、土地利用制度の変更、度重なる旱魃などから、周辺住民と野生動物の間における軋轢はますます深刻化している。</p> <p>日本政府は 1978 年から自動車整備を中心に青年海外協力隊を派遣し、1992 年には車輛・建設機械の無償資金協力を実施した。1992 年からはソフト面を重視し、保護計画、環境教育、視聴覚機材の分野における専門家及び協力隊派遣を展開している。2003 年 3 月から「野生生物保護教育計画」個別専門家を KWS に派遣し、「環境教育」、「視聴覚機材」等海外ボランティアを派遣している。なお、環境教育分野に対する支援としては、生態系及び文化に関する豊富な知的資源を有するケニア国立博物館（National Museum of Kenya:NMK）に対しても専門家派遣の実績がある。</p> <p>これらの協力を通して、KWS の野生生物保全教育活動を強化し、その施設を有機的に有効活用することが望まれている。これにより、市民や観光客に対する効果的な野生生物保全教育を促進し、生態系保全に対する人々の意識が向上することが期待される。しかしながら、かかる体制整備は不十分であり、ケニア政府は KWS 本部及び地方の国立公園、博物館、関連 NGO に派遣しているボランティアとの連携を深め、効果的な自然保護教育の実施能力向上を目的とした技術協力プロジェクトを我が国に要請した。我が国は右要請を踏まえ、2004 年 10 月に事前評価調査団を派遣し、2005 年 2 月に実施協議録が交わされた。</p>	
1-2 協力内容	
(1) 上位目標	
野生生物保全に関するケニア国民の意識が向上し、野生生物保全に参加するようになる。	
(2) プロジェクト目標	
効果的な野生生物保全教育を実施する能力が強化される。	

(3) 成果	
成果 1：教育実施戦略が策定される。	
成果 2：教育オフィサーの指導能力が強化される。	
成果 3：教育ツール、教材、機材及び施設の適切な開発、使用及び保守管理が向上する。	
(4) 投入（評価時点）	
日本側：	
長期専門家派遣	2 名
短期専門家派遣	3 名（2007 年 9～10 月に更に 1 名の派遣を予定）
日本におけるカウンターパート研修	8 名（プロジェクト終了までに更に 2 名の受入を予定）
第三国におけるカウンターパート研修	3 名
機材供与	8,460 千円（2007 年 8 月末までの実績）
ローカルコスト負担	17,871 千円（2007 年 8 月末までの実績）
相手国側：	
カウンターパート配置	43 名
事務所（電気・水道・電話代含む）・教育施設・車輛	
ローカルコスト負担	4,276 千円（2007 年 3 月末までの実績）
	6,170 千円（プロジェクト終了時の見込み）
2. 評価調査団の概要	
(1) 日本側メンバー	
総 括	狩野 良昭 JICA ケニア事務所 所長
協力計画	足立 佳菜子 JICA 地球環境部第 1G 第 2T
評価計画	江崎 千絵 JICA ケニア事務所 所員
評価分析 1	新谷 彰 (株) 三祐コンサルタンツ
評価分析 2	Mr. John N. Ngugi JICA ケニア事務所
(2) ケニア側メンバー	
Mr. Kipkorir Lagat, Senior Deputy Director, Ministry of Tourism and Wildlife	
Ms. Margaret Ndungu, Corporate Planning Manager, KWS	
調査期間：2007 年 9 月 6 日（木）～9 月 12 日（水）	評価種類：終了時評価
3. 評価結果の概要	

3-1 実績の確認

(1) プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標の達成状況は良好で、プロジェクトの終了までに概ね達成される見込みである。2006 年 10 月に保全教育戦略が策定された後、1 年目に開始を予定されていた 30 件の活動のうち、既に 24 件が開始された。更に 4 件の活動がプロジェクトが終了する 2008 年 2 月までには開始される予定である。また、教育オフィサーへのアンケート結果及び終了時評価調査時の現地調査の結果、研修を通じて教育関連オフィサーの能力が強化され、特にコミュニケーションとプレゼンテーションの能力が大きく向上し、学んだ知識・技術を活かして教材の作成を開始しており、全体に教育活動の質・量は向上していることが確認できる。さらに、ナイロビを中心に、教育ツール、教材、機材および施設は良好に使用されており、展示に改善が見られる。また、ナイロビとナクルにおける教育用の視聴覚機材は、以前よりも使用されるようになった。

(2) 成果の実績

プロジェクトは PDM および PO に従って実施され、既に成果 1 は達成済みである。成果 2 と成果 3 についても、プロジェクトが終了する 2008 年 2 月までには概ね達成される見込みである。各成果の達成状況を以下に示す。

成果 1：教育実施戦略が策定される。

- ・他部局との連携の下、KWS の教育局は保全教育戦略（2006-2011）を策定した。本戦略は理事会の承認を得た後、2006 年 10 月に公開された。

成果 2：教育オフィサーの指導能力が強化される。

- ・PO に従い、計画されていた 18 件の研修・ワークショップのうち 14 件が実施された。これらの研修・ワークショップは教育関連オフィサーの野生生物保全教育の能力強化を目指したもので、延べ 249 人のオフィサーが参加した。また、教育オフィサーへのアンケート結果及び終了時評価調査時の現地調査の結果、研修に参加したオフィサーは、教育プログラムの開発、ハンズ・オン教材（足型、頭骨等）の作成、展示の方法および教材の解説方法を身に付け、各々の国立公園での教育活動に活用し始めていることが確認されている。なお、残り 4 件の研修・ワークショップも準備・計画中であり、プロジェクト終了までに順次実施予定である。

成果 3：教育ツール、教材、機材及び施設の適切な開発、使用及び保守管理が向上する。

- ・対象地域の全域において、教育ツールと教材が改善された。本部の視聴覚機材に関しては、活動に十分な性能・数量が揃っており、施設に関しても事務所の拡張工事が行われたため十分なスペースを確保している。ナイロビの教育センター、動物孤児院、サファリ・ウォーク、およびナクルの教育センターでは、研修・ワークショップに参加した教育関連オフィサーにより展示の改善がなされた。対象地域の全域において、教育関連の機材と施設は良好に維持管理されており、使用頻度はプロジェクト開始前に比べて高くなっている。コースト地域における教育ツール・教材、機材の整備は遅れがちであるが、プロジェクト終了までに視聴覚機材が整備され、教育ツール・教材作成が行われる予定である。
- ・視聴覚機材の使用と保守管理に関して、PO で計画されていた 8 件の研修・ワークショップのう

ち7件が実施され、延べ76人の教育関連オフィサーが参加した。同研修により、教育関連オフィサーは教育用ビデオの企画書作成および機材の保守管理に関する基礎的な知識・技能を身に付けた。また、視聴覚オフィサーは、ビデオ、ポスターおよびパンフレット等の制作に関する基礎および応用を学び、最新機材を用いて高品質な教材を作成できるようになった。なお、残り1件の研修・ワークショップも計画中であり、プロジェクト終了までに実施予定である。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性

本プロジェクトの妥当性は高い。この理由は以下の通りである。

- ・ ケニアの開発政策である I-PRSP (Interim Poverty Reduction Strategy Paper: 貧困削減戦略ペーパー)、ERS (Economic Recovery Strategy: 経済再生戦略) および Vision 2030 では、観光資源の保全の重要性が謳われており、生態系保全の重要性に関する国民への教育の必要性が認識されている。また、2007年5月に発表された野生生物政策(案)においても、人間と野生生物の軋轢、人材育成および保全教育が主要課題としてあげられている。
- ・ 日本のODA大綱とODA中期政策では、重点課題の1つに「地球的規模の問題への取組み」が掲げられており、その中には環境問題が含まれている。また、2002年に発表された「持続可能な開発のための環境保全イニシアティブ」(EcoISD)でも、「自然環境保全」は国際環境協力の重点分野の1つに掲げられている。外務省による対ケニア国別援助計画及びJICA国別事業実施計画においても、「環境保全」を重点分野の1つとしてかけ、野生生物保護をはじめとする生態系の保護への支援を述べている。
- ・ 人間と野生生物の軋轢を緩和するには、住民に対して野生生物保全の重要性を伝える教育が重要であり、従って野生生物保全に携わるKWSの教育関連オフィサーの能力向上は急務である。

(2) 有効性

本プロジェクトの有効性は高く、プロジェクト終了時までにプロジェクト目標は概ね達成される見込みである。その理由は以下の通りである。

- ・ 2006年10月に保全教育戦略(2006-2011)が策定され、1年目に予定されている30件の活動のうち24件は既に開始された。更に4件がプロジェクト終了までに開始される見込みである。
- ・ 教育関連オフィサーの多くが教育ツールや教材を作成する技能を身に付け、特にナイロビとナクルではそれを活かして教育活動が頻繁に行われている。コースト地域での成果発現は多少遅れがちであるものの、プロジェクト終了までに予定されている視聴覚機材整備や教育ツール・教材作成、及び地域のステークホルダーやJOCVとの連携により、今後教育活動の活性化が期待される。
- ・ ナイロビでは教育ツール、教材、機材および施設の使用頻度は高く管理状態も良い。展示にも改善がなされている。ナクルにおいても、ナイロビほどではないものの同様な傾向が見られる。
- ・ KWSの機構改革により、本部の教育部局が全国の教育関連活動を管理するようになり、より包括的な計画の下で教育活動を実施できる体制が整った。

- ・外部条件である KWS 内の他部局からの支援もプロジェクト実施期間中得られ、プロジェクトからの提言により人事異動の頻度も下がり、プロジェクト実施に必要な人的・資金的資源も投入された。
- ・結果として、野生生物教育を効果的に実施していくための KWS の制度的能力は強化されていると言える。

(3) 効率性

本プロジェクトの効率性は高く、成果 1 は既に達成され、成果 2 および 3 はプロジェクト終了までに達成されると見込まれる。その理由は以下の通りである。

- ・投入は計画どおり適切に行われた。また、過去に文化無償など日本政府から供与された機材を有効に活用することにより、プロジェクトによる機材の供与を最小限に抑えた。同様に、対象地域内に配属されたシニアボランティアや青年海外協力隊との連携や、KWS に配置されたインターン（主に日本人インターン）の協力により、効率的な協力が実施できた。
- ・研修とワークショップの内容はカウンターパートおよび教育関連オフィサーのニーズに適合しており、講師となる専門家等が工夫を凝らすことにより、実践的なものとなった。
- ・本部へ視聴覚機材を供与した後に事務所の拡張が行われたが、その工事が遅れたため、一部の機材を使用できない状況が一時期続いた。しかし、工事の終了後は、以前よりも快適かつ効率的に業務を行えるようになった。
- ・プロジェクトの対象地域が広範であったことに加え、適切なモニタリング方法が定まっていなかったため、ナクルとコーストでは研修・ワークショップ後のモニタリング／フォローアップの実施には制約があった。しかし、現在 KWS では保全教育戦略に従いモニタリング計画の作成が進められており、これが完成することによりモニタリング／フォローアップが改善されると期待できる。

(4) インパクト

プロジェクトのインパクトは大きく、長期的には上位目標の達成も見込まれる。その理由は以下の通りである。

- ・いくつかのコミュニティは周辺の自然環境の劣化に気がつき始めており、既に保全のための活動を開始している人達もいる。プロジェクトを通じて KWS の教育実施能力が強化されたことは、今後、KWS がコミュニティの活動を支援していく上で大いに役立つと期待できる。また、保全の結果、コミュニティが経済的な利益を得ることができれば、更に保全活動は促進されると期待される。
- ・プロジェクトでは住民、子ども、観光客等ターゲット別に明確なメッセージをもった教育の重要性を伝えており、特により多くの子どもたちが野生生物保全教育を受けることにより、彼らが大人になった時、より積極的に野生生物の保全活動に参加するようになることが期待できる。
- ・2007 年 5 月に発表された野生生物政策（案）において保全教育の重要性が明記されていることから、保全教育戦略がより重要視されることが期待され、またコミュニティの保全活動への参

加が促進されると考えられる。

- ・教育関連オフィサーの能力向上をうけた上位目標の達成に向けた動きは、人と野生生物との軋轢や環境劣化の緩和、更には人々の生活水準の改善という波及効果をもたらすと予測され、観光業の促進も期待される。

(5) 自立発展性

本プロジェクトには自立発展性が期待できる。その理由は以下の通りである。

- ・KWS 機構改革の結果、本部の教育部局が強化され全国の教育活動を管理するようになった。また、野生生物政策（案）においても保全教育は重要視されている。これらのことから、今後も KWS が教育活動を継続的に実施していくと期待できる。
- ・2008 年 2 月のプロジェクト終了後も、KWS は教育活動および教育関連オフィサーへの研修のための予算を計上する予定であることが KWS 側より表明されており、また教育関連オフィサーの人員増加も検討されていることから、組織制度的な自立発展性が見込める。
- ・プロジェクトにより技術移転を受けたカウンターパートおよび研修に参加した教育関連オフィサーの多くは、研修・ワークショップで学んだことを同僚と共有しており、今後も他のオフィサーや職員に技術移転を行う人材として活躍すると期待できる。
- ・また、KWS 本部教育部局スタッフはプロジェクトを通じて研修・ワークショップの企画・運営方法を学んでおり、訓練ニーズに基づいた研修・ワークショップが今後も実施されていくことが期待できる。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

- ・プロジェクトは、対象地域内に派遣されているシニアボランティアと青年海外協力隊員との緩やかな連携により実施され、彼らにもカウンターパートと一緒に本プロジェクトの研修を受ける機会を与えることにより、研修終了後、教育関連オフィサーの活動を現場で支援することにつながり、成果の達成に貢献した。また、ナイロビとナクルには過去に文化無償により供与された視聴覚機材があり、プロジェクトではこれらを有効に利用した。
- ・他機関との連携を計画に盛り込んだことにより、教育活動がより効果的に促進された。例えば、ケニア野生生物クラブ（WCK）の教育オフィサーは研修講師やワークショップの参加者としてプロジェクトに参加し、ケニア国立博物館（NMK）の視聴覚オフィサーは研修・ワークショップの参加者として参加した。この中で、各機関がそれぞれの強みと弱みを把握し、お互いに補うようになった。また、組織間の交流が活性化されたことにより、今後も教育活動における連携が継続していくと期待できる。
- ・教育のプロセスにおいて、座学のみならず、先進地域の視察、参加型の手法を取り入れることにより、参加者の理解が深まり、学んだことの実践につながった。

(2) 実施プロセスに関すること

- ・JICA 専門家、カウンターパート、JICA 事務所および関係政府機関からなる合同調整委員会 (Joint Coordination Committee, JCC) が年に 1 回開催され、プロジェクトのモニタリングが行われた。また、研修・ワークショップの後には質問票調査と反省会を毎回行い、その結果を次の研修・ワークショップの計画・実施に活用した。
- ・研修の計画・実施において、学んだ事が現場で確実に実践されるための工夫がなされ、その効果は十分に発揮された。例えば、参加者が研修中に教材作成を行うようにしたことにより、研修で学んだことがより早く現場で実行された。
- ・KWS に配置されたインターン（主に日本人インターン）および KWS のレンジャーが、教育関連オフィサーによる教育活動の支援（例えば教材作成支援や住民・子どもたちへの実際の教育活動補佐）を行い、成果の達成に影響を与えた。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

- ・プロジェクトとボランティアの連携に関して、プロジェクトの投入にボランティアは含まれておらず、ボランティアはあくまでもプロジェクトの外部に位置付けられ、緩やかな連携を目指していたが、教育関連オフィサーが自分でするはずの教育活動をボランティアに過剰に頼るケースもみられた。よって、今後プロジェクトと連携してボランティアを派遣する場合は、配属先に対し、ボランティアがカウンターパートと一緒に業務を行う意義を伝えていく必要がある。

(2) 実施プロセスに関すること

- ・プロジェクト・マネージャーであるアシスタント・ダイレクターが 3 度も交替するなど、カウンターパートの異動が頻繁であったことは、プロジェクトの実施に支障を与えた。しかし、プロジェクトと JICA 事務所から KWS への要請により、異動の頻度は低減された。
- ・プロジェクトの実施中に KWS の機構改革が行われたため、プロジェクトの運営体制が不明瞭になり運営に支障を与えた時期があった。しかし機構改革の結果、本部の教育部局が全国の教育活動を管理するようになったため、その後のプロジェクトの運営体制は以前より向上した。

3-5 結論

- ・日本側およびケニア側からの投入は、数量・時期ともに適切に行われた。したがってプロジェクト終了までの活動は順調に行われる見込みである。また評価 5 項目の視点から、本プロジェクトは妥当性、有効性、効率性、インパクトおよび自立発展性の全てが高いと言える。
- ・プロジェクトは、保全教育戦略（2006-2011）の策定に大きく貢献した。多くの教育関連オフィサーが研修を受け、知識・技能が向上した。研修を受けた教育関連オフィサーにより多くの教育ツールと教材が作成され、国立公園や教育センターの訪問客に対する教育活動に活かされている。プロジェクトおよび他の関係機関の活動により、コミュニティにおける野生生物保全に対する意識が向上され活動も活性化されつつある。
- ・プロジェクトの開始時期には、KWS 中期戦略の策定の遅れに伴い、保全教育戦略の策定及びブ

プロジェクトの協力窓口となる教育部局の組織化も遅れた。また、プロジェクトの前期には、カウンターパートが頻繁に交替したことにより、活動の進捗に支障が生じた。しかし、これらの障害に対してプロジェクト関係者が積極的に取り組んだ結果、プロジェクトの終了までにプロジェクト目標は達成される見込みとなった。

- ・プロジェクトの実施において、シニアボランティア、青年海外協力隊、KWS に配置されたインターン（主に日本人インターン）およびレンジャーが、教育関連オフィサーの教育活動を支援した事により、その進捗が促進された。
- ・結論として、本技術協力プロジェクトは当初予定通り 2008 年 2 月 13 日をもって終了する。

3-6 提言

・KWS は保全教育を強化していくためには教育オフィサーの増員が必要である。特にナイロビやナクルに比べ遅れの見られるコースト地域においては教育を担当するスタッフが不足しており、教育オフィサーの増員が不可欠である。KWS の保全教育戦略の実施を今後ともフィールドレベルで支援するために JICA にはボランティアの派遣継続が期待される。KWS はボランティアを最大限活用するため、ボランティアの受入戦略を作成すべきである。

・ナイロビ以外の地域における研修・ワークショップ後のモニタリング／フォローアップについて、KWS は作成中の保全教育戦略のモニタリング計画に即して強化すべきである。

・保全教育活動には教育オフィサーのみならず、コミュニティ担当のオフィサーやレンジャー、幹部候補生、ケニア人インターンもかかわっているため、KWS は彼らに対する保全教育研修や彼らへの教材配布も必要である。

・プロジェクトで実施したような活動を持続させるためには、KWS は保全教育戦略に沿って必要な予算を確保することが望まれる。

・プロジェクト対象地域の教育センターは、KWS によって更に改善され、他地域のモデルとなることが望まれる。

3-7 教訓

・プロジェクト実施にあたっては、先方政府の政策・方針への合致、及びカウンターパート部局における業務とプロジェクト活動が密接に関連していることが重要である。

・保全教育の知識や技術を身につけるためには、参加者間の活発なコミュニケーション、参加型、現場視察を含む研修が効果的である。

・プロジェクトと連携してボランティア派遣を投入するにあたって、プロジェクト活動へのボランティアとカウンターパートの合同参加を促すことにより、現場レベルでの成果発現を促進することができる。

・カウンターパート機関の人的・資金的リソースが限られている場合、同様の活動をしている機関と連携することにより相乗効果が期待できる。

・カウンターパートの頻繁な交替にたいしては、JICA 事務所とプロジェクトチームとが連携して、

カウンターパート機関に申し入れをすることが重要である。

3・8 フォローアップ状況

- ・本プロジェクト成果の更なる定着と広がりのため、フィールドレベルで支援していく意義が高いことから、継続して **KWS** に対してボランティア派遣を行っていく。
- ・保全教育に関連する本邦研修の機会を引き続き **KWS** に対して提供していくこと検討する。

Summary of Terminal Evaluation

I. Outline of the Project	
Country: Republic of Kenya	Project Title: Strengthening of Wildlife Conservation Education Project (SOWCE)
Sector: Environmental Management/Natural Environment	Cooperation Scheme: Technical Cooperation Project
Division in Charge: JICA Kenya Office	Total Cost (at the time of evaluation): 93.3 million yen
Period of Cooperation: February 2005 to February 2008 (Conclusion of R/D: 14 th February 2005)	Partner Country's Implementation Agency: Kenya Wildlife Service (KWS)
	Supporting Organization in Japan: Ministry of Environment
	Related Cooperation: Dispatch of Japan Overseas Cooperation Volunteer (From 1992-) Dispatch of Senior Volunteer (From 2004 -) Cultural Grant Aid Assistance (Provision of Audio Equipments, 2003)

1 Background of the Project

In the past few decades Kenya's natural resources have continued to decline in quantity and quality primarily due to human activities that are not environmentally sound. Measures to halt and even reverse the above trend include improved management of resources by all interested and affected parties. Better management can be achieved through enhanced nature conservation education and public awareness.

An institution like Kenya Wildlife Service (KWS) has played a leading role in conservation and management of natural resources. Among its other responsibilities is wildlife conservation education and public awareness. KWS has been actively involved in communicating wildlife conservation education and awareness to schools, colleges, local communities and visitors (tourists) around the country through the use of lectures, video shows, posters, booklets, exhibitions among other environmental education programmes.

Under these circumstances, the Government of Kenya (GOK) requested the Government of Japan (GOJ) for a technical cooperation project to strengthen the institutional capacity of KWS for effective implementation of wildlife conservation education in Kenya. In response to the official request of the GOK, the GOJ decided to conduct the Project for Strengthening of Wildlife Conservation Education (SOWCE) in accordance with the results of discussions with the authorities concerned of GOK. The Record of Discussions (R/D) that constitutes the agreement of the project was signed between JICA and the Ministry of Tourism and Wildlife on 14th February, 2005. Upon this agreement, JICA commenced the three-year technical cooperation project with KWS as the

implementing agency.

2 Project Overview

(1) Overall Goal

To Enhance Awareness and Participation in Wildlife Conservation by Kenyan Citizens.

(2) Project Purpose

To Strengthen the Institutional Capacity of KWS for Effective Implementation of Wildlife Conservation Education.

(3) Outputs

Output 1: Education Implementation Strategy Has Been Developed.

Output 2: Capacity of Education Officers Has Been Strengthened.

Output 3: Appropriate Development, Operation and Maintenance of Education Tools, Materials, Equipment and Facilities Has Been Improved.

(4) Inputs

Japanese Side

(a) Experts

Two (2) Long-term Experts in Total

Three (3) Short-term Experts in Total (as of mid-September 2007)

One (1) Short-term Expert will be dispatched from September to October 2007

(b) Training of Kenyan Counterpart Personnel in Japan

Five (5) Counterpart Personnel from KWS and Two (2) Personnel from NMK (as of mid-September 2007)

Two (2) more Counterpart Personnel from KWS will be trained.

One (1) Long-term Counterpart Training in Kyoto University for Doctor Degree

(c) Training of Kenyan Counterpart Personnel in Third Country

Three (3) Counterpart Personnel attended BBEC International Conference in Malaysia.

(d) Provision of Equipment

In Total Ksh 5.8 Million of Audio-visual Equipment, Computers, Glass-bottom Boat and Captive Management Equipment (including the planned budget for the remaining period)

(e) Local Cost

In Total Ksh 12.6 Million (including the planned budget for the remaining period)

Kenyan Side

(a) Counterpart Personnel

Forty Three (43) Counterpart Personnel in Total

(b) Land and Facilities

Administrative Office and Expenses for Electricity, Water Supply and Telephone Line

Education/Information Centres

Vehicles

(c) Local Cost In Total Ksh 3.6 Million (including the planned budget for the remaining period)	
II. Evaluation Team	
Member of Evaluation Team:	
(1) Japanese Members	
Mr. Yoshiaki Kano (Leader), Resident Representative, JICA Kenya office	
Ms. Kanako Adachi (Cooperation Planning), Senior Program Officer, Global Environment Department, JICA HQ	
Ms. Chie Ezaki (Evaluation Planning), Assistant Resident Representative, JICA Kenya Office	
Mr. Akira Shintani (Evaluation Analysis), Sanyu Consultants Inc.	
Mr. John N. Ngugi (Evaluation Analysis (Assistant)), Senior Program Officer, JICA Kenya Office	
(2) Kenyan Members	
Mr. Kipkorir Lagat, Senior Deputy Director, Ministry of Tourism and Wildlife	
Ms. Margaret Ndungu, Corporate Planning Manager, KWS	
Period of Evaluation: 06/09/2007 - 12/09/2007	Type of Evaluation : Terminal Evaluation
III. Results of Evaluation	
1 Achievement	
(1) Achievement of the Project Purpose	
Currently, the level of achievement seems to be at an advanced stage. Since the commencement of the education strategy in October 2006, 24 out of 30 activities planned in the first year have already been started. It is expected that the remaining 4 will begin before the Project ends. The quality of education activities especially with regard to communication and presentation has improved. The quantity of activities has also increased for the majority. Generally the education tools and materials, equipment and facilities have been well utilized in Nairobi and the quality of exhibition has improved. The audiovisual equipment and facilities at HQ and Nakuru are also much more utilized for education purposes than previously.	
(2) Achievement of the Outputs	
<u>Output 1: Education Implementation Strategy Has Been Developed.</u>	
<ul style="list-style-type: none"> The Education Implementation Strategy was formulated in collaboration with other departments and released in October 2006. The Education Department has since then been working together with other departments to implement the strategy. 	
<u>Output 2: Capacity of Education Officers Has Been Strengthened.</u>	
<ul style="list-style-type: none"> In line with the PO, a total of fourteen (14) out of eighteen (18) planned training/workshops were conducted in order to enhance the capacity of education-related officers with regard to environmental conservation education. The total number of officers trained was two hundred and forty-nine (249). From the training, the participants acquired basic knowledge about formulation of education programmes, development of hands-on material such as making 	

foot-casts and skull specimens, exhibition methods, and preparation, interpretation and presentation of education materials. At their stations, the participants have already started to practice what they have learnt. They have also enhanced their technical knowledge of marine life and catchment's management and also sustainable development.

Output 3: Appropriate Development, Operation and Maintenance of Education Tools, Materials, Equipment and Facilities Has Been Improved.

- In all the target areas, the quality and quantity of tools and materials have been improved. This includes the production of a nature calendar and teacher's guide for the Nairobi Safari Walk, and the preparation of an education video, hands-on material and education programme at the Coast. In addition to information materials, an educational video and nature calendar are currently in the process of being produced in Nakuru.
- In Nairobi the multimedia office has been extended. The facilities and displays in both Nairobi and Nakuru have also been improved. In Nairobi and Nakuru, there are enough equipments and facilities such as audiovisual equipments and facilities. Most of the equipment and facilities are well maintained and utilized and the frequency of use has also increased since the project started. In Nairobi and Nakuru, many students have visited the park and education centres, and attended in-house education programmes.
- Training in operation and maintenance has been quite successfully implemented with seven (7) trainings/workshops conducted out of a planned eight (8). A total of seventy-six (76) officers were trained. Study tours and on-the-job training was also carried out. As a result of the training, the education related officers have acquired basic knowledge and skills to enable them to write synopses of educational videos and also operate and maintain equipment. The audiovisual officers acquired technique for production of education materials such as posters and brochures, and also the operation and maintenance of equipment.

2 Summary of Evaluation Results

(1) Relevance

This project is quite relevant due to the following reasons:

- The importance of conservation for enhancement of tourism and the education and awareness of the people with regard to conservation is recognized in various policy documents including the I-PRSP (Interim-Poverty Reduction Strategy Paper), ERS (Economic Recovery Strategy), the Vision 2030 and the draft Wildlife Policy.
- One of the priority themes in Japan's ODA Charter and ODA Medium Term Policy is global issues which includes environmental problems.
- Considering the seriousness of human-wildlife conflict and also the need to mitigate it and hence conserve wildlife, it is essential that the capacity of KWS officers engaged in education activities be strengthened.
- Generally the project covers the necessary outputs for the achievement of the project purpose.

The development of the education strategy (Output 1) and the capacity development of education officers through training (Outputs 2 and 3) forms a solid base for the achievement of the project purpose.

(2) Effectiveness

The effectiveness is quite good and the possibility of achieving the Project purpose is high:

- It is commendable that Output 1 has already been realized and out of 30 activities planned in the first year of implementation of the Conservation Education Strategy (2006-2011), 24 activities have started and the rest are expected to commence before the end of the project.
- Positive progress has been made with regard to the contribution of Output 2 and 3 towards achievement of the Project purpose.
- Quite a number of officers trained are now able to make education tools and produce materials utilizing what they have learnt in the trainings. The level of utilization of equipment is quite high especially in Nairobi.
- Collaboration with other departments particularly with the community wildlife service department has been enhanced both at the HQ and in the national parks and also with other organizations such as WCK and NMK. However, greater collaboration with the KWS research department is desirable.
- The establishment of an education department that coordinates all education activities in the country had a positive influence on the project implementation. It is expected that this will further enhance the project's activities.
- Though most staff have been retained in their current positions, more staff for education activities are required in the various stations especially at the Coast so that they can concentrate on education activities.

(3) Efficiency

The efficiency of the Project is fairly good. Output 1 is fully achieved and the results of Outputs 2 and 3 are encouraging. The following observations were made:

- The inputs were provided as planned and were appropriate and adequate. Equipment previously provided to KWS through Japanese ODA was utilized by the Project in addition to those provided during the project. Japanese volunteers (JOCVs and SVs), a Japanese intern and Kenyan students on attachment also assisted in conducting some activities.
- The training sessions were relevant and met the needs of the counterparts and participants.
- Since the education department at KWS HQ was fully established, it has been promoting the implementation of the Project.
- There was some delay in expansion of the multimedia office which resulted in lack of utilization of the audiovisual equipment purchased by the Project for some time. However, the equipment is now being fully utilized.
- Smooth flow of the progress of the project was interrupted by the frequent transfer of key education staff.
- There have been constraints experienced by the Project in monitoring the implementation as the target area is quite vast and an appropriate monitoring method had not been developed. High priority was also placed on other activities in the course of project implementation.

(4) Impact

The impact of the project has been quite positive and there is possibility of realizing the overall goal to some extent in the long run. This is due to the following:

- It is expected that communities will become increasingly aware of the importance of conservation both as a result of the Project and also the continuous activities of KWS and other organizations such as NGOs.
- Increasing number of schoolchildren are being exposed to environmental conservation education than before. The inculcation of such values at such an early age is expected to have positive effects in the future.
- Emphasis of conservation education in the draft Wildlife Policy is expected to give more weight to the Conservation Education Strategy and enhance participation by communities in conservation activities.
- Movement towards achievement of the overall goal will have the ripple effect of mitigating human-wildlife conflict and environmental degradation hence improving living standards. This coupled with the improvement of the capacity of education officers will also enhance tourism in the country.

(5) Sustainability

It is expected that the project activities can be sustained to some extent:

- From the institutional point of view, KWS has already established an education department at HQ level to coordinate and supervise all education activities countrywide. Conservation education is also emphasized in the draft Wildlife Policy. It is expected that this will enhance the possibility of continuation of the activities.
- With regard to the financial aspects, it is expected that KWS will allocate a budget for education activities and training to education related officers after the termination of the Project.
- Concerning the capacity of KWS officers, it is expected that the counterparts and training participants will internalize the knowledge gained through the Project and transfer it to other categories of officers, Rangers, management trainees and Kenyan students on attachment.

3 Factors Promoting the Achievements

(1) Factors Concerning Planning

- In the course of implementation of the Project, Japanese Volunteers (JOCVs and SVs) supported education related officers to conduct education activities at the field, which promoted the progress of the Project.
- Equipment previously provided to KWS through Japanese ODA was utilized by the Project in addition to those provided during the project.

(2) Factors Concerning the Implementation Process

- Joint Coordination Committee (hereinafter referred to as JCC) had been held once a year for project monitoring among JICA expert, counterparts, JICA office and concerned agencies since commencement of the Project. After all the trainings, JICA expert and counterparts who

organized the trainings conducted post-mortem meetings and the results were utilized for improvement of the next training.

- In the course of implementation of the Project, Rangers, Japanese intern on attachment and Kenyan students on attachment supported education related officers to conduct education activities at the field, which promoted the progress of the Project.

4 Factors Inhibiting the Achievement

(1) Factors Concerning Planning

- Monitoring of the progress of the project has also not been implemented so frequently due to the vast area covered. High priority was also placed on other activities in the course of project implementation. It is expected that the monitoring tool being developed will counter this problem.

(2) Factors Concerning the Implementation Process

- Frequent transfer of counterparts affected the implementation of the Project. The Project members requested KWS HQ to reconsider its frequent transfer of the counterparts after which KWS positively responded.
- There was also lack of clarity concerning the management of the project during the establishment of the education department at KWS HQ. However, after establishment of the education department as a result of implementation of the KWS Strategic Plan, the department was mandated to coordinate and monitor all the education activities in the country. This has enhanced implementation of the Project.

5 Conclusion

- Since the inputs from Japanese and Kenyan side have been properly provided based on PO at an appropriate timing, it is recognized that activities under the three Outputs will continue to be performed until the termination of the Project. Some impact of the Project was also evident from the enhancement of awareness and activities on the ground of communities and other conservation education related institutions.
- Due to the delays experienced in the formulation of the KWS Strategic Plan, the formulation of Conservation Education Strategy and institutionalizing the education department delayed at the initial stage. In addition, the frequent transfer of education related officer during the first half of the project period hampered the smooth implementation of the Project. However, it can be concluded that the project purpose will be attained by the time of the termination since the above-mentioned difficulties have been overcome through the tireless efforts of member of the Project.
- Under every evaluation criteria such as Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact and Sustainability the results were considerably favourable. In the case of Nairobi, the training workshops conducted by the Project motivated the staff to produce attractive material for

exhibition and resulted in the substantial improvement of the Information Centre at the Animal Orphanage and the Education Centre. The Children Museum at the Safari Walk was also reopened.

- In course of the Project implementation, Japanese Volunteers, a Japanese intern on attachment, rangers, and Kenyan students attached to KWS supported education related officers to conduct education activities in the field and promoted the progress of the Project.

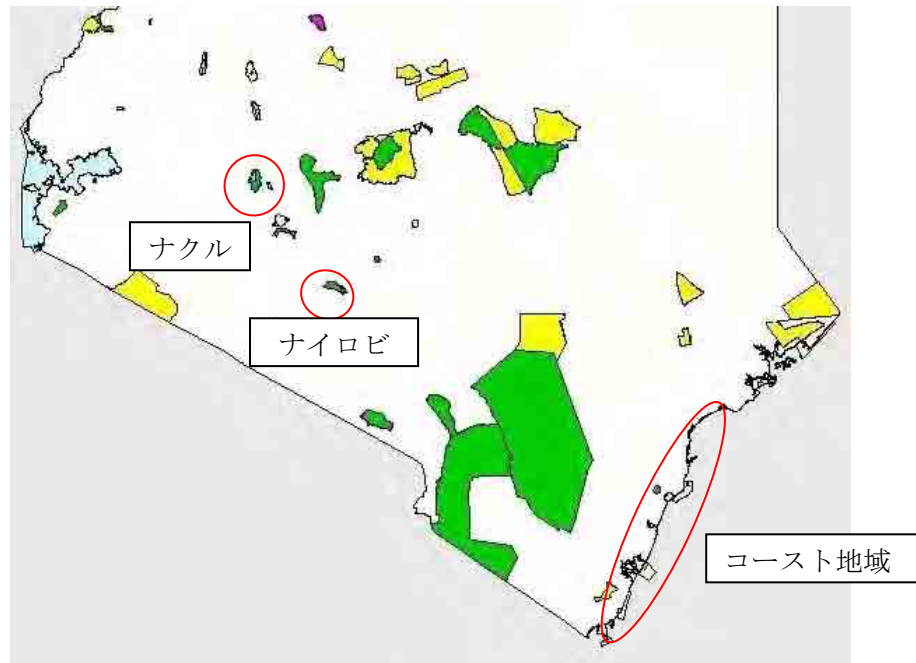
6 Recommendation

- In order to enhance further the conservation education, it is necessary to increase the number of education officers and education related officers who can spend their time more for conservation education. Especially at the coast, the deployment of additional education officers is critically essential. After the deployment of KWS counterpart staff in the various areas, JICA is expected to continue partnering with KWS to implement the conservation strategy through the despatch of Japanese volunteers. In order to get maximum benefits from the assignment of Japanese volunteers, KWS should develop a strategy for their assignment of volunteers.
- The monitoring and follow-up to the training participants were not so frequently implemented except in Nairobi since other activities were given high priority in course of the Project implementation. The monitoring and follow-up to the training participants should be strengthened henceforth under the framework of a monitoring plan which is currently being developed.
- Since the conservation education is associated with not only education officers but also community wildlife service officers, rangers, management trainees and Kenyan students attached to KWS, the training to the above-mentioned should be conducted by the education officers and also released the training materials which were produced by the Project.
- In order to secure the sustainability of the Project, KWS is requested to make necessary budget allocation for conservation education in line with the Conservation Education Strategy in the current Kenyan financial year after the termination of the Project in February 2008 and the coming financial year which commences from July 2008.
- The education centres in the Project target areas can be further improved and developed by KWS to become reference points for centres in other parts of the country.

7 Lessons Learned

- Formulation of the Project was well aligned to national policies, the institution's policy and high commitment by the top management. The Project activities have been also mainstreamed into the counterpart organization's activities. As a result, the Project was smoothly and efficiently implemented.
- In order to internalize knowledge and skills learnt, interaction, exposure and participation proved to be highly effective learning methods for conservation education.

プロジェクト位置図



○ プロジェクト対象地域

写

真



2007 年 9 月 6 日観光野生生物省表敬訪問



プロジェクト供与の視聴覚機材の説明をする KWS スタッフ



ナイロビサファリウォーク内子ども博物館で子ども達にハンズオンマテリアルを使って説明する KWS スタッフ



作成された教材の一部
ナイロビサファリウォーク用ネイチャーカレンダー、ティーチャーズガイド



ナクル湖国立公園で作成された教材



2007 年 9 月 12 日 JCC におけるミニッツ署名

目 次

序 文

略語表

評価結果要約表

プロジェクト位置図

写 真

第一章 評価調査の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成と調査期間	2
1-3 主要面談者	3
第二章 終了時評価の方法	6
2-1 評価方法	6
2-2 主な調査項目と情報・データ収集方法	6
2-2-1 主な調査項目	6
2-2-2 データ収集方法	7
2-3 評価調査の制約	7
第三章 プロジェクトの実績・成果と実施プロセスの調査結果	8
3-1 プロジェクトの実績	8
3-1-1 投入実績	8
3-2 プロジェクト成果の達成状況	9
3-3 プロジェクト目標の達成度、上位目標の達成見込み	11
3-4 プロジェクトの実施プロセス	12
第四章 評価結果	14
4-1 評価 5 項目の評価結果	14
4-1-1 妥当性	14
4-1-2 有効性	14
4-1-3 効率性	15
4-1-4 インパクト	16
4-1-5 自立発展性	17
4-1-6 阻害・貢献要因の総合的検証	17
4-2 結論	19
第五章 提言と教訓	20
5-1 提言	20
5-2 教訓	20
5-3 フォローアップ状況	21

付 属 資 料

1. ミニッツ.....	25
2. インタビュー結果.....	65
3. アンケート調査結果.....	89

第一章 評価調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

ケニア国は、世界でも有数の豊かな野生生物・生態系を有し、国内で 27 箇所の国立公園及び 34 箇所の国立保護区を設けている。同国では、野生生物を見せるサファリを中心とした観光業が重要な外貨獲得源となっており、これらの天然資源の保全及びそれらを活用した観光業の発展を奨励している。同国 I-PRSP（Interim Poverty Reduction Strategy Paper）及び ERS（Economic Recovery Strategy）においても、観光資源の保全の重要性が謳われている。

同時にかかる保護地域においては、森林、海洋資源、マングローブ林などが含まれており、同国の貴重な水資源地保全、持続可能な漁業資源の利用にも貢献している。天然資源の維持管理の観点から、同国 I-PRSP において生態系保全の重要性に関する市民への教育の必要性も認識されている。

これら公園・保護区を管理しつつ、野生生物・天然資源の持続的な保全管理を担当するのが、1989 年に独立採算制の公社として設立されたケニア野生生物公社（Kenya Wildlife Service : KWS）である（うち、17 箇所は地方自治体主管）。KWS は野生生物保全及び住民の社会経済的活動との軋轢軽減に取り組むことから環境教育にも従事し、生態系保全と住民の生活向上の両立を図ることで、貧困削減にも貢献している。

しかしながら、1970 年代の狩猟禁止以降も野生生物及び野生生物生息地の減少が確認されており、密猟についても、1970 年代に深刻化した象牙や犀角目当ての大規模な密猟は影を潜めたものの、食傷肉を得るための小規模な密猟は引き続き発生している。また、人口増加、経済活動の拡大、土地利用制度の変更、度重なる旱魃などから、周辺住民と野生動物の間における軋轢はますます深刻化している。野生生物による人的、物的被害は同国のマスコミにも頻繁に取り上げられており、ケニア国民の野生生物及び国立公園などに対する敵対心が増長される場合もある。

日本政府は、1978 年から自動車整備を中心に青年海外協力隊を派遣し、1992 年には車輛・建設機械の無償資金協力を実施した。1992 年からはソフト面を重視し、保護計画、環境教育、視聴覚機材の分野における専門家及び協力隊派遣を展開している。2003 年 3 月から「野生生物保護教育計画」個別専門家を KWS に派遣し、「環境教育」、「視聴覚機材」等海外ボランティアを派遣している。なお、環境教育分野に対する支援としては、生態系及び文化に関する豊富な知的資源を有するケニア国立博物館（National Museum of Kenya:NMK）に対しても専門家派遣の実績がある。

これらの協力を通して、KWS の野生生物保全教育活動を強化し、その施設を有機的に有効活用することが望まれている。これにより、市民や観光客に対する効果的な野生生物保全教育を促進し、生態系保全に対する人々の意識が向上することが期待される。しかしながら、かかる体制整備は不十分であり、ケニア政府は KWS 本部及び地方の国立公園、博物館、関連 NGO に派遣しているボランティアとの連携を深め、効果的な自然保護教育の実施能力向上を目的とした技術協力プロジェクトを我が国に要請した。

我が国は右要請を踏まえ、2004年10月に事前評価調査団を派遣し、2005年2月に実施協議録が交わされた。本プロジェクトは、KWS をカウンターパート（C/P）機関として、2005年2月より3年間の予定で実施されており、現在、1名の日本人長期専門家（野生生物保全教育）を派遣中である。

今回の終了時評価では、2008年2月のプロジェクト終了に向け、相手国政府関係者とこれまでの実績を確認し、評価5項目の観点から評価を行い、終了までに向けた活動に関する提言や得られた教訓を取りまとめることを目的とする。

1-2 調査団の構成と調査期間

(1) 調査団構成

1) 日本側

	担当分野	名 前	現 職
(1)	総括／事業評価	狩野 良昭	JICA ケニア事務所 所長
(2)	評価計画	江崎 千絵	JICA ケニア事務所 所員
(3)	協力計画	足立 佳菜子	JICA 地球環境部 職員
(4)	評価分析 1	新谷 彰	(株) 三祐コンサルタンツ
(5)	評価分析 2	John N. Ngui	JICA ケニア事務所 シニアプログラムオフィサー

2) ケニア側

	担当分野	名 前	現 職
(1)	総括	Kipkorir Lagat	Senior Deputy Director of Tourism, Ministry of Tourism and Information
(2)	—	Margaret Ndung'u	Corporate Planning Manager, Kenya Wildlife Service

(2) 調査期間

2007年8月25日 ～ 9月12日（合同評価は9月6日から）

		【ケニア事務所】 総括、評価計画 評価分析 2	【役務コンサルタント】 評価分析 1	【地球環境部】 協力計画	場所
8/25	土		日本発		
8/26	日		ケニア着		
8/27	月	9:00 JICA ケニア事務所との打合せ	10:30 KWS 本部表敬、評価手順 説明、専門家・CP インタビュー、 教育関連施設視察		ナイロビ
8/28	火		9:30 KWS 本部スタッフ インタビュー 15:00 NMK スタッフインタビュー		ナイロビ

8/29	水		9:30 WCK インタビュー ナクルへ移動 14:30 KWS リフトバレー インタビュー		ナクル
8/30	木		9:30 KWS ナクル、JOCV インタ ビュー 14:00 住民インタビュー		ナクル
8/31	金		9:30 SUMAWA、MCN、NEMA 調査、ナイロビへ移動 16:00 KWS 本部 視聴覚担当イン タビュー		ナイロビ
9/1	土		資料とりまとめ	日本発	ナイロビ
9/2	日		資料とりまとめ	ケニア着	ナイロビ
		16:00 コースト地域の JOCV インタビュー			
9/3	月		8:30-9:30 モンバサへ移動(KQ602) 10:30 KWS コースト、KWS モンバサインタビュー 14:00 NMK、WCK インタビュー		モンバサ
9/4	火		9:30 KWS ワタム、KWS アラブコソコケ インタビュー、ワタムへ移動 14:00 KWS ワタムスタッフ、WTW、ア・ロチャ・ ケニア、MCCC インタビュー、マリンディへ移動		モンバサ/ ワタム
9/5	水		9:30 KWS マリンディ、ボートオペレーター、 ケニアマリンフォーラムインタビュー、グラス・ボト ム・ボート視察 14:40-15:50 ナイロビへ移動(KQ614)		マリンディ
		17:00 JICA 事務所との打合せ			ナイロビ
9/6	木	10:00 観光省表敬、11:00 KWS 表敬 14:00 KWS ナイロビ 教育関連施設視察、インタビュー			ナイロビ
9/7	金	KWS ナクル視察・インタビュー			ナクル
9/8	土	評価レポート準備			ナイロビ
9/9	日	評価レポート準備			ナイロビ
9/10	月	評価レポート案協議			ナイロビ
9/11	火	評価レポート案に関する観光省、KWS 内での確認、JCC 準備			ナイロビ
9/12	水	10:00 JCC M/M 署名 16:00 大使館報告			ナイロビ

1-3 主要面談者

(1) ケニア側

【観光野生生物省 (Ministry of Tourism and Wildlife : MoTW)】

Mr. P.N. Gakure Deputy Secretary

Mr. Kipkorir Lagat Senior Deputy Director of Tourism

【ケニア野生生物公社 (Kenya Wildlife Service : KWS)】

1) KWS 本部

Mr. Dickson Lesimirdana Assistant Director, Wildlife Protection Unit
Mr. Paul Mbugua Assistant Director, Conservation Education Department
Ms. Mary Njeri Kirabui Senior Warden, Conservation Education Department
Mr. Obed Mui Mule Multimedia Officer, Conservation Education Department
Mr. Charles Ooro Multimedia Officer, Conservation Education Department
Mr. Dickson Katoliki Ritan Programs Development Officer, Headquarters
Mr. Joseph V. Onyango Human Capital Manager , Headquarters
Dr. Charles Musyoki Senior Scientist, Headquarters

2) KWS 南部地区

Mr. Richard Obanda Senior Warden, Nairobi Safari Walk/Animal Orphanage
Mr. Eunice W. Kiarie Warden, Nairobi Safari Walk/Animal Orphanage
Dr. Edward Kariuki Curator, Nairobi Safari Walk/Animal Orphanage
Mr. Samuel Njoroge Customer Service Coordinator, Nairobi Safari Walk/Animal Orphanage
Mr. Jackson Asila Naturalist, Nairobi Safari Walk/Animal Orphanage
Ms. Mary W. Chege Naturalist, Nairobi Safari Walk/Animal Orphanage
Mr. Lenard Kiriamia Animal Keeper, Nairobi Safari Walk/Animal Orphanage
Mr. Kivondo Mumo Pen Attendant, Nairobi Safari Walk/Animal Orphanage

3) KWS リフト・バレー地区

Mr. Charles K. Muthui Senior Warden, Lake Nakuru National Park
Ms. Elema Hapicha Assistant Warden, Lake Nakuru National Park
Mr. Andrew K. Mwaka Ranger, Lake Nakuru National Park

4) KWS コースト地区

Mr. Philip E. Mwakio Assistant Director, Mombasa Headquarters
Mr. Yussuf Adan Wato Warden, Mombasa Headquarters
Mr. Arthur Tuda Warden, Mombasa Marine National Park
Mr. D.K. Gitau Warden, Watamu Marine National Park
Mr. Hamisi Chuma Corporal, Watamu Marine National Park
Ms. Grace Kariuki Assistant Warden, Arabuko Sokoke National Park
Mr. Joel O. Nyika Tourism Officer, Malindi Marine National Park

【ケニア国立博物館 (National Museum of Kenya : NMK)】

Mr. John Gitabi Kimotho Chief Audiovisual Officer, Audiovisual Department
Mr. Mark Ng'ang'a Kamau Audiovisual Officer, Audiovisual Department
Mr. Caleb Sonye Audiovisual Officer, Audiovisual Department
Mr. Hassan Mohamed Education Officer, Fort Jesus Museum

【国家環境管理局 (National Environmental Management Authority : NEMA)】

Ms. Sally Kibos District Environmental Officer, Nakuru District

【ナクル市役所 (Municipal Council of Nakuru : MCN)】

Mr. S.C. Kiarie Head, Environmental Department

【ケニア野生生物クラブ (Wildlife Clubs of Kenya : WCK)】

Mr. Eric M.S Deche Programme Officer, Headquarters

Ms. Khadija S. Shirazy Conservation Education Officer, Mombasa Office

【SUMAWA プロジェクト (SUMAWA Project)】

Dr. Patterson Poli Semenye Project Coordinator, Egerton University

【ワタム・タートル・ウォッチ (Watamu Turtle Watch : WTW)】

Mr. Steve Trott Project Manager

【ア・ロチャ・ケニア (A Rocha Kenya)】

Mr. Colin Jackson Director

【ケニア・マリン・フォーラム (Kenya Marine Forum : KMF)】

Mr. Athman Seif Executive Director, Headquarters

【国立公園周辺住民グループ】

Kiro Moja Village (Nakuru)

Mida Creek Conservation Committee (MCCC) (Watamu)

Boat Operators (Malindi)

(2) 日本側

【在ケニア日本大使館】

大石 智弘 一等書記官

【プロジェクト専門家】

新田 和弘 野生生物保全教育

【シニアボランティア】

岡部 繁勝 視聴覚教材作成 (KWS HQ)

【青年海外協力隊 (JOCV)】

五反田 環 環境教育 (KWS LNNP)

森川 彰 生態調査 (KWS LNNP)

平沢 幸子 環境教育 (KWS Kisite Mpungti)

戸田 佳絵 村落開発普及員 (KWS Watamu)

松江 真美 環境教育 (WCK Mombasa)

第二章 終了時評価の方法

2-1 評価方法

本調査は、日本側メンバーとケニア側メンバーからなる合同評価調査団を構成し実施し（1-2 参照）、「JICA 事業調査ガイドライン—プロジェクト評価の実践的手法」（2004 年）に基いて、プロジェクト終了前 6 ヶ月の時点における活動状況と Project Design Matrix(PDM) に記載された指標の達成状況の把握、残りのプロジェクト期間とプロジェクト終了後の活動についての提言、教訓を導き出すことを目的として実施された。プロジェクトの実績と達成状況を確認した後、評価 5 項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の視点からの評価を行い、また阻害要因および貢献要因の検証を行った。最後に、これらの結果に基づき今後に向けての提言と教訓を導き出した。

2-2 主な調査項目と情報・データ収集方法

2-2-1 主な調査項目

主な調査項目は、プロジェクトの実績と実施プロセスに加え、妥当性、有効性、効率性、インパクトおよび自立発展性である。これらの詳細は評価グリッド（添付資料 1 ミニッツ添付の評価レポート Annex4 参照）に示すとおりである。

評価 5 項目のそれぞれにおける評価基準は以下のとおりである。

(1) 妥当性

プロジェクト目標と上位目標は受益者のニーズおよびケニア国・日本側の政策と合致しているか、また、プロジェクトの計画は論理的に矛盾していないかを確認した。

(2) 有効性

調査時における成果の達成状況、およびプロジェクト終了時におけるプロジェクト目標の達成見込みの他、プロジェクトの計画の有効性を確認した。

(3) 効率性

投入と成果の関係に着目し、プロジェクト実施の効率性を確認した。具体的には、投入の時期と数量が適切性や、プロジェクトと他の機関との間における重複の有無などを確認した。

(4) インパクト

プロジェクト実施によりもたらされた、またはもたらされるであろう正・負の直接的・間接的なインパクトを確認した。これらのインパクトにはプロジェクトの計画段階では予期できなかったものも含む。加えて、上位目標の達成見込みとそれに対するプロジェクトの寄与の度合いも確認した。

(5) 自立発展性

プロジェクトにより達成されたことの維持・拡大が、プロジェクト終了後にどの程度まで期待できるのかを、組織、財務、技術および社会・環境の面から確認した。

2-2-2 データ収集方法

上記の調査項目に関する情報・データは、以下の方法により収集した。

1) 既存資料のレビュー

討議議事録（R/D、2005年2月締結）、PDM（2005年2月）、PO（2006年9月改訂）日本人専門家によるプロジェクト事業報告書と仮評価表（2007年7月作成）、その他のプロジェクト関連文書をレビューした。

2) 関係者への質問票調査とインタビュー調査

日本人専門家（長期）、ケニア側カウンターパートであるケニア野生動物公社（KWS）スタッフ、シニアボランティア・青年海外協力隊、ケニア野生生物クラブ、ケニア国立博物館等関連機関に対し事前に質問票を配布し、それに基づいて関係者にインタビューを行った。

3) 現地視察の実施

9月6日（木）にナイロビ・サファリウオーク、動物孤児院、マルチ・メディアオフィスの視察、9月7日（金）にナクル湖国立公園教育センターを視察すると共に、ケニア側カウンターパートに対するインタビューを実施した。

4) ケニア側カウンターパート・日本人専門家との協議と評価結果ミニッツの作成

9月6,10日に、評価グリッドを元に協議を行い、以上の評価プロセスを経て、合同評価団メンバーによる評価報告書とミニッツを作成し、ケニア側カウンターパート及び日本人専門家への説明を行った。

5) 合同調整委員会（Joint Coordinating Committee : JCC）開催

9月12日（水）、観光野生生物省（MoTW）次官補による議長のもと、合同調整委員会が開催された。この場において合同評価調査団より評価結果が報告され、合同評価調査団として評価報告書（Evaluation Report）が署名されたのに続き、ケニア側（MoTW・KWS）と合同評価調査団総括の間で署名された。

2-3 評価調査の制約

特になし。

第三章 プロジェクトの実績・成果と実施プロセスの調査結果

3-1 プロジェクトの実績

3-1-1 投入実績

【日本側】

(1) 長期専門家派遣

延べ 2 名（野生生物保全教育／国立公園管理、野生生物保全教育）が派遣された。

(2) 短期専門家派遣

延べ 3 名（野生生物保全教材作成、保全教育教材作成指導）が派遣されており、2007 年 9～10 月には更に 1 名（コミュニティと保全教育）の派遣が予定されている。

(3) 日本におけるカウンターパート研修

延べ 7 名（KWS から 5 名、ケニア国立博物館から 2 名）が日本での短期研修に参加した。研修コースは、教育・普及用のビデオ制作、自然体験による環境教育、および持続的開発のための環境教育の 3 コースである。また、プロジェクトの終了までに、更に 2 名が研修に参加する予定である。その他、1 名が長期研修に参加し、京都大学で野生動物保全教育の博士号を取得した。

(4) 第三国におけるカウンターパート研修

3 名が、2005 年 2 月にマレーシアで開催されたボルネオ生物多様性・生態系保全プログラム（BBEC）国際セミナーに参加した。

(5) 機材供与

2007 年 8 月末までに、合計 5,241 千 ksh（約 8,460 千円）の機材がプロジェクトの活動実施のために供与された。既に供与された機材には、ビデオ編集機等の視聴覚機材、パソコン、教育用グラスボトムボートおよび動物飼育用機材がある。

(6) ローカルコスト負担

2007 年 8 月末までに、合計 7,933 千 ksh（約 17,871 千円）が現地業務費として支出された。これに 2007 年度に支出予定の費用を加えると、合計 12,663 千 ksh（約 22,336 千円）となる。

【ケニア側】

(1) カウンターパートの配置

プロジェクトダイレクター、プロジェクトマネージャーを始めとして、延べ 43 名のカウンターパートが配置された。

(2) 施設供与

プロジェクト事務所（電気代、水道代および電話代込み）、教育センターおよび車輛が供与された。

(3) ローカルコスト負担

2007 年 6 月末までに、オペレーション／研修・ワークショップの費用として合計 2,462 千 ksh(約 4,275 千円)が支出された。これに 2007 年 7 月以降に支出予定の費用を加えると、合計 3,553 千 ksh（約 6,170 千円）となる。

3-2 プロジェクト成果の達成状況

プロジェクトは PDM および PO に従って実施され、既に成果 1 は達成済みである。成果 2 と成果 3 についても、プロジェクトが終了する 2008 年 2 月までには概ね達成される見込みである。各成果の達成状況を以下に示す。

成果 1：教育実施戦略が策定される。

他部局との連携の下、KWS の教育局は保全教育戦略（2006-2011）を策定した。本戦略は理事会の承認を得た後、2006 年 10 月に公開された。その後、教育局は他部局と連携して本戦略の実施（教育マニュアルやモニタリング計画の作成等）を進めている。

成果 2：教育オフィサーの指導能力が強化される。

PO に従い、計画されていた 18 件の研修・ワークショップのうち 14 件が実施された。これらの研修・ワークショップは教育関連オフィサーの野生生物保全教育の能力強化を目指したもので、その内訳は以下のとおりである。

- ・国内研修・ワークショップ：9 回
- ・短期本邦研修：3 回
- ・長期本邦研修：1 回
- ・マレーシアにおける国際会議：1 回

上記の研修・ワークショップには延べ 249 人の教育関連オフィサーが参加した。その内訳は以下のとおりである。

- ・国内研修・ワークショップ：241 人
- ・短期本邦研修：4 人
- ・長期本邦研修：1 人
- ・マレーシアにおける国際会議：3 人

これらの教育関連オフィサーは、教育プログラムの開発、ハンズ・オン教材（触って学ぶ教材：足型、頭骨の作成等）の作成、展示の方法および教材の解説方法を身に付けた他、

海洋生物、流域管理および持続可能な開発に関する専門知識を得た。研修・ワークショップの後、これらのオフィサーは、各々の国立公園での教育活動にその知識を活用し始めている。

なお、残り 4 件の研修・ワークショップも準備・計画中であり、プロジェクト終了までに順次実施予定である。

成果 3：教育ツール、教材、機材及び施設の適切な開発、使用及び保守管理が向上する。

対象地域の全域において、教育ツールと教材が改善された。ナイロビでは、サファリ・ウォークの自然カレンダーと教師用ガイドが作成された。ナクルでは、インフォメーション資料が作成された他、教育用ビデオと自然カレンダー、教師用ガイドが作成中である。コーストにおいても、教育用ビデオ、ハンズ・オン教材、教育プログラムが作成中だが、人員不足と他業務の多忙が支障となり、ナイロビとナクルに比べると全体に進捗が遅れているが、プロジェクト終了までに教育ツール・教材作成が行われる予定である。

KWS 本部の視聴覚機材に関しては、活動に十分な性能・数量が揃っており、施設に関しても事務所の拡張工事が行われたため十分なスペースを確保している。ナイロビの教育センター、動物孤児院、サファリ・ウォーク、およびナクルの教育センターでは、研修・ワークショップに参加した教育関連オフィサーにより展示の改善がなされた。ナイロビとナクルでは機材、施設ともに充実しているが、一方、コースト地域では全体的に視聴覚機材が現時点では十分とはいえないが、プロジェクト終了までには施設外での教育プログラム用の視聴覚機材が整備される予定である。

対象地域の全域において、教育関連の機材と施設は良好に維持管理されており、使用頻度はプロジェクト開始前に比べて高くなっている。特に、ナイロビの教育センター、動物孤児院、サファリ・ウォーク、およびナクルの教育センターには、毎日多くの学生が訪問することから、これらは有効に利用されている。

視聴覚機材の使用と保守管理に関して、PO で計画されていた 8 件の研修・ワークショップのうち 7 件が実施された。その内訳は以下のとおりである。

- ・国内研修：2 回
- ・短期本邦研修：3 回
- ・現地指導：2 回

上記の研修には延べ 76 人（うち 2 人はケニア国立博物館）の教育関連オフィサーが参加した。その内訳は以下のとおりである。

- ・国内研修／現地指導：73 人
- ・短期本邦研修：3 人

上記の研修により、教育関連オフィサーは教育用ビデオの台本作成および機材の保守管理に関する基礎的な知識・技能を身に付けた。また、視聴覚オフィサーは、ビデオ、ポスターおよびパンフレット等の制作に関する基礎および応用を学び、最新機材を用いて高品質な教材を作成できるようになった。

なお、残り 1 件の研修・ワークショップも計画中であり、プロジェクト終了までに実施予定である。

3-3 プロジェクト目標の達成度、上位目標の達成見込み

(1) プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標の達成状況は良好で、プロジェクトの終了までに概ね達成される見込みである。プロジェクト目標における各指標の達成状況は以下の通りである。

プロジェクト目標：効果的な野生生物保全教育を実施する能力が強化される。

指標 1：教育戦略実施の程度

- ・ 2006 年 10 月に保全教育戦略が策定された後、1 年目に開始を予定されていた 30 件の活動のうち、既に 24 件が開始された。更に 4 件の活動がプロジェクトが終了する 2008 年 2 月までには開始される予定である。また、2 年目に開始を予定されている 6 件の活動も、プロジェクト終了前に開始される予定である。

指標 2：ターゲットエリアにおける教育活動の質・量

- ・ 研修を通じて教育関連オフィサーの能力は強化され、特にコミュニケーションとプレゼンテーションの能力が大きく向上したことが、教育オフィサーへのアンケート結果及び終了時評価調査時の現地調査の結果、確認された。学んだ知識・技術を活かして教材の作成を開始しているオフィサーもあり、全体に教育活動の質は向上している。ナイロビとナクルでは、毎日多くの学生が訪問するため教育活動は頻繁に行われているが、コースト地域では、教育以外の業務が多忙であることや頻繁な異動が支障となり、教育活動に専念できないオフィサーもいる。

指標 3：教育ツール、教材、機材、施設の活用程度

- ・ ナイロビを中心に、教育ツール、教材、機材および施設は良好に使用されており、展示に改善が見られる。また、ナイロビとナクルにおける教育用の視聴覚機材は、以前よりも使用されるようになった。一方で、コーストでは、教育以外の業務の多忙や頻繁な異動が支障となり、教育活動に専念できない教育関連オフィサーもいる。

(2) 上位目標の達成見込み

上位目標は達成の方向に向けて進んでいると言え、長期的には達成可能なものと判断できる。その理由は以下のとおりである。

上位目標：野生生物保全に関するケニア国民の意識が向上し、野生生物保全に参加するようになる。

かつての KWS はコミュニティとの良好な関係を築いていなかったが、1990 年代後半よりコミュニティ支援の取組みを開始したことにより、関係は良好になりつつある。これに加えて、プロジェクトにより教育関連オフィサーのコミュニケーション能力が向上されたことや、コミュニティと KWS との意見交換のワークショップが開催されたことにより、この傾向は更に促進された。

いくつかのコミュニティは周辺の自然環境の劣化に気がつき始めており、中には既に保全活動を開始しているまたは計画している住民組織（CBO）もある。また、KWS を始めとする政府機関や NGO 等によるコミュニティ支援は増加の傾向にある。これらは、プロジェクトによるインパクトと言える部分もあるが、それ以上にプロジェクトが始まる前より関係機関が取り組んできた結果である部分が多い。しかし、プロジェクトを通じて KWS の教育実施能力が強化されたことは、今後、KWS がコミュニティの活動を支援していく上で、大いに役立つものと期待できる。

3-4 プロジェクトの実施プロセス

プロジェクトの実施プロセスは良好で、外的な阻害要因がいくらかあったものの、適切に対応したことにより進捗の遅れを最小限に留めた。以下にその内容を述べる。

(1) プロジェクトの運営管理

JICA 専門家、カウンターパート、JICA 事務所および関係政府機関からなる合同調整委員会（Joint Coordination Committee, JCC）が年に 1 回開催され、プロジェクトのモニタリングが行われた。また、研修・ワークショップの後には参加者への質問票調査と開催者による反省会が毎回行われ、その結果は次の研修・ワークショップの計画・実施に活用された。

ナイロビに比べ、ナクルとコーストでは研修・ワークショップ実施後のモニタリングとフォローアップが十分実施されなかった。この理由としては、プロジェクトの事務所がナイロビにあり地理的に遠かった事に加え、プロジェクトの人員が限られていたことがあげられる。しかし、現在 KWS では保全教育戦略に従いモニタリング計画の作成が進められており、これが完成することによりモニタリング・フォローアップが改善されると期待できる。

(2) カウンターパートの配置

プロジェクト・マネージャーであるアシスタント・ダイレクターが3度も交替するなど、カウンターパートの異動が頻繁であったことは、プロジェクトの実施に支障を与えた。しかし、プロジェクトと JICA 事務所が、カウンターパートの異動を減らすよう KWS に要請したことにより、その頻度は低減された。

プロジェクトの実施中に KWS の機構改革が行われたため、プロジェクトの運営体制が不明瞭になり運営に支障を与えた時期があった。しかし機構改革の結果、本部の教育部局が全国の教育活動を管理するようになったため、その後のプロジェクトの運営体制は以前より向上した。

(3) 日本人ボランティアやその他のスタッフの協力

対象地域内に派遣されているシニアボランティアと青年海外協力隊員、および KWS に配置されたインターン（主に日本人インターン）と KWS のレンジャーが、教育関連オフィサーによる教育活動の支援を行ったことは、成果の達成に影響を与えた。

第四章 評価結果

4-1 評価 5 項目の評価結果

4-1-1 妥当性

本プロジェクトの妥当性は高いと言える。その理由は以下の通りである。

- ・ケニアの開発政策である I-PRSP（Interim Poverty Reduction Strategy Paper: 貧困削減戦略ペーパー）、ERS（Economic Recovery Strategy：経済再生戦略）および Vision 2030 では、観光資源の保全の重要性が謳われており、生態系保全の重要性に関する国民への教育の必要性が認識されている。また、2007 年 5 月に発表された野生生物政策（案）においても、人間と野生生物の軋轢、人材育成および保全教育が主要課題としてあげられている。
- ・日本の ODA 大綱と ODA 中期政策では、重点課題の 1 つに「地球的規模の問題への取り組み」が掲げられており、その中には環境問題が含まれている。また、ODA 中期政策では、環境問題への取り組みの重点分野の 1 つに「自然環境保全」が掲げられている。加えて、2002 年に発表された「持続可能な開発のための環境保全イニシアティブ」(EcoISD) でも、「自然環境保全」は国際環境協力の重点分野の 1 つに掲げられている。外務省による対ケニア国別援助計画及び JICA 国別事業実施計画においても、「環境保全」を重点分野の 1 つとしてかけ、野生生物保護をはじめとする生態系の保護への支援を述べている。
- ・KWS はこれまで教育関連オフィサーの能力向上に力を入れていなかったが、人間と野生生物の軋轢を緩和するためには、住民に対して野生生物保全の重要性を伝える教育が重要であり、従って野生生物保全に携わる教育関連オフィサーの能力向上は急務である。
- ・全般的にプロジェクト目標達成のために必要な成果が設定されていた。すなわち、教育戦略の策定と研修を通じた教育関連オフィサーの能力開発は、プロジェクト目標達成にあたっての確固たる基礎となっている。

4-1-2 有効性

本プロジェクトの有効性は高く、プロジェクト終了時までにプロジェクト目標は概ね達成される見込みである。その理由は以下の通りである。

- ・2006 年 10 月に保全教育戦略（2006-2011）が策定された。同戦略の 1 年目に予定されている 30 件の活動のうち 24 件は既に開始され、更に 4 件がプロジェクト終了までに開始される見込みである。
- ・研修・ワークショップの結果、教育関連オフィサーの多くが教育ツールや教材を作成する技能を身に付け、特にナイロビとナクルではそれを活かして教育活動が頻繁に行われている。コースト地域での成果発現は多少遅れがちであるものの、プロジェクト終了ま

でに予定されている視聴覚機材整備や教育ツール・教材作成、及び地域のステークホルダーや JOCV との連携により、今後教育活動の活性化が期待される。

- ・ナイロビでは教育ツール、教材、機材および施設の使用頻度は高く管理状態も良い。また、施設や展示の改善もよくなされている。ナクルにおいても同様な傾向が見られ、残りのプロジェクト期間に更なる改善が期待される。
- ・KWS における教育部局とコミュニティ野生生物部局との連携は、本部および国立公園事務所ともに向上した。また、KWS とケニア野生生物クラブやケニア国立博物館など他機関との連携も向上した。一方で、KWS における教育部局と調査部局との連携については、今後も更なる向上が望まれる。
- ・KWS の機構改革により、本部の教育部局が全国の教育関連活動を管理するようになり、より包括的な計画の下で教育活動を実施できる体制が整った。
- ・外部条件である KWS 内の他部局からの支援もプロジェクト実施期間中得られ、プロジェクトからの提言により人事異動の頻度も下がり、プロジェクト実施に必要な人的・資金的資源も投入された。
- ・結果として、野生生物教育を効果的に実施していくための KWS の制度的能力は強化されていると言える。

4-1-3 効率性

本プロジェクトの効率性は高く、成果 1 は既に達成され、成果 2 および 3 はプロジェクト終了までに達成されると見込まれる。その理由は以下の通りである。

- ・投入は計画どおり適切に行われた。また、過去に文化無償など日本政府から供与された機材を有効に活用することにより、プロジェクトによる機材の供与を最小限に抑えた。同様に、対象地域内に配属されたシニアボランティアや青年海外協力隊との連携や、KWS に配置されたインターン（主に日本人インターン）の協力により、効率的な協力が実施できた。
- ・研修とワークショップの内容はカウンターパートおよび教育関連オフィサーのニーズに適合しており、講師となる専門家等が工夫を凝らすことにより、実践的なものとなった。
- ・プロジェクトの実施中に KWS の機構改革が行われたため、プロジェクトの運営体制が不明瞭になり運営に支障を与えた時期があった。しかし機構改革の結果、本部の教育部局が全国の教育活動の管理するようになったため、その後は以前より効率的に運営されるようになった。

- ・本部へ視聴覚機材を供与した後に事務所の拡張が行われたが、その工事が遅れたため一時期、機材の使用頻度が下がった。しかし、工事の終了後は、以前よりも効率的に業務を行えるようになった。
- ・プロジェクト開始時には KWS 中期戦略の策定が進められていたため、保全教育戦略の策定が遅れた。しかし、KWS 中期戦略の策定後には順調に保全教育戦略の策定が進められた。
- ・プロジェクト・マネージャーであるアシスタント・ダイレクターが3度も交替するなど、カウンターパートの異動が頻繁であったことは、プロジェクトの活動に支障を与えた。しかし、プロジェクトと JICA 事務所が KWS に対して要請したことにより、異動の頻度は低減された。
- ・プロジェクトの対象地域が広範であったことに加え、適切なモニタリング方法が定まっていなかったため、ナクルとコーストでは研修・ワークショップ後のモニタリング・フォローアップの実施には制約があった。しかし、現在 KWS では保全教育戦略に従いモニタリング計画の作成が進められており、これが完成することによりモニタリング・フォローアップが改善されると期待できる。

4-1-4 インパクト

プロジェクトのインパクトは大きく、長期的には上位目標の達成も見込まれる。その理由は以下の通りである。

- ・いくつかのコミュニティは周辺の自然環境の劣化に気がつき始めており、既に保全のための活動を開始している人達もいる。こうした動きは主にプロジェクトが始まる前から関係者の取組みの結果であり、全てがプロジェクトのインパクトによるというわけではない。しかし、プロジェクトを通じて KWS の教育実施能力が強化されたことは、今後、KWS がコミュニティの活動を支援していく上で大いに役立つと期待できる。また、保全の結果、コミュニティが経済的な利益を得ることができれば、更に保全活動は促進されると期待される。
- ・プロジェクトでは住民、子ども、観光客等ターゲット別に明確なメッセージをもった教育の重要性を伝えており、特により多くの子どもたちが野生生物保全教育を受けることにより、彼らが大人になった時、より積極的に野生生物の保全活動に参加するようになると期待できる。
- ・2007 年 5 月に発表された野生生物政策（案）において保全教育の重要性が明記されていることから、保全教育戦略がより重要視されることが期待され、またコミュニティの保全活動への参加が促進されると考えられる。

- ・教育関連オフィサーの能力向上をうけた上位目標の達成に向けた動きは、人と野生生物との軋轢や環境劣化の緩和、更には人々の生活水準の改善という波及効果をもたらすと予測され、観光業の促進も期待される。

4-1-5 自立発展性

本プロジェクトには自立発展性が期待できる。その理由は以下の通りである。

- ・KWS 機構改革の結果、本部の教育部局が強化され全国の教育活動を管理するようになった。また、野生生物政策（案）においても保全教育は重要視されている。これらのことから、今後も KWS が教育活動を継続的に実施していくと期待できる。
- ・2008 年 2 月のプロジェクト終了後も、KWS は教育活動および教育関連オフィサーへの研修のための予算を計上する予定であることが KWS 側より表明されており、また教育関連オフィサーの人員増加も検討されていることから、組織制度的な自立発展性が見込める。
- ・プロジェクトにより技術移転を受けたカウンターパートおよび研修に参加した教育関連オフィサーの多くは、研修・ワークショップで学んだことを同僚と共有しており、今後も他のオフィサーや職員に技術移転を行う人材として活躍すると期待できる。
- ・また、KWS 本部教育部局スタッフはプロジェクトを通じて研修・ワークショップの企画・運営方法を学んでおり、訓練ニーズに基づいた研修・ワークショップが今後も実施されていくことが期待できる。

4-1-6 阻害・貢献要因の総合的検証

(1) 計画内容に関するもの

本プロジェクトでは、対象地域に派遣されているボランティアとの連携により、教育活動がより効果的に促進された。具体的には、ナイロビではシニアボランティアが視聴覚オフィサーに対する技術移転を促進し、ナクルとコーストでは青年海外協力隊員が教育関連オフィサーの活動を支援した。ボランティアとカウンターパートが一緒に本プロジェクトの研修を受ける機会を与えることにより、研修終了後、教育関連オフィサーの活動を現場で支援することにつながり、成果の達成に貢献した。他方、教育関連オフィサーが自分でするはずの教育活動をボランティアに過剰に頼るケースも見受けられた。よって、今後プロジェクトと連携してボランティアを派遣する場合は、配属先に対し、ボランティアがカウンターパートと一緒に業務を行う意義を伝えていく必要がある。

また、過去に無償資金協力等により供与された機材を活用したことは、少ない投入による成果の達成に貢献した。

他機関との連携を計画に盛り込んだことにより、教育活動がより効果的に促進された。例えば、ケニア野生生物クラブ（WCK）の教育オフィサーは研修講師やワークショップの参加者としてプロジェクトに参加し、ケニア国立博物館（NMK）の視聴覚オフィサーは研修・ワークショップの参加者として参加した。この中で、各機関がそれぞれの強みと弱みを把握し、お互いに補うようになった。また、組織間の交流が活性化されたことにより、今後も教育活動における連携が継続していくと期待できる。

その他、教育のプロセスにおいて、座学のみならず、先進地域の視察、参加型の手法を取り入れることにより、参加者の理解が深まり、学んだことの実践につながった。

(2) 実施プロセスに関するもの

プロジェクトが開始してしばらくの間は、異動によるカウンターパートの変更が目立った。特にプロジェクト・マネージャーであるアシスタント・ワーデンが 3 度も変更した事は、プロジェクトの進行に支障を与えた。しかし、異動の際に業務の引継ぎが円滑に行われた事や、プロジェクトと JICA 事務所がカウンターパートの異動を減らすよう KWS に申し出て、それが受け入れられた事により、全体で見ると大きな負の影響は出なかった。

プロジェクトが開始してしばらくの間、KWS の機構改革が進みプロジェクトの運営体制が不明瞭になった事があり、これがプロジェクトの進行に支障を与えた。しかし、機構改革が一通り実施された結果、KWS 本部の教育部局が強化され、全国の教育活動を担当するようになった。この結果、以前より KWS の教育活動の実施体制は良好になった。

研修の計画・実施において、学んだ事が現場で確実に実践されるための工夫がなされ、その効果は十分に発揮された。例えば、参加者が研修中に教材作成を行うようにしたことにより、研修で学んだことがより早く現場で実行された。また、対象地域以外の教育関連オフィサーを研修に招待した事により、オフィサーの頻繁な異動による負の影響が緩和された。その他、KWS に配置されたインターン（主に日本人インターン）の協力を得た事は、教材作成や保全教育の実施にあたってプロジェクトの進捗促進に寄与した。

対象地域における教育活動のモニタリング／フォローアップが一部で不十分であった一方、プロジェクトの運営や活動のモニタリングは全体に良好であった。このことは、プロジェクトの順調な進捗を促進した。例えば、年に 1 回の合同調整委員会（JCC）ではプロジェクト全体のモニタリングが行われ、その結果が次期の活動計画に反映された。また、研修・ワークショップの後に毎回実施された参加者への質問票調査および関係者の反省会は、次の研修・ワークショップの計画に反映された。

4-2 結論

日本側およびケニア側からの投入は、活動計画表（PO）に従い数量・時期ともに適切に行われている。したがってプロジェクト終了までの活動は順調に行われる見込みである。

プロジェクトは、KWS の主導による保全教育戦略（2006-2011）の策定に大きく貢献した。多くの教育関連オフィサーが研修を受け、知識・技能が向上した他、学んだことのうちいくつかを自分たちだけで実行できるようになった。研修を受けた教育関連オフィサーにより多くの教育ツールと教材が作成され、国立公園や教育センターの訪問客に対する教育活動に活かされている。プロジェクトおよび他の関係機関の活動により、コミュニティにおける野生生物保全に対する意識が向上され活動も活性化されつつある。

プロジェクトの開始時期には、KWS 中期戦略の策定の遅れに伴い、保全教育戦略の策定及びプロジェクトの協力窓口となる教育部局の組織化も遅れた。また、プロジェクトの前期には、カウンターパートが頻繁に交替したことにより、活動の進捗に支障が生じた。しかし、これらの障害に対してプロジェクト関係者が積極的に取り組んだ結果、プロジェクトが終了する 2008 年 2 月までにプロジェクト目標は達成される見込みとなった。

評価 5 項目の視点から、本プロジェクトは妥当性、有効性、効率性、インパクトおよび自立発展性の全てが高いと言える。例えばナイロビでは、研修・ワークショップの結果、スタッフのやる気が向上し、動物孤児院におけるインフォメーション・コーナー展示の改善や、サファリ・ウォークにおける子ども博物館の再開が見られた。

プロジェクトの実施において、シニアボランティア、青年海外協力隊、KWS に配置されたインターン（主に日本人インターン）およびレンジャーが、教育関連オフィサーの教育活動を支援した事により、その進捗が促進された。

- ・結論として、本技術協力プロジェクトは当初予定通り 2008 年 2 月 13 日をもって終了する。

第五章 提言と教訓

5-1 提言

KWS は保全教育を強化していくためには教育オフィサーの増員が必要である。特にナイロビやナクルに比べ遅れの見られるコースト地域においては教育を担当するスタッフが不足しており、教育オフィサーの増員が不可欠である。KWS の保全教育戦略の実施を今後ともフィールドレベルで支援するために JICA にはボランティアの派遣継続が期待される。KWS はボランティアを最大限活用するため、ボランティアの受入戦略を作成すべきである。

ナイロビ以外の地域における研修・ワークショップ後のモニタリング／フォローアップについて、KWS は作成中の保全教育戦略のモニタリング計画に即して研修参加者のモニタリング／フォローアップを強化すべきである。

保全教育活動には教育オフィサーのみならず、コミュニティ担当のオフィサーやレンジャー、幹部候補生、ケニア人インターンもかかわっているため、KWS は彼らに対する保全教育研修や彼らへの教材配布も必要である。

プロジェクトで実施したような活動を持続させるためには、KWS は保全教育戦略に沿って必要な予算を確保することが望まれる。

プロジェクト対象地域の教育センターは、KWS によって更に改善され、他地域のモデルとなることが望まれる。

5-2 教訓

プロジェクト実施にあたっては、先方政府の政策・方針への合致、及びカウンターパート部局における業務とプロジェクト活動が密接に関連していることが重要である。

保全教育の知識や技術を身につけるためには、参加者間の活発なコミュニケーション、参加型、現場視察を含む研修が効果的である。

プロジェクトと連携してボランティア派遣を投入するにあたって、プロジェクト活動へのボランティアとカウンターパートの合同参加を促すことにより、現場レベルでの成果発現を促進することができる。

カウンターパート機関の人的・資金的リソースが限られている場合、同様の活動をしている機関と連携することにより相乗効果が期待できる。

カウンターパートの頻繁な交替にたいしては、JICA 事務所とプロジェクトチームとが

連携して、カウンターパート機関に申し入れをすることが重要である。

5-3 フォローアップ状況

本プロジェクト成果の更なる定着と広がりのため、フィールドレベルで支援していく意義が高いことから、継続して KWS に対してボランティア派遣を行っていく。

保全教育に関連する本邦研修の機会を引き続き KWS に対して提供していくこと検討する。

付 属 資 料

1. ミニッツ
2. インタビュー結果
3. アンケート調査結果

**MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN THE JAPANESE TERMINAL EVALUATION TEAM
AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF
THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF KENYA
ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
ON STRENGTHENING OF WILDLIFE CONSERVATION EDUCATION PROJECT
(SOWCE)**

The Japanese Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Japanese Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), headed by Mr. Yoshiaki Kano, and the Kenyan Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Kenyan Team") headed by Mr. Kipkorir Lagat conducted a terminal evaluation of Strengthening Of Wildlife Conservation Education Project (hereinafter referred to as "the Project") from 6th September, to 12th September, 2007 having consultations with the Project personnel and other relevant parties on the implementation of the Japanese Technical Cooperation for the Project.

As a result of a series of surveys and discussions, both sides, Ministry of Tourism and Wildlife (hereinafter referred to as "MoTW") and Joint Evaluation Team came to the understanding concerning the matters referred to in the report of the Joint Terminal Evaluation, which is attached hereto.

Nairobi, 12th September, 2007



Mr. Yoshiaki Kano
Leader
Japanese Terminal Evaluation Team,
Japan International Cooperation Agency



Mr. P. N. Gakure
For Permanent Secretary
Ministry of Tourism and Wildlife
Republic of Kenya



Mr. Julius Kipng'etich
Director
Kenya Wildlife Service
Republic of Kenya

**REPORT OF THE JOINT TERMINAL EVALUATION
ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
ON STRENGTHENING OF WILDLIFE CONSERVATION EDUCATION
PROJECT**

The Japanese Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Japanese Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), headed by Mr. Yoshiaki Kano, and the Kenyan Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Kenyan Team") headed by Mr. Kipkorir Lagat conducted a Terminal evaluation of Strengthening Of Wildlife Conservation Education Project (hereinafter referred to as "the Project") from 6th September, to 12th September, 2007


For this purpose, the Japanese Team and the Kenyan Team formed the Joint Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team"). The Team evaluated performance and achievements of the Project through field visits, interviews and had a series of discussions in respect of desirable measures to be taken by both Governments for the successful implementation of the Project.

The Team agreed on the contents of the Evaluation Report attached. As a result of the discussions, the Team agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the attached Evaluation Report.

Nairobi, 12th September, 2007



Mr. Yoshiaki Kano
Leader
Japanese Terminal Evaluation Team,
Japan International Cooperation Agency



Mr. Kipkorir Lagat
Leader
Kenyan Terminal Evaluation Team,
Ministry of Tourism and Wildlife

Contents

1. Introduction	2
1.1 Background	2
1.2 Objective of the Evaluation	2
1.3 Members of the Joint Evaluation Team.....	2
1.4 Schedule of the Study.....	2
2. Outline of the Project	3
2.1 Background of the Project	3
2.2 Objectives and Outputs of the Project	4
2.3 Activities	4
3. Methodology of Evaluation	4
3.1 Evaluation Questions and Indicators	5
3.2 Data Collection Method and Analysis	5
4. Project Performance and Implementation Process	5
4.1 Accomplishment of the Project	5
4.2 Inputs	6
4.3 Outputs and Activities	7
4.4 Project Purpose	8
4.5 Prospect of Achievement of the Overall Goal	9
4.6 Implementation Process	9
5. Evaluation Results	10
5.1 Relevance	10
5.2 Effectiveness	10
5.3 Efficiency	11
5.4 Impact	11
5.5 Sustainability	12
6. Conclusion	12
7. Recommendations	13
8. Lessons Learned	14

Attachments

- Annex 1: Detailed Schedule of Terminal Evaluation
- Annex 2: Current PDM
- Annex 3: PO (Plan and Actual)
- Annex 4: Evaluation Grid for Terminal Evaluation Study
- Annex 5: List of Japanese Experts
- Annex 6: List of Kenyan Counterpart Personnel Trained in Japan
- Annex 7: List of Kenyan Counterpart Personnel Trained in Third Country
- Annex 8: List of In-country Trainings/Workshops implemented
- Annex 9: List of Equipment provision and Facilities construction by Japanese side
- Annex 10: List of Kenya Counterpart Personnel
- Annex 11: Project Cost sharing by Kenyan side and Japanese Side

Abbreviations

MoTW	Ministry of Tourism and Wildlife	KWS	Kenya Wildlife Service
NMK	National Museums of Kenya	WCK	Wildlife Club of Kenya
JOCV	Japan Overseas Cooperation Volunteer	SV	Senior Volunteer

1. Introduction

1.1 Background

The Project was started on 14th February 2005 based on the request for technical cooperation by the Government of Kenya to Japan for Strengthening of Wildlife Conservation Education. The Project is planned to be completed by 13th February 2008, and with the remaining project period being 6 months, a terminal evaluation was jointly carried out by evaluators consisting of the Japanese Team and Japanese authorities concerned.

1.2 Objective of the Evaluation

The objectives of the evaluation are threefold:

- (1) To evaluate accomplishments of the Project based on the five criteria of Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact and Sustainability;
- (2) To make recommendations for activities in remaining period of and after the completion of the Project;
- and
- (3) To note lessons learned from the Project

1.3 Members of the Joint Evaluation Team

The Team consists of the following members.

(1) Japanese members

- a) Mr. Yoshiaki Kano (Leader)
Resident Representative, JICA Kenya office
- b) Ms. Kanako Adachi (Cooperation Planning)
Senior Program Officer, Global Environment Department, JICA HQ
- c) Ms. Chie Ezaki (Evaluation Planning)
Assistant Resident Representative, JICA Kenya office
- d) Mr. Akira Shintani (Evaluation Analysis)
Sanyu Consultants Inc.
- e) Mr. John N. Ngugi (Evaluation Analysis (Assistant))
Senior Program Officer, JICA Kenya Office

(2) Kenyan members

- a) Mr. Kipkorir Lagat
Senior Deputy Director, Ministry of Tourism and Wildlife
- b) Ms. Margaret Ndungu
Corporate Planning Manager, KWS

1.4 Schedule of the Study

The Joint Terminal Evaluation was conducted from 6th September to 12th September in 2007. The detailed schedule of the terminal evaluation study is attached in Annex 1.

2. Outline of the Project

2.1 Background of the Project

In the past few decades Kenya's natural resources have continued to decline in quantity and quality primarily due to human activities that are not environmentally sound. For example both indigenous and plantation of forests have decreased due to excisions for agricultural settlements and timber harvesting among others leading to loss of biodiversity. Wetlands have similarly deteriorated due to destruction of catchment areas, poor drainage and pollution among others. Rangelands and their biodiversity have deteriorated due to overgrazing, change of land use and even poaching of some wildlife species.

Measures to halt and even reverse the above trend include improved management of resources by all interested and affected parties. Better management can be achieved through enhanced nature conservation education and public awareness. An institution like Kenya Wildlife Service (KWS) has played a leading role in conservation and management of natural resources. Among its other responsibilities is wildlife conservation education and public awareness. KWS has been actively involved in communicating wildlife conservation education and awareness to schools, colleges, local communities and visitors (tourists) around the country through the use of lectures, video shows, posters, booklets, exhibitions among other environmental education programmes.

The use of audio-visual equipment provided to the institution through support by Japan International Cooperation Agency (JICA) has had significant impact in dissemination of nature conservation education to different audiences. Taking into consideration the large number of students, teachers, policy makers and communities that require conservation education and awareness, there is still a great need for development of nature conservation education programmes by KWS and other stakeholders.

It is widely noted that there is shortage of wildlife conservation education materials and programs in the country. The need for production of documentary films, videos, slides, posters, booklets and other materials and programs on environmental issues has been underscored in government policy documents such as the National Environmental Action Plan (1994), and the sessional paper on Environment and Development (1999). It is in light of the above that KWS sought support for the project on promotion of environmental conservation education in Kenya.

Under these circumstances, the Government of Kenya (GOK) requested the Government of Japan (GOJ) for a technical cooperation project to strengthen the institutional capacity of KWS for effective implementation of wildlife conservation education in Kenya while making good use of the results of the past technical cooperation between GOK and GOJ. In response to the official request of the GOK, the GOJ decided to conduct "the Project for Strengthening of Wildlife Conservation Education" (SOWCE) in accordance with the results of discussions with the authorities concerned of GOK.

JICA conducted the Ex-ante evaluation of the project in October 2004 that resulted in the preparation of the Project Design Matrix (PDM). The Record of Discussions (R/D) that constitutes the agreement of the project was signed between JICA and the Ministry of Tourism and Wildlife on 14th February, 2005. Upon this agreement, JICA commenced the three-year technical cooperation project with KWS as the implementing agency.

2.2 Objectives and Outputs of the Project

As indicated in the current PDM attached as Annex 2, the Project purpose is to strengthen the institutional capacity of KWS for effective implementation of Wildlife Conservation Education.

The outputs of the Project confirmed in the current PDM are:

- (1) Education Implementation Strategy has been Developed.
- (2) Capacity of Education Officers has been Strengthened.
- (3) Appropriate Development, Operation and Maintenance of Education Tools, Materials, Equipment and Facilities has been Improved.

2.3 Activities

Activities are divided into three (3) components as shown on the PDM. The activities carried out by the time of this evaluation are as follows:

- 1.1. Prepare the Terms of Reference (TOR) for the Education Implementation Strategy Development.
- 1.2. Constitute the "Education Implementation Strategy Development Task Force".
- 1.3. Produce the Strategy through Task Force and Stakeholder Workshops.
- 1.4. Monitor Progress of Strategy Implementation.

- 2.1. Conduct Training/Workshops for Education Officers on Technical Skills.
- 2.2. Conduct Workshops/Seminars for Education Officers on Various Themes.
- 2.3. Undertake Technical Exchange with Relevant Stakeholders.
- 2.4. Facilitate the Education Programmes in the Target Areas.
- 2.5. Monitor the Progress in Education Activities.

- 3.1. Conduct Training/Workshops for Education Officers on Planning and Development of Education Tools and Materials.
- 3.2. Conduct Technical Training for Multi-Media Officers on Audio-Visual Education Material Production.
- 3.3. Conduct Training for Officers on Operation and Maintenance of Tools, Facilities and Equipment for Effective Use.
- 3.4. Follow Up on the Application of Skills in the Operation of the Tools, Materials, Equipment and Facilities in the Target Areas.

3. Methodology of Evaluation

The terminal evaluation was carried out by the Joint Evaluation Team consisting of members from both the Japanese and Kenyan sides as described in 1.3. In the first step of the evaluation, the Team reviewed the progress and achievements of the Project referring to the PDM and PO attached in Annex 3. In the next step, the Team analyzed and evaluated the Project from the viewpoints of 'Relevance', 'Effectiveness', 'Efficiency', 'Impact' and 'Sustainability'. Finally, the Team made recommendations for activities in remaining period of and after the completion of the Project

3.1 Evaluation Questions and Indicators

The study items for evaluation are indicated in the Evaluation Grid, as a grand design of detailed study, attached in Annex 4.

3.2 Data Collection Method and Analysis

3.2.1 Data Collection Method

The Team (1) collected relevant documents (2) collected information through questionnaires and interviews from KWS officials, interviews with stakeholders, the Japanese expert and Japanese Volunteers (3) carried out field surveys at the Project sites.

3.2.2 Criteria of Evaluation for Analysis

(1) Relevance:

Relevance of the Project was reviewed as the validity of the Project purpose and overall goal in connection with the development policy of the Government of Kenya (hereinafter referred to as GOK) and needs of the beneficiaries, and also by the logical consistency of the Project plan. Simultaneously, correlation with the JICA policies was also confirmed in the process.

(2) Effectiveness:

Effectiveness was assessed by evaluating the extent to which the Project has achieved outputs by the time of the terminal evaluation as well as the probability to attain the project purpose by the end of the Project term. Furthermore, validity of the project design was also evaluated.

(3) Efficiency:

Efficiency of the Project implementation was analyzed by reviewing correlation between inputs and outputs. In the process, timing, quality and quantity of inputs, linkage and/or duplication between the Project and other activities of other organizations in similar fields were reviewed.

(4) Impact:

Impacts of the Project activities were identified by focusing both on positive and negative, direct and indirect impacts caused or likely to be caused by the Project. These impacts included the impacts that had not been originally expected in the Project plan. In addition, the probability of attaining the overall goal and the contribution of the Project were evaluated.

(5) Sustainability:

Sustainability of the Project was evaluated on organizational, financial, technical, and social/environmental aspects with consideration of the extent to which the achievement of the Project will be sustained or expanded after the assistance period.

4. Project Performance and Implementation Process

4.1 Accomplishment of the Project

Accomplishment of the Project was measured in terms of Inputs, Activities, Outputs and Project purpose, all of which accord with the R/D, PDM and PO.

4.2 Inputs

(1) Japanese Side

(a) Experts

Long-term experts

Two (2) long-term experts in total have been dispatched. Their fields are Wildlife Conservation Education/ National Park Management and Wildlife Conservation Education/ Coordinator. (refer to Annex 5 for details)

Short-term experts

Three (3) short-term experts in total have been dispatched, and their fields are Wildlife Conservation Education, Conservation Education Material Production. One (1) will be dispatched from September 2007 to October 2007. (refer to Annex 5 for details)

(b) Training of Kenyan Counterpart Personnel in Japan

Five (5) counterpart personnel from KWS and Two (2) personnel from NMK were trained in Japan. The subjects of the training courses were Digital Video Production for Education and Dissemination, Environmental Education through a Nature Experience and Environmental Education for Sustainable Development.

Two (2) more counterpart personnel from KWS will be trained in Japan before the termination of the Project.

One (1) long-term counterpart training participant acquired Doctor Degree on Education for Wild Animal Protection at Kyoto University from March 2004 to March 2007.

(refer to Annex 6 for details)

(c) Training of Kenyan Counterpart Personnel in Third Country

Three (3) counterpart personnel were dispatched to Malaysia to attend Bornean Biodiversity and Ecosystem Conservation (BBEC) international conference in February, 2005. (refer to Annex 7 for details)

(d) Provision of Equipment

The Japanese side has provided the following equipment for the effective and smooth implementation of the Project, which are necessary in the process of technical transfer from Japanese experts to Kenyan counterpart personnel in the Project: audio-visual equipment such as video editing machines, computers, glass-bottom boat for education use, and captive management equipment. A total amount of Kshs. 5.8 million has been allocated including the planned budget for the remaining period. (refer to Annex 9 and 11 for details)

(e) Local cost borne by Japanese side

The Japanese side has allocated a budget to fund for local activities. A total amount of Kshs. 12.6 million has been allocated including the planned budget for the remaining project period. (refer to Annex 11)

(2) Kenyan Side

(a) Assignment of Counterpart Personnel

Forty three (43) counterpart personnel in total have been assigned for the Project from KWS since the commencement of the Project including the Project Director and Project Manager. (refer to Annex 10)

(b) Contribution from Kenyan side

Kenyan side has provided the administrative office and expenses for electricity, water supply, telephone line of it, education/information centers and vehicles. In addition, KWS has borne a part of the training workshop costs. (refer to Annex 11)

4.3 Outputs and Activities

Accomplishments of each output and the activities carried out by the time of this evaluation are as follows:

4.3.1 Output 1: Education Implementation Strategy has been Developed.

The Conservation Education Strategy was formulated in collaboration with other departments through formation of working groups. The strategy was finally prepared and approved by KWS's Board of Directors and released in October 2006. The education department has since then been working together with other departments to implement the strategy for example by preparing an education manual and a monitoring plan.

4.3.2 Output 2: Capacity of Education Officers has been Strengthened.

In line with the PO, a total of fourteen (14) out of eighteen (18) planned training/workshops were conducted in order to enhance the capacity of education-related officers with regard to environmental conservation education. The details are as follows:

- In-country training/workshops: Nine (9).
- Short-term training in Japan: Three (3).
- Long-term training in Japan: One (1).
- International conference in Malaysia: One (1).

The total number of officers trained was two hundred and forty-nine (249) as per the breakdown below:

- In-country training/workshops: Two hundred and forty-one (241).
- Training in Japan: Five (5).
- International conference in Malaysia: Three (3).

From the training, the participants acquired basic knowledge about formulation of education programmes, development of hands-on material such as making foot-casts and skull specimens, exhibition methods, and preparation, interpretation and presentation of education materials. At their stations, the participants have already started to practice what they have learnt. They have also enhanced their technical knowledge of marine life and catchment's management and also sustainable development.

4.3.3 Output 3: Appropriate Development, Operation and Maintenance of Education Tools, Materials, Equipment and Facilities has been Improved.

In all the target areas, the quality and quantity of tools and materials have been improved. This includes the production of a nature calendar and teacher's guide for the Nairobi Safari Walk. In addition to information materials, an educational video and nature calendar are currently in the process of being produced in Nakuru. At some of the parks of the Coast, the

an educational video, hands-on material and education programme are being prepared, however, because of other duties and lack of education related staff, education tools and materials have not been actively developed compared to other target areas.

The audiovisual facilities at KWS HQ are adequate for their activities and the multimedia office has been extended. The facilities and displays in both Nairobi and Nakuru have also been improved. In Nairobi and Nakuru, KWS have enough equipments and facilities such as audiovisual equipments and facilities while at the Coast they are generally not enough.

Most of the equipment and facilities are well maintained and utilized and the frequency of use has also increased since the project started. In Nairobi and Nakuru, many students have visited the park and education centres, and attended in-house education programmes.

Training in operation and maintenance has been quite successfully implemented with seven (7) trainings/workshops conducted locally and in Japan out of a planned eight (8). A total of seventy-six (76) officers including two (2) from the National Museums of Kenya (NMK) were trained. The training was in the areas of video production, synopsis writing and operation and maintenance for audiovisual equipment. Study tours and on-the-job training was also carried out. As a result of the training, the education related officers have acquired basic knowledge and skills to enable them to write synopses of educational videos and also operate and maintain equipment. The audiovisual officers acquired technique for production of education materials such as posters and brochures, and also the operation and maintenance of equipment.

4.4 Project Purpose

This section assesses the level of achievement of the Project Purpose so far which is to strengthen the institutional capacity of KWS for effective implementation of wildlife conservation education. Currently, the level of achievement seems to be at an advanced stage.

4.4.1 Indicator 1: Degree of Implementation of the Education Strategy.

Since the commencement of the education strategy in October 2006, 24 out of 30 activities planned in the first year have already been started. It is expected that the remaining 4 will begin before the Project ends in February, 2008. Six others planned for the second year will also begin before the Project ends.

4.4.2 Indicator 2: The Quality and Quantity of Education Activities in the Target Areas.

The quality of education activities especially with regard to communication and presentation has improved. The education officers have also been able to utilize the knowledge gained from the trainings/workshops by producing education materials and the quantity of activities has increased for the majority. However, frequent transfers and engagement in other duties has been a setback to the performance of a few education officers, particularly at the Coast.

4.4.3 Indicator 3: The Level of Utilization of Education Tools, Materials, Equipment and Facilities.

Generally the education tools and materials, equipment and facilities have been well utilized in Nairobi and the quality of exhibition has improved. The audiovisual equipment and facilities at HQ and Nakuru are also much more utilized for education purposes than previously. In the Coast, education activities are not so active compared with Nairobi and Nakuru Education Centres mainly due to officers' engagement in other duties, lack of education-related officers and equipments.

4.5 Prospect of Achievement of the Overall Goal

The relationship between KWS and community people has been improving. The progress of the Project has accelerated it through the communication skill trainings and the exchange workshops. Some communities have started to notice the deterioration of their surrounding environment and the necessity of environmental conservation activities. Some of them have already started conservation activities and KWS has been supporting them. Although these are mainly because of long-time effort of KWS and other stakeholders such as NGOs, the improvement of knowledge and skills of KWS staffs will be helpful to support their activities from now on.

4.6 Implementation Process

Implementation process was evaluated based on the evaluation grid. Some of the issues are highlighted as below;

(1) Management of the Project

Joint Coordination Committee (hereinafter referred to as JCC) had been held once a year for project monitoring among JICA expert, counterparts, JICA office and concerned agencies since commencement of the Project. After all the trainings, JICA expert and counterparts who organized the trainings conducted post-mortem meetings and the results were utilized for improvement of the next training. However, monitoring and follow-up of trained participants is not so frequently implemented except in Nairobi where the Project office is located.

(2) Assignment of counterparts

Frequent transfer of counterparts affected the implementation of the Project. The Project members requested KWS HQ to reconsider its frequent transfer of the counterparts after which KWS positively responded. There was also lack of clarity concerning the management of the project during the establishment of the education department at KWS HQ. However, after establishment of the education department as a result of implementation of the KWS Strategic Plan, the department was mandated to coordinate and monitor all the education activities in the country. This has enhanced implementation of the Project.

(3) Role of Japanese Volunteers and other staff

In the course of implementation of the Project, Japanese Volunteers (JOCVs and SVs), Japanese intern on attachment, Kenyan students on attachment to KWS and rangers,

supported education related officers to conduct education activities at the field, which promoted the progress of the Project.

5. Evaluation Results

5.1 Relevance

This project is quite relevant due to the following reasons:

- 1) Both the Project Purpose and Overall Goal are in line and consistent with Kenya's development policy. The importance of conservation for enhancement of tourism and the education and awareness of the people with regard to conservation is recognized in various policy documents including the I-PRSP, ERS and the Vision 2030. The draft Wildlife Policy presented in May 2007 also highlights human-wildlife conflict, human resources development and conservation education as major issues.
- 2) One of the priority themes in Japan's ODA Charter and ODA Medium Term Policy is global issues which includes environmental problems. In turn, conservation being a major concern under environmental problems is therefore linked to the ODA Medium Term Policy. In addition to this, capacity development in the environment sector is part of the basic policy of EcoISD and conservation is one of the priority areas. Japan has also been supporting KWS for quite a long time now.
- 3) Inadequate emphasis had been placed on capacity development of education officers by KWS before the project. However, considering the seriousness of human-wildlife conflict, and also the need to mitigate it and hence conserve wildlife, it is essential that the capacity of KWS officers engaged in education activities be strengthened.
- 4) Generally the project covers the necessary outputs for the achievement of the project purpose. The development of the education strategy (Output 1) and the capacity development of education officers through training (Outputs 2 and 3) forms a solid base for the achievement of the project purpose.

5.2 Effectiveness

The effectiveness is quite good and the possibility of achieving the Project purpose is high.

- 1) It is commendable that Output 1 has already been realized and out of 30 activities planned in the first year of implementation of the Conservation Education Strategy (2006-2011), 24 activities have started and other 4 activities are expected to commence before the end of the project.
- 2) Positive progress has been made with regard to the contribution of Output 2 and 3 towards achievement of the Project purpose. Quite a number of officers trained are now able to make education tools and produce materials utilizing what they have learnt in the trainings especially in Nairobi and Nakuru.
- 3) The level of utilization of education tools, materials, facilities and equipments is quite high especially in Nairobi where the facilities and exhibitions have been greatly improved. Some positive progress has also been noted in Nakuru and is expected to gain momentum during the remaining period of the Project.
- 4) Collaboration with other departments particularly with the community wildlife service department has been enhanced both at the HQ and in the national parks and also with other organizations such as WCK and NMK. However, greater collaboration with the

KWS research department is desirable.

- 5) The establishment of an education department that coordinates all education activities in the country had a positive influence on the project implementation. It is expected that this will further enhance the project's activities.
- 6) Though most staff have been retained in their current positions, more staff for education activities are required in the various stations especially at the Coast so that they can concentrate on education activities.

5.3 Efficiency

The efficiency of the Project is fairly good. Output 1 is fully achieved and the results of Outputs 2 and 3 are encouraging. The following observations were made:

- 1) The inputs were provided as planned and were appropriate. Equipment previously provided to KWS through Japanese ODA was utilized by the Project in addition to those provided during the project. Japanese volunteers (JOCVs and SVs), a Japanese intern and Kenyan students on attachment also assisted in conducting some activities.
- 2) The training sessions were relevant and met the needs of the counterparts and participants and gave them new ideas.
- 3) Following the establishment of the education department at KWS HQ, some activities previously undertaken by the Nairobi Education Centre were transferred to the new department. During the transition period, the responsibility of the project's activities was unclear for some time. However, since the department was fully established, it has been promoting the implementation of the Project.
- 4) There was some delay in expansion of the multimedia office which resulted in lack of utilization of the audiovisual equipment purchased by the Project for some time. However, the equipment is now being fully utilized. There was also some setback due to delays experienced in the achievement of Output 1.
- 5) Smooth flow of the progress of the project was interrupted by the frequent transfer of key education staff.
- 6) There have been constraints experienced by the Project in monitoring the implementation as the target area is quite vast and an appropriate monitoring method had not been developed. High priority was also placed on other activities in the course of project implementation.

5.4 Impact

The impact of the project has been quite positive and there is possibility of realizing the overall goal to some extent in the long run. This is due to the following:

- 1) It is expected that communities will be increasingly aware of the importance of conservation education both as a result of the Project and also the continuous activities of KWS and other organizations such as NGOs. This can be further enhanced if economic gains can be achieved by the communities as a result of conservation.
- 2) Increasing number of schoolchildren are being exposed to environmental conservation education than before. The inculcation of such values at an early age is expected to have positive effects in the future.
- 3) Emphasis of conservation education in the draft Wildlife Policy is expected to give more

weight to the Conservation Education Strategy and enhance participation by communities in conservation activities.

- 4) Movement towards achievement of the overall goal will have the ripple effect of mitigating human-wildlife conflict and environmental degradation hence improving living standards. This coupled with the improvement of the capacity of education officers will also enhance tourism in the country.

5.5 Sustainability

It is expected that the project activities can be sustained to some extent:

- 1) From the institutional point of view, KWS has already established an education department at HQ level to coordinate and supervise all education activities countrywide. Conservation education is also emphasized in the draft Wildlife Policy. It is expected that this will enhance the possibility of continuation of the activities.
- 2) With regard to the financial aspects, it is expected that KWS will allocate a budget for education activities and training to education related officers after the termination of the Project in mid February 2008.
- 3) Concerning the capacity of KWS officers, it is expected that the counterparts and training participants will internalize the knowledge gained through the Project and transfer it to other categories of officers such as community wildlife service officers, rangers, management trainees and Kenyan students on attachment. This is essential taking into consideration the limited numbers of staff.

6. Conclusion

- 1) Since the inputs from Japanese and Kenyan side have been properly provided based on PO with appropriate timing, it is recognized that activities under the three Outputs will continue to be performed until the termination of the Project.

The Project made a contribution to consolidate the foundation of the formulation of the Conservation Education Strategy (2006-2011) through the strong initiative and leadership of KWS.

The capacity of education officers was tangibly strengthened in view of the number of officers trained and the quality of skills attained and now they can implement some of the activities by themselves.

Through the Project, many kinds of conservation educational tools, materials and equipments which are attracting many visitors were produced by the participants of training courses.

Some impact of the Project was also evident from the enhancement of awareness and the activities on the ground of communities and other conservation education related institutions.

- 2) Due to the delays experienced in the formulation of the KWS Strategic Plan, the formulation of Conservation Education Strategy and institutionalizing the education department which is the focal point of the Project implementation was also delayed at the initial stages. In addition, the frequent transfer of education related officer during the first

half of the project period hampered smooth implementation. However, it can be concluded that the project purpose will be attained by the time of the termination since the above-mentioned difficulties have been overcome through the tireless efforts of members of the Project.

- 3) Under every evaluation criteria such as Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact and Sustainability the results were considerably favourable. In the case of Nairobi, impact of the training workshops conducted by the Project which motivated the staff to produce attractive material for exhibition resulted in the substantial improvement of the Information Centre at the Animal Orphanage and the Education Centre. The Children Museum at the Safari Walk was also reopened.
- 4) In course of Project implementation, Japanese Volunteers (JOCVs and SVs), a Japanese intern on attachment, rangers, and Kenyan students attached to KWS supported education related officers to conduct education activities in the field which promoted the progress of the Project.

7. Recommendations

- 1) In order to further enhance conservation education, it is necessary to increase the number of education officers and education related officers who can spend their time more for conservation education. Especially at the coast, the deployment of education officers is critically essential as the activity of conservation education showed less progress compared to Nairobi and Nakuru. After the deployment of KWS counterpart staff in the various areas, JICA is expected to continue partnering with KWS to implement the conservation strategy through the despatch of Japanese volunteers (JOCVs and SVs). In order to get maximum benefits from Japanese volunteers, KWS should develop a strategy for their assignment and allocation of volunteers.
- 2) The monitoring and follow-up to the training participants were not so frequently implemented except in Nairobi since other activities such as organizing training workshops were given high priority in the course of the Project implementation. The monitoring and follow-up of training participants should be strengthened henceforth under the framework of a monitoring plan which is currently being developed for the Conservation Education Strategy.
- 3) Since the conservation education is associated with not only education officers but also community wildlife service officers, rangers, management trainees and Kenyan students attached to KWS, they should be trained by the trained education officers who should also provide them with training materials that were produced by the Project..
- 4) In order to ensure the sustainability of the Project, KWS is requested to make the necessary budget allocation for conservation education in line with the Conservation Education Strategy after the termination of the Project in mid February 2008, since the costs of the capacity development activities was mainly borne by JICA during the Project.
- 5) The education centres in the Project target areas can be further improved and developed

by KWS to become reference points for other centres in the country.

8. Lessons Learned

- 1) Formulation of the Project was well aligned to national policies, the institution's policy and high commitment by the top management. The Project's activities have been also mainstreamed into the counterpart organization's activities. As a result, the Project was smoothly and efficiently implemented
- 2) In order to internalize knowledge and skills learnt, interaction, exposure and participation proved to be highly effective methods for conservation education.

Attachments

Annex 1: Detailed Schedule of Terminal Evaluation

Annex 2: Current PDM

Annex 3: PO (Plan and Actual)

Annex 4: Evaluation Grid for Terminal Evaluation Study

Annex 5: List of Japanese Experts

Annex 6: List of Kenyan Counterpart Personnel Trained in Japan

Annex 7: List of Kenyan Counterpart Personnel Trained in Third Country

Annex 8: List of In-country Trainings/Workshops implemented

Annex 9: List of Equipment provision and Facilities construction by Japanese side

Annex 10: List of Kenya Counterpart Personnel

Annex 11: Project Cost sharing by Kenyan side and Japanese Side

Annex 1: Detailed Schedule of the Joint Terminal Evaluation

		Schedule	Venue
25 Aug. ~5 Sept.		Japanese consultant collected information and questionnaires necessary for the evaluation.	Coast Areas/ Nakuru/ Nairobi
6-Sep	Thu	9:30 Courtesy Call to MoTW 11:30 Courtesy Call to KWS 13:30 At KWS HQ (1) Observation of Education Facilities: 1)Children Museum at Safari Walk 2) Animal Orphanage 3) Multi Media Office (2)Discussion with Project members at Conference room	Nairobi
7-Sep	Fri	8:30 Move to Nakuru 11:00 Visit KWS Rift Valley, LNNP (1) Observation of Education Facilities (2) Interviews and discussions 15:00 Back to Nairobi	Nakuru
8-Sep	Sat	Compile documents	Nairobi
9-Sep	Sun	Compile documents	Nairobi
10-Sep	Mon	At KWS HQ 9:30 Discussion among Joint-evaluation Team 11:00 Discussion on Evaluation Result with Project members at Conference room	Nairobi
11-Sep	Tue	Compile Evaluation Report	Nairobi
12-Sep	Wed	10:00 M/M signing at JCC, MoTW PM Report to Embassy	Nairobi

Annex 2: Current PDM

Project Design Matrix (PDM)

Project Title: Strengthening of Wildlife Conservation Education

Target Groups: Education Officers at Kenya Wildlife Service (KWS)

Target Area: KWS HQs, Coast, Nairobi and Nakuru Regions

Duration: Three (3) Years

Ver. No. 1

Date: 10th February 2005

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
Overall Goal To Enhance Awareness and Participation in Wildlife Conservation by Kenyan Citizens.	The Number of Citizens Participating in Wildlife Conservation and Awareness Activities in the Target Areas.	- National Environment Action Plan Report - State of the Environment Report - KWS Reports	Government support to Wildlife Conservation Education remains favourable.
Project Purpose To Strengthen the Institutional Capacity of KWS for Effective Implementation of Wildlife Conservation Education.	1. Degree of Implementation of the Education Strategy. 2. The Quality and Quantity of Education Activities in the Target Areas. 3. The Level of Utilization of Education Tools, Materials, Equipment and Facilities.	1. Project Monitoring and Evaluation Report KWS Reports 2. Project Monitoring and Evaluation Report KWS Reports Questionnaires to Visitors 3. Project Monitoring and Evaluation Report KWS Reports	- KWS Support to Wildlife Conservation Education remains favourable
Outputs 1. Education Implementation Strategy Has Been Developed. 2. Capacity of Education Officers Has Been Strengthened. 3. Appropriate Development, Operation and Maintenance of Education Tools, Materials, Equipment and Facilities Has Been Improved.	1.1. Issue of the Education Implementation Strategy. 1.2. Level of Collaboration between Education Department and other Departments at KWS. 2.1. Number of Trainings Conducted 2.2. Number of Officers Trained. 2.3. Level of Skills Attained. 3.1. Quality and Quantity of Education Tools, Materials, Equipment and Facilities 3.2. Status of Education Equipment and Facilities 3.3. Number of Trainings Conducted 3.4. Number of Officers Trained. 3.5. Level of Skills Attained.	1.1. Education Implementation Strategy Paper Project Monitoring Report 1.2. Project Monitoring Report 2.1. Record of Certificates Project Monitoring Report 2.2. Project Monitoring Report 2.3. Project Monitoring Report 3.1. KWS Reports Project Monitoring Report 3.2. KWS Reports Project Monitoring Report 3.3. Record of Certificates Project Monitoring Report 3.4. Project Monitoring Report 3.5. Project Monitoring Report	- Support from the other Departments at KWS Remain consistently Positive. - Trained Education Officers at KWS are Retained in Wildlife Conservation Education - Appropriate Resources Required for Wildlife Conservation Education are Secured and Available.

Activities	Inputs		
<p>1.1. Prepare the Terms of Reference (TOR) for the Education Implementation Strategy Development.</p> <p>1.2. Constitute the "Education Implementation Strategy Development Task Force".</p> <p>1.3. Produce the Strategy through Task Force and Stakeholder Workshops.</p> <p>1.4. Monitor Progress of Strategy Implementation.</p> <p>2.1. Conduct Training/Workshops for Education Officers on Technical Skills.</p> <p>2.2. Conduct Workshops/Seminars for Education Officers on Various Themes.</p> <p>2.3. Undertake Technical Exchange with Relevant Stakeholders.</p> <p>2.4. Facilitate the Education Programmes in the Target Areas.</p> <p>2.5. Monitor the Progress in Education Activities.</p> <p>3.1. Conduct Training/Workshops for Education Officers on Planning and Development of Education Tools and Materials.</p> <p>3.2. Conduct Technical Training for Multi-Media Officers on Audio-Visual Education Material Production.</p> <p>3.3. Conduct Training for Officers on Operation and Maintenance of Tools, Facilities and Equipment for Effective Use.</p> <p>3.4. Follow Up on the Application of Skills in the Operation of the Tools, Materials, Equipment and Facilities in the Target Areas.</p>	<p><Kenya Side></p> <p><u>1. Personnel</u></p> <p>1.1. Project Director: Director, KWS</p> <p>1.2. Project Manager: Assistant Director, Education, KWS</p> <p>1.3. Counterparts: Staff of Education Dept., KWS HQ Park Managers and Related Officers of KWS in the Target Areas</p> <p>1.4. Support Staff: Administrative Staff, Secretaries, Drivers</p> <p><u>2. Facilities and Equipment</u></p> <p><u>3. Administrative and Operational Cost</u></p>	<p><Japanese Side></p> <p><u>1. Personnel</u></p> <p>1.1. Long-term Expert: Wildlife Conservation Education</p> <p>1.2. Short-term Experts: as appropriate</p> <p><u>2. Counterpart Training</u></p> <p>2.1. Short-term Training in Japan and/or any other Countries for Education Officer(s)</p> <p>2.2. Short-term Training in Japan and/or any other Countries for Multi-Media Officer(s)</p> <p>2.3. Long-term PhD Training for a KWS Officer on the Wildlife Conservation and Rural Communities</p> <p><u>3. Seminars and Workshops</u></p> <p><u>4. Infrastructure and Equipment</u></p> <p>Equipment for Education Material Development and Education Programmes</p>	<p></p> <p>Pre-Condition</p> <p>The Mandate of KWS on Wildlife Conservation Education Remains Consistent with Current Provisions.</p>

Annex 3: PO (Plan of Operation)

Red colour shows the changes proposed
Yellow colour shows the cancels proposed
O shows the months activities conducted

Plan of Operation (as of Sep. 2006)

Activities	Expected Results	2004				2005				2006				2007				Organization in Charge	Activity Implementers	Materials and Equipment	Notes
		1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10				
1. Education Implementation Strategy at KWS has been developed.																					
1-1. Prepare the Terms of Reference (TOR) for the Education Implementation Strategy Development	TOR for the Strategy Development																	KWS Education Section	KWS Education Section		Pay Attention to the KWS Restructuring & Strategy Development in Other Departments such as Community and Tourism
1-2. Constitute the "Education Implementation Strategy Development Task Force" Involving Relevant Departments and Park Managers	Constitution of the Task Force																	KWS Education Section	KWS Education & Other Sections		Consider Inviting an Advisor from Japan as a Short-term Expert
1-3. Produce the Strategy through Task Force and Stakeholders Workshop(s)	Production of the Strategy																	KWS Education Section	KWS Education & Other Sections	As Necessary to Hold Workshops	Consider Inviting an Advisor from Japan as a Short-term Expert
1-4. Follow up and Monitor the Progress of Strategy Implementation	Action out of the Strategy																	KWS Education Section	KWS Education & Other Sections		Consider Supporting the Strategy Implementation, such as Developing Education Manual and Monitoring Plan
2. Capacity of Education Officers has been strengthened.																					
2-1. Conduct Training/Workshops for Education Officers on Technical Skills																					
Prepare and Conduct Workshop(s) on Presentation Skills																		KWS Education Section	KWS Education Section	As Necessary to Hold Workshops	Covers "Guidelines for Effective Communication", "Using Visual Aids", "Dealing with Media", etc.
Prepare and Conduct Workshop(s) on Educational Aid Development																		KWS Education Section	KWS Education Section	As Necessary to Hold Workshops	Consider Inviting a Short-term Expert to Introduce "Bear Trunk Kit"
Prepare and Conduct Workshop(s) on NSW Nature Calendar and Eco-School Development																		KWS Education Section		As Necessary to Hold Workshops	Consider Hiring a Local Consultant and Inviting Relevant Organisations
2-2. Conduct Workshops/Seminars for Education Officers on Various Themes																					
Prepare and Conduct Workshop(s) on Marine Life Management	Network with Relevant Organisations																	KWS Education Section & Coast HQs	KWS Officers in the Coast & Education Section	As Necessary to Hold Workshops	Consider Inviting Relevant Organisations such as UNEP, KEMFRI, etc.
Prepare and Conduct Workshop(s) on Human-Wildlife Conflict																		KWS Education Section	KWS Sections of Education, Research, Community & Elephant Programme	As Necessary to Hold Workshops	Consider Inviting Relevant Officers and JICA Volunteers in Other African Countries and an Expertise on the Issue, Some Species Need to be Specified
Prepare and Conduct Workshop(s) on the Impact of Social Issues (including gender) on Wildlife Management																		KWS Education Section	KWS Education & Community Sections	As Necessary to Hold Workshops	Consider Inviting a Short-term Expert to Research on the Issue and Give Lectures & JICA Long-term Trainee (Mr. Charles Musyoki Mutua) to Give his Interim Report
Prepare and Conduct Exposure & Exchange Workshop(s) with Communities in Nakuru																		KWS Education Section & Lake Nakuru NP	KWS Education, Community & Research Sections & KWS Officers in Nakuru	As Necessary to Hold Workshops	Consider Inviting Relevant Organisations such as Forestry Dept., Nakuru Municipal Council, etc.
2-3. Undertake Technical Exchange with Relevant Stakeholders																					
Prepare and Undertake Technical Exchange on Captive Animal Management	Information Sharing & Networking																	KWS Education Section	KWS Education Section & Relevant Private Institutions	As Necessary	Private Game Ranches in Laikipia and Coast are Considered as Partners for Technical Exchange
Presentation and Participation in BBEC International Conference in Malaysia	Information Sharing & Networking, Presentation at BBEC Conference																	KWS Education Section	Officers whose paper has been accepted	As Necessary	Consider Attending a Regional Conference/ Workshop for Conservation Education
Participation in the Group Training (Environmental Education) in Japan	Information Sharing & Networking																	KWS Education Section	KWS Education Section		Consider Transparent Process of Participant Selection

* Better avoid many activities from May to July (limited fund availability), August (many school visits and ASK) and December (many officers likely to take leave). Pay attention to the Ramadan period either.

Red colour shows the changes proposed
Yellow colour shows the cancels proposed
O shows the months activities conducted

Activities	Expected Results	04 2005				2006				2007				Organization in Charge	Activity Implementers	Materials and Equipment	Notes
		1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10				
2-4. Facilitate the Education Programmes in the Target Areas																	
Coast		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KWS Education Section & Marine NPs & NRs	Marine NPs & NRs	Glass-Bottom Boat	Retain JICA Volunteers
Lake Nakuru		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KWS Education Section & Lake Nakuru NP	Lake Nakuru NP	As Necessary	Strengthen Linkage between Research & Education, Retain JICA Volunteers
Nairobi		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KWS Education Section & Nairobi NP	KWS Education Section & Nairobi NP	Better Use of Equipment and Facilities for Captive Animal Management	Retain JICA Volunteers
2-5. Monitor the Progress of Education Activities																	
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KWS Education Section	KWS Education Section		
3. Appropriate Development, Operation and Maintenance of Education Tools, Materials, Equipment and Facilities have been improved.																	
3-1. Conduct Training/Workshops for Education Officers on Planning and Development of Education Tools and Materials																	
Prepare and Conduct Workshop(s) on Multi-Media Material Development		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KWS Education Section	KWS Education Section	As Necessary to Hold Workshops	Train Education Officers How to Write Good Proposals for Audio-Visual Material Request
3-2. Conduct Technical Training for Multi-Media Officers on Production of Audio-Visual Education Materials																	
Assistance to In-house Training		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KWS Education Section	KWS Education Section	As Necessary	Require Proposal(s) for In-house Training
Participation in the Group Training (Multi-Media) in Japan		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KWS Education Section	KWS Education Section		Opportunities will be Shared with NMK
3-3. Conduct Training for Officers on Operation and Maintenance of Tools, Equipments and Facilities for Effective Use																	
Prepare and Conduct Site Visits for Training Officers on Handling of Audio-Visual Equipment		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KWS Education Section	KWS Education Section	As Necessary to Hold Workshops	Regular Site Visits and In-house Training will be planned
3-4. Follow up on the Application of Skills in the Operation of the Tools, Materials, Equipment and Facilities in the Target Areas																	
Coast		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KWS Education Section & Marine NPs & NRs	Marine NPs & NRs	As Necessary	Possible Topics would be Sea Turtle Conservation, Coral Reef Conservation, Conflict with Fishermen, Mangrove Conservation, etc.
Lake Nakuru		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KWS Education Section & Lake Nakuru NP	Lake Nakuru NP	As Necessary	Possible Topics would be Conflict with Local People over Water and Firewood, Rhino Conservation, Dynamism of the Unique Enclosed Ecosystems, Lake Pollution, Flamingoes, etc.
Nairobi		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KWS Education Section & Nairobi NP	KWS Education Section & Nairobi NP	As Necessary	Possible Topics would be Conflict with Local People over Co-Existence with Livestock, Captive Animal Management, Development of Edutainment in the Cosmopolitan, etc.
4. Carry Out Evaluation of the Project																	
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				

* Better avoid many activities from May to July (limited fund availability), August (many school visits and ASK) and December (many officers likely to take leave). Pay attention to the Ramadan period either.

Verification of Achievement

Annex 4 Evaluation Grid for Terminal Evaluation Study

Items	Detailed Items	Necessary Information / Data	Result
Inputs	Have planned inputs been provided as scheduled?	Japanese side 1. Personnel 2. Counterpart training in Japan 3. Counterpart training in third country 4. Provision of equipment 5. Local cost	1. - Long-term experts: In total Two (2); Wildlife conservation education/National park management and Wildlife conservation education/Coordinator - Short-term experts: In total Three (3); Wildlife conservation education and Conservation education material production - One (1) short-term expert will be dispatched from Sep. to Oct. 2007. (refer to Annex 5) 2. - Seven (7) short-term trainees in Japan, five (5) from KWS and two (2) from NMK; Digital video production for education and dissemination, Environmental education through a nature experience, and Environmental education for sustainable development - Two (2) more short-term trainees, both from KWS, will be sent to Japan before the termination of the project. - One (1) long-term training participant acquired Doctor's Degree of Education for wild animal protection at Kyoto University in March 2007. (refer to Annex 6) 3. - Three (3) counterpart personnel were dispatched to Malaysia to attend International Conference on Bornean Biodiversity and Ecosystem Conservation (BBEC) in February 2005. (refer to Annex 7) 4. - A total amount of Ksh 5.8million has been allocated for provision of equipment such as audiovisual equipment, PCs, glass-bottom boat, and captive management equipment including the planned budget. (refer to Annex 9) 5. - A total amount of Ksh 12.6 million has been allocated for local activities including the planned budget. (refer to Annex 11)
		Kenyan side 1. Personnel 2. Facilities and Equipment 3. Administrative and Operation Cost	1. Forty-three (43) counterpart personnel in total, including the project director and the project manager (refer to Annex 10) 2. Administrative office, education / information centres and vehicles have been provided. 3. Expenses for electricity, water supply and telephone line have been provided, and a part of the training workshop costs have been borne. (refer to Annex 11)
Outputs	1. Education implementation strategy has been developed.	1.1 Issue of the education implementation strategy 1.2 Level of collaboration between education department and other department at KWS	1.1 - Conservation Education Strategy (2006 – 2011) was issued in October 2006 1.2 - During the formulation of the Strategy, other departments were invited to the meetings to develop the strategy. They worked together as member of working groups. - Education department has been working together with other departments to implement the strategy for example by preparing an education manual, a monitoring plan, and so on.
Outputs	2. Capacity of education officers has been strengthened.	2.1 Number of trainings conducted 2.2 Number of officers trained 2.3 Level of skills attained	2.1 Eighteen (18) trainings/workshops were planned in total, which is not mentioned on PDM but on PO, and fourteen (14) trainings/workshops were conducted; 1) Nine (9) in-country trainings/workshops were conducted. 2) Three (3) short-term and one (1) long-term trainings were conducted in Japan. 3) One (1) international conference in Malaysia. 2.2 In total, Two hundreds and forty nine (249) officers not only from target areas but nationwide were trained. There was not clear target number of officers to be trained on PDM nor PO; 1) In total, two hundreds and forty one (241) officers were trained in in-country trainings/workshops. 2) In total, five (5) officers were trained in Japan. 3) Three (3) officers have participated and presented at the international conference in Malaysia. (refer to Annex 6.7.8) 2.3 - The participants of the trainings have acquired basic knowledge and skill about formulation of education programme, development of hands on materials such as making foot-cast, making skull specimens, exhibition methods, interpretation, and presentation etc. and have practiced them at their own station. - The participants of the trainings have enhanced the technical knowledge about marine life management, catchment's management, sustainable development, and so on.

Verification of Achievement

<p>Outputs</p>	<p>3. Appropriate development, operation and maintenance of education tools, materials, equipment and facilities have been improved.</p>	<p>3.1 Quality and quantity of education tools, materials, equipment and facilities 3.2 Status of education equipment and facilities 3.3 Number of trainings conducted 3.4 Number of officers trained 3.5 Level of skills attained</p>	<p>3.1</p> <ul style="list-style-type: none"> - The tools and materials have been improved in all the target areas; in Nairobi Education Centre, nature calendar and teacher's guide for Safari Walk were produced. In the Coast, educational video, hands on materials, and education programme were produced in some parks. In Nakuru Education Centre, information materials and hands on materials were produced, and educational video, nature calendar, etc. are in process of production. - In HQ, there are enough audiovisual equipments and facilities for production of education tools and materials. - In HQ, the audiovisual office was extended in Dec. 2006 and it enabled the office to accommodate all of the equipments provided by the project and cultural grant of Japan. - In Nakuru Education Centre, there are enough audiovisual equipments and facility for their educational activities. - In the Coast, generally there are not enough audiovisual equipments and facilities for their educational activities. - In Nairobi, Animal Orphanage has captive animal management equipments such as a fridge and a freezer. - In the Coast, Malindi MNP has a glass-bottom boat for education purpose. In Kishite MNP, some equipment were provided. - In Nairobi, exhibitions of Information Centre at Animal Orphanage and Education Centre were improved. Children Museum at Safari Walk was closed for a few years, however, as a result of the training workshop, exhibition was improved and reopened to the public in April, 2007. - In Nakuru, exhibition of the Education Centre was improved. <p>3.2</p> <ul style="list-style-type: none"> - In HQ, the audiovisual equipments provided by the project and cultural grant of Japan have been utilized well for the production of education materials. - In Nakuru, the bus provided by the cultural grant has been used as community shuttle twice a day on every Saturday, Sunday and Public Holidays for showing community people the park. - In Nakuru, the audiovisual equipments provided by cultural grant and the project have been utilized for education purposes since the officers participated in the training of the project - In Malindi MNP, the glass-bottom boat is used for education purpose. In Kisite MNP, some equipment is used for development of education materials. <p>According to the field inspection, generally the Education and Information Centres have been well maintained.</p> <ul style="list-style-type: none"> - In Nakuru Education Centre, in-house programme has been conducted about twice a week and in total 2,574 students and teachers visited the Centre in May 2007. - In Nairobi, 300 schools have visited the Safari Walk and Animal Orphanage every month on average. A group normally consists of 30-120 students. - In both of Watamu and Malindi MNP, schools have visited the Information Centre once a week on average. However, in-house programme has been conducted irregularly. <p>3.3</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) Eight (8) trainings were planned in total and seven (7) trainings/workshops/instructions have been conducted; <ul style="list-style-type: none"> - Three (3) trainings for video production have been conducted in Japan. - Two (2) in-country trainings for synopsis writing were conducted. - Two (2) field inspections and instructions were conducted. 2) On-the-job training has been conducted for production of audiovisual materials and operation of audiovisual equipments. <p>3.4</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) In total 76 officers not only from target areas but nationwide were trained, although there was not clear target number of officers to be trained on PDM or PO; <ul style="list-style-type: none"> - Three (3) audiovisual officers, one (1) from KWS and two (2) were from NMK, have been trained in Japan. - Seventy-three (73) officers from various departments and areas were trained in the occasions of trainings/workshops and field inspections. (refer to Annex6. 8) 2) Three (3) audiovisual officers at HQ have been trained through on-the-job training. <p>3.5</p> <ul style="list-style-type: none"> - The participants of the trainings have acquired basic knowledge and skill to write synopsis of video materials and operation and maintenance of equipments. - The audiovisual officers have acquired basic and applied technique of producing video, poster, brochure, etc. and been able to use latest equipments to make high quality teaching materials.
-----------------------	--	--	---

Verification of Achievement

Project Purpose	To strengthen the institutional capacity of KWS for effective implementation of wildlife conservation education	<p>1. Degree of implementation of the education strategy</p> <p>2. The quality and quantity of education activities in the target areas</p> <p>3. The level of utilization of education tools, materials, equipment and facilities</p>	<p>1.</p> <ul style="list-style-type: none"> - Out of 30 activities planned in the first year in KWS Conservation Education Strategy, 24 activities have started. - The other 4 activities and 6 activities planned for second year will start before the project ends in February 2008. <p>2.</p> <ul style="list-style-type: none"> - All of the education-related officers interviewed in the target areas answered the quality of education activities had improved after the trainings of the project; mainly communication and presentation skills. - Some of the education-related officers have already produced education materials with the knowledge acquired from the training workshops. - In Nakuru, the education activities have become more emphasized. Consequently, they conduct in-house programme twice a week on average nowadays. - In Nairobi, the education-related officers have been conducting many activities since before the project, so the quantity of the activities has not changed significantly while the quality of them has been highly improved. - In the Coast, most education-related officers have not conducted education activities so many times. It is mainly because they have been involved in other activities such as security, human-wildlife conflict, and so on. However the knowledge and skills acquired through the training workshops such as communication/presentation skill are utilized to deal with communities. <p>3.</p> <ul style="list-style-type: none"> - In Nairobi Safari Walk, Nairobi Education Centre and Animal Orphanage, the education tools and materials produced have been well utilized and many people visit the Children Museum and Information Centre every day. - In Nakuru Education Centre, the education materials, equipments and facilities have been well utilized while some tools are in process of production. - In the Coast, education activities are not so active compared with Nairobi and Nakuru Education Centres mainly due to officers' engagement in other duties, lack of equipments and education-related officers. - In HQ, audiovisual equipments and facilities have become more utilized for educational material production than before. - In Nakuru Education Centre, audiovisual equipments and facilities have not been utilized enough before the project. However, they have become to be utilized about twice a week for in-house programme.
Overall Goal	To enhance awareness and participation in wildlife conservation by Kenyan citizens	The number of citizens participating in wildlife conservation and awareness activities in the target areas	<ul style="list-style-type: none"> - The relationship between KWS and community people has been improving. The progress of the Project has accelerated it through the communication skill trainings and the exchange workshops. - Some communities have started to notice the deterioration of their surrounding environment and the necessity of environmental conservation activities. - Some communities have already started conservation activities and KWS has been supporting them. - Although these are mainly because of long-time effort of KWS and other stakeholders such as NGOs, the improvement of knowledge and skills of KWS staffs will be helpful to support their activities from now on.

ⁱ On the documents distributed during 1st and 2nd JCC, there're figures on numbers of participants in each training/workshop. However, those figures include not only KWS staff but also lecturers, stakeholders to be invited to trainings/workshops.

Verification of Implementation Process

Evaluation Criteria	Evaluation Questions		Findings
	Main Questions	Sub Questions	
Implementation Process	Were the activities implemented as scheduled? How did the project work on?	Were the inputs enough for the implementation of the activities?	<ul style="list-style-type: none"> - Concerning the Japanese side, counterpart personnel training, provision of equipment and local cost were appropriate. If there is one more long-term expert, it might be preferable to manage, monitor and follow up various activities in three target areas. - Concerning the Kenyan side, facilities and equipments were provided enough. However, if KWS had arranged more education related officers in NPs, implementation of conservation education activities would have made better progress.
		Which activities were not implemented as scheduled? What were the internal / external disincentives?	<ul style="list-style-type: none"> - The issue of KWS Conservation Education Strategy was delayed. It was mainly because KWS had been formulating KWS Strategic Plan. - Monitoring and follow up of education activities in Nakuru and the Coast have been not sufficient. It is mainly due to limited number of personnel in the project for the size of the target area and lack of appropriate monitoring system, which is being developed at present. - Frequent transfer of counterpart personnel had negative influence on the progress of the planned activities
		How did the project work on the activities, which were not implemented as scheduled?	<ul style="list-style-type: none"> - The project has collaborated with Japanese volunteers and the intern to facilitate the production of education tools and materials. - The Project and JICA requested KWS not to transfer counterpart personnel so frequently.
		Which activities were implemented as scheduled or more than expected? What were the internal / external accelerators?	<ul style="list-style-type: none"> - In Nairobi, production of education tools and materials were implemented as scheduled with assistance of Japanese volunteers and the intern and production of radio programme was implemented additionally.
		How did the project work on the activities, which were implemented as scheduled or more than expected?	<ul style="list-style-type: none"> - The project has been collaborating with Japanese volunteers, Japanese intern on attachment, Kenyan students on attachment to KWS and Rangers in the target areas.
	How was the implementation structure of the project? How did the project work on?	Was the project implemented in accordance with the PDM? Was the PDM updated according to circumstances?	<ul style="list-style-type: none"> - The project has been implemented in accordance with PO, which was made according to the PDM. - PDM has not changed since the M/M was signed in October 2004, therefore, the indicators (OJV) have not changed. It made the monitoring of the project difficult.
		Was the project implemented in accordance with the PO? Was the PO updated according to circumstances?	<ul style="list-style-type: none"> - The activities of the project have been implemented in accordance with PO. - PO was updated twice (2) in JCC according to the priority and necessity of the activities.
		Were the monitoring of the project implementation and its feedback conducted properly?	<ul style="list-style-type: none"> - Monitoring of the project has been conducted three (3) times a year; twice (2) in progress report and once (1) in JCC. PO has been changed according to the result of the monitoring.
		Were the monitoring of the technical transfer and its feedback conducted properly?	<ul style="list-style-type: none"> - Questionnaires have been conducted at the end of all the trainings and workshops. It was to know satisfaction of participants etc. However, the level of understandings has not been measured. - The monitoring has not been conducted sufficiently in Nakuru and the Coast due to limited time and personnel for the size of the target area and lack of appropriate monitoring system, which is being developed at present.
		Was the communication with in and out of the project good? If not, was it solved properly?	<ul style="list-style-type: none"> - The collaboration with other departments and other organizations has been good, particularly with community wildlife service department of KWS, WCK and NMK. For development of more informative and scientific education tools and materials, collaboration with KWS research department is need to be enhanced.

Verification of Implementation Process

Evaluation Criteria	Evaluation Questions		Findings
	Main Questions	Sub Questions	
Implementation Process	Were Counterpart personnel properly allocated? If not, how did the project work on?	Were the counterpart personnel's positions in KWS appropriate? If not, how did the project work on?	- The positions of counterpart personnel have been generally appropriate; The project manager is assistant director of the conservation education department in HQ, who is in charge of all the education activities of KWS.
		Were the consciousnesses, capacities and experiences of the counterpart personnel enough? If not, how did the project work on?	- The experiences of counterpart personnel are generally appropriate; the project manager has long experience not only as officer in KWS but also as teacher in schools, and one of the counterpart personnel has worked with the project since the planning stage of it.
		Were there frequent transfer and shift of the counterpart personnel? If so, how did the project work on?	- The transfer of the counterpart personnel has been frequent; project managers have changed three (3) times and other counterpart personnel have also changed frequently. Therefore, the Project members and JICA requested KWS HQ to reconsider its frequent transfer of the counterparts after which KWS positively responded.
	How were the recognition, participation and cooperation of KWS, target group and other organizations? How did the project boost?	How were the recognition and participation of KWS? How did the project boost them?	- The project invited education-related officers from the whole country to the workshops and facilitated the participation of KWS, although the target areas of the project are Nairobi, Nakuru and the Coast only.
		How were the recognition and participation of KWS staffs? How did the project boost?	- Ditto
		How were the recognition and cooperation of Japanese volunteers? How did the project boost?	- In all the target areas, Japanese volunteers have been key persons of conservation education activities and they supported activities of the education-related officers when they were busy with other activities.
		How were the recognition and cooperation of other organizations? How did the project boost?	- Education department of KWS has worked with WCK and NMK for long time, and the relationship and collaboration have become stronger since the project started. Each organization has different strength and weakness so they supplement weakness of other organizations each other. Through the trainings and workshops, they have learned more about other organizations and started to collaborate more.
	How was the way of technical transfer by the JICA experts?	Did the JICA experts give advices appropriately?	- Counterpart personnel are fully satisfied with chief advisors' advices. - Counterpart personnel are satisfied with short-term experts' advices as well.
		How was the relationship among JICA experts and counterpart personnel? How did they make it favourable?	- Generally the relationship has been good and there were no discontent from both sides.
	Were the trainings implemented appropriately according to the needs of the target area and groups? How did the project work on?	Were the needs of the area and groups reflected in the trainings? How did the project work on?	- Most participants of trainings answered the trainings matched the needs. - New ideas such as interactive and participatory way of trainings and an exposure workshop were introduced, which satisfies the participants. - The project conducted Training Needs Assessment of officers when they planed the trainings, and also exchanged the opinion with JCC members. - The project selected the participants from in and out of the target areas.
		Were the monitoring and evaluation of the trainings implemented properly? How did the project work on?	- Questionnaire surveys were conducted at the end of all the trainings to know participants' satisfaction etc. - Post-mortem meetings were conducted after all the training by the organizers to evaluate the training. - Field trips to Nakuru and the Coast were conducted for the monitoring and evaluation, which was not sufficient due to limited personnel and time, vastness of target areas and lack of appropriate monitoring system, which is being developed at present. - Japanese volunteers have supported the monitoring and follow-up of the training in their stations.
		Were the results of monitoring and evaluation fed back to the planning of the next trainings? How did the project work on?	- Monitoring and evaluation have not been sufficient at Nakuru and the Coast as mentioned above. - Results of post-mortem meetings were used to improve undertaking the next training.

Verification of Implementation Process

Evaluation Criteria	Evaluation Questions		Findings
	Main Questions	Sub Questions	
	Were there any internal / external disincentives / accelerators, which affected significantly on the whole process of the project?		<ul style="list-style-type: none">- KWS started to put emphasis on conservation education after the issue of KWS Strategic Plan in April 2006.- Frequent change of counterpart personnel disturbed the progress of the project.- Japanese volunteers, Japanese intern on attachment, Kenyan students on attachment to KWS and Rangers supported education related officers to conduct education activities at the fields and assisted the progress of the project.- Introduction of performance appraisal of employees improved the commitment of the staffs.- As a result of the structure reform, education department was newly established in HQ and has been mandated to coordinate and monitor all the education centres in the country. It had a positive influence on the Project. However, during the transition period, the responsibility of the Project's activities was unclear for some time.

Evaluation from 5 Criteria

Evaluation Criteria	Evaluation Questions		Findings
	Main Questions	Sub Questions	
Relevance	Is the project consistent with the national policy of Kenya?		<ul style="list-style-type: none"> - In I-PRSP, ERS and Vision 2030, the importance of ecosystem conservation for tourism attraction and conservation education and awareness of the people is recognized... - In the draft wildlife policy presented in May 2007, human-wildlife conflict, human resources development and conservation education are referred to as major issues.
	Is the project consistent with Japanese foreign aid policy?	Is the project consistent with foreign aid policy of the Japanese government?	<ul style="list-style-type: none"> - In the ODA charter and the ODA medium term policy, one of the priority themes is global issues, and environmental problems are recognized as such. - In the ODA medium term policy, nature conservation is one of the priority themes under environmental problems. - In EcoISD, capacity development in the environment sector is a part of the basic policy, and nature conservation is one of the priority areas.
		Is the project consistent with country assistance programme of the Japanese government?	<ul style="list-style-type: none"> - In the country assistance programme for Kenya, human resources development and environmental conservation are recognized as priority areas.
	Are the target sector, area and group of the project appropriate?	Are the target sector and approach, capacity building for conservation education, consistent with the needs of the group and the area?	<ul style="list-style-type: none"> - In the country, human-wildlife conflict is one of the most serious issues. To mitigate the conflict and conserve wildlife, KWS needs to strengthen its' capacity in the areas of education and awareness. - Education-related officers' capacity was low before the project because KWS had not laid enough emphasis on their capacity development.
		Was the target area appropriate?	<ul style="list-style-type: none"> - More than half of the education facilities of KWS are located in the target areas; 2 education centres out of 4, 5 information centres out of 9, and 2 other education facilities out of 3. - Depending on each case, the target areas are relatively ideal considering their richness in biodiversity, threats to conservation and destruction of environment, and the high numbers of visitors.
		Was the target group appropriate?	<ul style="list-style-type: none"> - The target group is education-related officers, who include community wildlife service officers, audiovisual officers, animal keepers, etc. This was appropriate from the viewpoint of capacity building for KWS as a whole. - In Nakuru and the Coast, most officers are engaged in other duties besides education. Ideally there should be officers specifically assigned to education in the project areas.
	Is the approach of the project appropriate?	Is the project appropriate as a strategy for capacity building of conservation education?	<ul style="list-style-type: none"> - In general, the project outputs are appropriate for the achievement of capacity building in the area of conservation education.
	Does Japan have comparative advantages in the sector and area?	Does Japan have enough experience and resources in the country in the sector?	<ul style="list-style-type: none"> - In Japan, there are 28 national parks and 90 visitor centres. The visitor centres have exhibitions for education purposes. There are 2,971 park instructors and 1,798 park volunteers who assist in the performance of daily work, which include environmental education. - There are also many nature museums, zoological gardens and botanical gardens. These facilities employ curators and conduct environmental education to the general public.
		Does Japan have enough experience of aid in the sector?	<ul style="list-style-type: none"> - The government of Japan, through its Ministry of Environment and also JICA has implemented many technical cooperation projects in environmental conservation and education all over the world.
		Does Japan have enough experience of the sector in Kenya?	<ul style="list-style-type: none"> - JICA has dispatched experts and volunteers to KWS since 1992 and 1978 respectively. - The government of Japan has granted vehicles, construction machinery, etc, to KWS since 1992.
	Does the project avoid duplication and exhibit multiple effects with other donor agencies?		<ul style="list-style-type: none"> - Although other donor agencies, e.g. USAID, AFD and EU, supported KWS in 2006, there has been no duplication of the activities with JICA. At present, coordination among main donors has been enhanced through donor group meeting.
	Others	Were there any changes in the surrounding condition of the project since the project started?	<ul style="list-style-type: none"> - As a result of structural reforms at KWS, the education department was established in HQ and it started to monitor all the education centres in the country.

Evaluation from 5 Criteria

Evaluation Criteria	Evaluation Questions		Findings
	Main Questions	Sub Questions	
Effectiveness	How much have the project purpose been achieved and is expected to be achieved?		(as per achievement table)
	How much have outputs contributed to the achievement of the project purpose?	How much the conservation education strategy has been implemented?	<ul style="list-style-type: none"> - Out of the 30 activities planned for the first year in the KWS conservation education strategy, 24 activities have already started. - The other 4 activities will also commence before the project ends in February 2008. Six others planned for the second year will also begin before the project ends.
		How much the trained staffs have utilized their knowledge in the training for environmental education?	<ul style="list-style-type: none"> - In questionnaire survey, the majority of officers answered that they had made education tools or materials utilizing what they had learned in the training sessions. In the field survey, however, some of them had not made any yet. - In Nairobi and Nakuru, most trained officers have been well utilizing their knowledge. In the Coast, on the other hand, they have been assigned other duties such as security, revenue generation etc. and hence unable to conducting education activities so much.
		How much the education tools, materials, equipments and facilities have been utilized?	<ul style="list-style-type: none"> - The facilities and exhibition centres have been improved in Nairobi and Nakuru. - In HQ, the audiovisual section has been using the equipment to produce various kinds of education materials. - In Nairobi, the Safari Walk Teacher's Guide and the Nature Calendar are being utilized by teachers and visitors to the Safari Walk. - In Nakuru, some education tools and audiovisual equipment have been used to teach school children. The exhibition has also been improved and is being utilized. - In the Coast area, most KWS NPs have not been able to conduct education activities so much.
	Were there any internal / external factors that had negative / positive influence on the achievement of the project purpose?	Were there any good linkages with other organizations?	- The education department of KWS has been working together with other organizations such as WCK and NMK for long time. Since each organization has different strengths and weaknesses, they supplement the weaknesses of some with the strengths of the others.
		Were there any good linkages with other departments of KWS?	- The collaboration with other departments has been good both at HQ and NPs levels particularly with community wildlife service department of KWS. However, with the progress of the project, the need for more collaboration with the research department is required for development of more informative and scientific education materials.
		Have the trained staffs retained in the education sector?	- Most of the trained officers have been retained so far. In the Coast, however, they are actually assigned to other duties and education is an additional assignment. In this case, sometimes full engagement in education activities may be hampered.
		Have appropriate resources been secured and availed for the education?	<ul style="list-style-type: none"> - In Nairobi and Nakuru, most of the trainees are satisfied with the budget distribution by KWS. - In the Coast, on the other hand, most of them do not think they have enough budget for educational activities. - Most of the trainees are of the opinion that there are not enough education officers at their station. - In general, the officers in the NPs are of the opinion that it is becoming easier to get budget from HQ.
		Were there any other internal / external negative / positive influences on the achievement of project purpose?	<ul style="list-style-type: none"> - The limited number of education officers hinders the production of education tools and materials and the conduct of education activities - As a result of structural reforms at KWS, the education department was established in HQ and has been mandated to coordinate and monitor all the education centres in the country.

Evaluation from 5 Criteria

Evaluation Criteria	Evaluation Questions		Findings
	Main Questions	Sub Questions	
Efficiency	How much have the outputs been achieved and are expected to be achieved?		(as per achievement table)
	Compared with the outputs, were the quality, quantity and timing of the inputs appropriate?	Were the number of experts, their expertises and the timing of the dispatches appropriate?	- If there is one more long-term expert, it might be preferable to manage, monitor and follow up various activities in three target areas, because of the vastness of the target areas and the variety of the activities and an appropriate monitoring method had not been developed.
		Were the types, quantity and organization of equipment provision appropriate?	- Equipments was provided for KWS offices in and out of the target areas. - The equipment provided for HQ, Nairobi and Nakuru is fully utilized and generally appropriate. - In the Coast, some parks namely Malindi MNP and Kisite MNP received the equipment for education activities or production of education materials.
		Were the number of trainees, field of the trainings and their period appropriate?	- Most officers trained are of the opinion that the training sessions met their needs and are satisfied because the training gave them new ideas.
		Were the number, placement and skills of the counterpart personnel appropriate?	- The number and skills of the counterpart personnel was appropriate in general. - The frequent change of counterpart personnel disrupted the efficient implementation of the project activities.
		Were there any problems concerning the buildings and facilities; quality, size, convenience, etc.	- There were not problems concerning buildings, facilities etc.
		Were there any influences of Japanese Volunteers' on the achievements?	- Senior Volunteers have worked as audiovisual trainers in the training sessions. - Senior Volunteers and the other JOCV have followed up the participants of the trainings. - Senior Volunteers and the other JOCV have followed up the proper utilization of the equipment. - Senior Volunteer and other JOCV have assisted the trainees to produce education materials and tools.
		Was any equipment, which was donated from Japan before the project, utilized in the project?	- Vehicles, audiovisual equipments, PCs, etc. in the past assistance have been fully utilized by the project whenever the need arises, hence supplementing other equipment provided during the Project period.
	Were there any internal / external negative / positive factors influenced on the achievement of the outputs?		- A Japanese intern on attachment assisted to develop the Teacher's Guide for the Nairobi Safari Walk. - Expansion of Multi-media office was delayed and it took time to be able to use audio visual equipment purchased by the Project affected development of education materials. - During establishment of education department at HQ, It was not clear who was responsible for the project activities. However, once the department was fully established, it has been promoting the implementation of the Project.

Evaluation from 5 Criteria

Evaluation Criteria	Evaluation Questions		Findings
	Main Questions	Sub Questions	
Impact	How much prospects of the overall goal to be achieved are there?	Does (Will) the number of the community people participating in wildlife conservation activities increase?	<ul style="list-style-type: none"> - The awareness of community people has improved in the target areas. The number of community members participating in environmental activities such as tree planting has increased. This is partly due to the capacity development by the project it is mostly as a result of the long-term efforts made by KWS and other stakeholders over the last one or two decades. - After the workshop conducted by the Project, a forum has been established in the Coast area for information sharing and coordination of conservation activities, which is expected to enhance conservation activities in the area. - Generally, community members participate in activities that lead to income generation. From this point of view, if the people find ways to combine conservation activities and income generation, the number will increase.
		How much does (will) the capacity building in KWS have positive effects on the participation of community people in nature conservation?	<ul style="list-style-type: none"> - In the training sessions, education officers improved their education and communication skills. If they continue education and awareness activities in schools and communities, it will have positive effects on the participation by community members and school children.
		Does (will) the project have any influenced on the national policy	<ul style="list-style-type: none"> - The project has not had influence on the national policy so far - However, since the education capacity of KWS has been improved, it is expected that the GoK may recognize their role and reflect it on the national policy in future.
		Are there any internal / external factors that had negative / positive effects on the participation of citizens?	<ul style="list-style-type: none"> - In Nakuru, deforestation, soil erosion, water pollution of the Lake Nakuru etc. have been serious environmental problems in recent years; some organizations started environmental activities such as creating community awareness, afforestation, etc. - At the Coast, the decrease of fish population, destruction of coral, deforestation of mangroves etc. have been serious environmental problem in recent years. Due to this some organizations have been promoting conservation activities in the area. - The economy of Kenya has been getting better and nowadays more people can afford to send their children to environmental education facilities than before. - The draft Wildlife Policy and draft Wildlife Bill presented in May 2007 will enhance the participation of communities in wildlife conservation if it is adopted.
	How much the achievement of the project purpose is expected to contribute to the overall goal?	How (will) the community increase their participation in wildlife conservation activities	<ul style="list-style-type: none"> - In addition to awareness created by KWS officers, community can participate more in wildlife conservation activities if they can enjoy economic growth and other such benefits from wildlife conservation activities.
	How much ripple effect is expected from the project		<ul style="list-style-type: none"> - If KWS takes the leadership in collaboration with other stakeholders, conservation education activities of KWS will be more effective and efficient. - Improvement of the capacity of education officers and facilities attract not only school children but also tourist. Tourism in Kenya will therefore be more attractive. - Increase in awareness and participation by the people leads to the mitigation of human wildlife conflicts and environmental degradation, as well as improvement of living standard.

Evaluation from 5 Criteria

Evaluation Criteria	Evaluation Questions		Findings
	Main Questions	Sub Questions	
Sustainability	Is it expected that the government of Kenya will put emphasis on wildlife conservation and education?		<ul style="list-style-type: none"> - In I-PRSP, ERS and Vision 2030, importance of ecosystem conservation to attract tourists, and education and creation of awareness of communities is recognized. - In the draft Wildlife Policy and draft Wildlife Bill presented in May 2007, human wildlife conflict, human resources development and conservation education are referred to as major issues.
	Is it expected that KWS will continue the activities on wildlife conservation education?	How much the wildlife conservation education will be emphasized in Kenya?	- Ditto
		How much the wildlife conservation education will be emphasized in KWS?	<ul style="list-style-type: none"> - As a result of the structural reforms within KWS, the education department was established at the HQ in March, 2006. - Since KWS Conservation Education Strategy was issued, the role of the education department has been becoming important.
		How many staffs will be involved in wildlife conservation education?	<ul style="list-style-type: none"> - There are 46 education-related officers in total; 38 officers hold additional posts such as community wildlife service officers, animal keepers. - There are many other officers related to education matters, e.g. multimedia officer, community officer, etc. - In Nakuru and Coast, most officers are assigned other duties and education is an additional activity hence they sometimes are unable to fully engage in it.
	Is it expected that KWS will get enough budgets for wildlife conservation education?	What are the sources of recurrent and project costs for education in KWS?	<ul style="list-style-type: none"> - In 2005/06, the total income was Ksh 1,770 million; 89 % was from the park entry and accommodation fees. - In 2005/06, the total amount of grant on recurrent expenditure was Ksh 905 million.
		How much has KWS had recurrent and project costs for education recently?	- Although there is not detailed information about the expenses for education, in Nairobi and Nakuru most officers think they do not aware the shortage of education budget. On the other hand, in the Coast most offices think they have not had enough budgets for education while it has been increasing in last few years.
		How much is KWS expected to get recurrent and project budgets for education?	<ul style="list-style-type: none"> - In KWS strategic plan, Ksh 70 million is estimated as budget for education in 5 years. - In KWS conservation education strategy, Ksh 171 million is estimated as budget for education in 5 years - In 2007/08, education department of HQ has budget of Ksh 5 million.
	Is it expected that the trainings of conservation education to KWS staffs will be implemented continuously after the project?	How much does KWS emphasize capacity building of the staffs for conservation education?	<ul style="list-style-type: none"> - KWS recognized that the capacity building of the staffs is very important. However, they do not have enough budgets to conduct trainings by themselves. - When KWS plan training for the staffs they conduct Training Needs Assessment, that is, they decide contents of training according to demand from the staffs.
		Does KWS have any plans to continue the trainings?	<ul style="list-style-type: none"> - In KWS education strategy, Ksh 7.1 million is estimated as budget for capacity improvement in 5 years. - Education department estimated budget for training programmes after the project: Ksh 3.9 million per year. - KWS intends to request for budget on conservation education trainings from next fiscal year
		Is KWS expected to get enough human and financial resources for the trainings?	<ul style="list-style-type: none"> - In terms of human resources, the participants of the trainings in Japan can be trainers to other staffs. - In terms of financial resources, the financial status of KWS has been improving and the total expenditure increasing too; from Ksh 1,615 million in 2002/03 to Ksh 2,643 million in 2005/06. - Most of the expenditure has been not for capacity buildings but for other purposes; in 2005/06, Ksh 1,251 million (47%) and Ksh 1,082 million (41%) were spent for personnel and operating cost respectively. - In 2005/06, the expenditure for training and development was Ksh 59 million in KWS. However, this figure does not include the trainings for conservation education.
		How much is KWS expected to get support from donors / NGOs to implement the trainings?	<ul style="list-style-type: none"> - In 2005/06, in total 28 donor organizations supported KWS. However, any of them did not support to conduct the same kind of trainings as the Project does. - At this moment, KWS is not expected to get any support for the trainings from the donor organizations. - Although KWS has been trying to be financially independent, still needs to be supported from outside.
	Is it expected that the transferred technique will become established and widespread?	How much the capacity of the counterpart personnel has improved?	<ul style="list-style-type: none"> - The training method using workshop, exposure and exchange, has been transferred to the education officers in HQ and some field offices, so they have become to plan and conduct the same kind of trainings. - Eight (8) counterpart personnel trained in Japan have improved their capacity and they can be trainers to other officers in KWS.
		Have the trained staffs been transferring the techniques to the colleague?	- According to the questionnaire, about a half of trainees have already transferred what they learned to their colleagues through OJT, etc.
		Are the training materials prepared in the project easy to understand?	- Most of the trainees think the training materials are easy to understand and they understand well.

Annex 5: List of Japanese Experts

Name	Assignment	Period	Office affiliated
【Long-term】			
Hiroshi IMAE	Wildlife Conservation Education/ National Park Management	14 February, 2005 ~ 10 March, 2006	KWS HQ
Kazuhiro NITTA	Wildlife Conservation Education/ Coordinator	23 February, 2006 ~ 22 February, 2008	KWS HQ
【Short-term】			
Koji YAMAZAKI	Wildlife Conservation Education	5 January, 2006 ~ 15 February, 2006	KWS HQ
		27 February, 2007 ~ 22 March, 2007	KWS HQ
Mie HORIUCHI	Conservation Education Material Production	17 February, 2007 ~ 28 February, 2007	KWS HQ
Yukino IWAI	Community and Conservation Education	24 September, 2007 ~ 23 October, 2007	KWS HQ

Annex 6: List of Kenyan Counterpart Personnel Trained in Japan

	Name	Course Title	Duration	Post	Organization /Department
Education					
1	Mr. Dickson Katoliki RITAN	Environmental Education through a Nature Experience	2005/10/10 ~ 2005/11/19	Assistant Warden	KWS - Meru National Park
2	Mr. Richard Kiprotich CHEPKWONY		2005/10/10 ~ 2005/11/19	Education Officer (Naturalist)	KWS
3	Ms. Edith Nancy Akinyi JURA		2006/10/09 ~ 2006/11/19	Assistant Warden	KWS
4	Ms. Grace Wangari KARIUKI	Environmental Education for Sustainable Development	2006/09/26 ~ 2006/11/11	Assistant Warden II	KWS
5	Mr. Charles Mutua MUSYOKI	Education for Wild Animal Protection	2004/03/22 ~ 2007/03/27	Senior Scientist	KWS
Audio Visual					
1	Mr. Obed Mui MULE	Digital Video Production for Education and Dissemination	2005/08/23 ~ 2005/12/17	Communication Assistant	KWS
2	Mr. Mark Ng'ang'a KAMAU		2006/08/22 ~ 2006/12/16	Audio Visual Officer	National Museums of Kenya
3	Mr. Gilbert Busolo LUSWETI		2007/08/14 ~ 2007/12/01	Audio Visual Technician	National Museums of Kenya

Annex 7: List of Kenyan Counterpart Personnel Trained in Third Country

	Name	Course Title	Duration	Post	Organization /Department
1	Mr. James Mathenge	International Conference on Bornean Biodiversity and Ecosystem Conservation	2005/02/22-27	Assistant Research Scientist	KWS
2	Mr. Solomon Kyalo		2005/02/22-29	Assistant Research Scientist	KWS
3	Mr. Edward Indakwa		2005/02/22-28	Corporate Communication Officer	KWS

Annex 8: List of Training Workshops implemented (as of August)

	Course Title	Duration	Number of Trainees
Education			
1	Exposure & Exchange Workshop on Marine Life Management	April, 2005	15
2	Technical Exchange on Captive Management	December, 2005	36
3	Training Workshop on Education Aid Development	February, 2006	30
4	Training Workshop on Presentation Skills & Synopsis Writing	August, 2006	28
5	Exposure & Exchange Workshop on Nakuru	October, 2006	23
6	NWS Nature Calendar/Eco-school Development & Synopsis Writing	February, 2007	31
7	Training Workshop on Education Aid Development	March, 2007	30
8	Training Workshop on Presentation and Communication Skills	May, 2007	27
9	Exposure & Exchange Workshop on Marine Ecosystems and Sustainable Management	July, 2007	21
Sub total			241
Audio Visual			
1	Training Workshop on Presentation Skills & Synopsis Writing	May, 2006	28
2	NWS Nature Calendar/Eco-school Development & Synopsis Writing	January, 2007	31
3	Field Inspection & Instruction for Operation/Maintenance of AV Equipment	JFY 2005	6
4	Field Inspection & Instruction for Operation/Maintenance of AV Equipment	JFY 2006	8
Sub total			73
Grand Total			314

Annex 9: List of Equipment provision by Japanese side

No.	Item	Price (Ksh)	Purchase/Delivery date	unit	Manufacturer	Model type	management in charge
JFY2004							
	Subtotal	0					
JFY2005							
1	Glass-bottom Boat	577,125	2005.11.11	1	Order-made	28ft long, 25 pax	Malindi MNP
2	Outboard Engine	230,400	2005.11.11	1	Yamaha	40HP	Malindi MNP
3	Fender	19,040	2005.11.11	6			Malindi MNP
4	Life Jacket	210,000	2005.11.11	60			Malindi MNP
5	Life Ring	63,525	2005.11.11	10			Malindi MNP
6	Snorkelling Equipment	28,800	2005.11.11	3			Malindi MNP
7	Video Editing Machines	1,348,400	2005.9.9	1	AVID, HP	Xpress Pro HD with MOJO, XW8200 PC Workstation	HQs Multi-media
8	UPS	45,240	2005.8.17	2	MGE	NOVA 1100	HQs Multi-media
9	Desktop Computer (for DP)	149,320	2006.3.22	1	Mecer	MX-P6, MS Office XP2003	HQs Multi-media
10	Desktop Computer	113,000	2006.3.22	1	Mecer	MX-P6, MS Office XP2003	Animal Orphanage
11	External Hard Disk	22,500	2006.3.22	1	Seagate	250GB	HQs Multi-media
12	Software (for DP)	145,000	2006.3.31	3	Adobe	Acrobat 7.0 STD	HQs Multi-media
13	Multi-functional Color Pinter	42,600	2006.3.22	1	HP	Office Jet 7313	HQs Multi-media
14	UPS	16,000	2006.3.22	2	Mecer	Blazer 1KVA	HQs Multi-media
15	Binder	45,000	2006.3.31	1	Rexel	CB 355	HQs Multi-media
16	Refrigerator	26,400	2006.3.17	1	LG	GR-T242QM	Animal Orphanage
17	Deep Freezer	49,000	2006.3.17	1	Ariston	MO450 TFA	Animal Orphanage
18	Hand-held Radio	275,000	2006.3.17	10	Motorola	VHF, Buttery Charger	Nairobi Ed Centre
	Subtotal	3,406,350					
JFY2006							
1	Desktop Computer	500,900	2007.3.30	4	HP/Compaq	DC7700, Windows XP Pro	HQs, Tsavo West, Kisumu Impala, Kisite-Mpunguti
2	Inkjet Color Printer	197,500	2007.3.30	4	HP	Business Inkjet 2300	Tsavo East, Tsavo West, Kisumu Impala, Kisite-Mpunguti
3	UPS	114,000	2007.3.30	4	APC	Smart 1000	HQs, Tsavo West, Kisumu Impala, Kisite-Mpunguti
4	Digital Compact Camera	148,000	2007.3.30	4	Canon	Power Shot A430, Battery Charger	HQs, Tsavo West, Kisumu Impala, Nakuru
5	Digital Lens Camera	145,000	2007.3.30	1	Nikon	D70S	HQs Multi-media
6	Zoom Lens (for Digital Camera)	45,000	2007.3.30	1	Nikon	18-70mm Lens	HQs Multi-media
7	Digital Video Camera	594,020	2007.3.30	1	SONY	PD170AP Camcorde, Wide-angle Adapter, Battery Charger, Carrying Case (PCCB2)	HQs Multi-media
8	Carrying Case (for Video Camera)		2007.3.30	1	Petrol	PCCB2	HQs Multi-media
9	Tripod (for Video Camera)	70,880	2007.3.30	1	Manfrotto	501/525, Carrying Case	HQs Multi-media
10	Inkjet Color Printer	19,860	2007.3.30	1	HP	Deskjet 1280	Nakuru
	Subtotal	1,835,160		21			
	Total	5,241,510					

Annex 10: List of Kenyan Couterpart Personnel

	Post/Assignment	Name	Period
Project Director			
1	Director, KWS	Dr. Julius Kipng'etich	2004 Dec to date
Project Manager			
2	Assistant Director-Education	Mr. Edin Kalla	2005 Feb-Dec
3	Assistant Director-Education	Mr. Josiah Achoki	2006 Jan-Mar
4	Assistant Director-Education	Mr. Robert Muwasja	2006 Apr-Aug
5	Assistant Director-Education	Mr. Paul Mbugua	2007 Sept to date
Counterpart Staff			
KWS HQ			
6	Senior Warden-Education	Ms. Mary Kirabui	2006 Apr to date
7	Warden-Education	Mr. Dickson Ritan	2007 Mar to date
KWS Nairobi			
8	Senior Warden-Education	Mr. Richard Obanda	2005 Feb to date
9	Senior Warden-Education	Mr. Muteru Njayini	2006 Apr-Aug
10	Warden-Education	Mr. William Kiptoo	2005 Feb-2006 Aug
11	Warden-Education	Ms. Grace Nzale	2005 Feb-2007 Mar
12	Warden-Education	Ms. Eunice Kiarie	2006 Sept to date
13	Assistant Warden-Education	Ms. Karen Ndiema	2005 Feb to date
14	Naturalist-Safari Walk/Orphanage	Mr. Daisy Mbogo	2005 Feb-2006 Dec
15	Naturalist-Safari Walk/Orphanage	Ms. Mary Chege	2005 Feb to date
16	Naturalist-Safari Walk/Orphanage	Mr. Jackson Asila	2007 Jan to date
17	Multi-media Resource Manager	Mr. Charles Ooro	2006 Feb to date
18	Multi-media Officer	Mr. Obed Mule	2006 Feb to date
19	Multi-media Officer	Mr. Athanas Mballa	2005 Feb-2006 Dec
20	Curator-Safari Walk/Orphanage	Dr. Adeela Sayyid	2005 Feb-2006 Aug
21	Curator-Safari Walk/Orphanage	Dr. Edward Kariuki	2007 Jan to date
22	Animal Keeper	Mr. Eliud Kimathi	2005 Feb to date
23	Animal Keeper	Mr. Jones Mutuku	2005 Feb to date
24	Animal Keeper	Mr. Leonard Kiriama	2005 Feb to date

	Post/Assignment	Name	Period
	KWS Nakuru		
25	Seniro Warden	Mr. Joseph Warutere	2005 Feb-2006 Mar
26	Seniro Warden	Mr. Charles Muthui	2006 Apr to date
27	Assistant Warden-Education	Ms. Elema Hapicha	2005 Feb to date
28	Multi-media Assistant	Mr. Andrew Mwaka	2006 Sept to date
	KWS Coast		
29	Senior Warden-Coast	Mr. John Kagwi	2005 Feb-2006 Mar
30	Senior Warden-Coast	Mr. Simon Gitau	2007 July to date
31	Warden-Coast	Mr. Yussuf Adan	2006 July to date
32	Warden-Mombasa	Mr. Arthur Tuda	2005 Feb-Mar, 2007 Mar-
33	Warden-Mombasa	Mr. Alfred Kanyanya	2006 Apr -Feb 2007
34	Senior Warden-Malindi	Mr. Philip Mwakio	2005 Feb-2006 Mar
35	Warden-Malindi	Mr. Ali Sugou	2006 Apr-2007 Feb
36	Warden-Malindi/Watamu	Mr. D.K. Gitau	2007 Mar to date
37	Warden-Watamu	Mr. Robert Njue	2005 Feb-2006 Mar
38	Assistant Warden-Watamu	Mr. Meraji Ruga	2007 Apr to date
39	Warden-Arabuko Sokoke	Mr. Francis Mbaka	2005 Feb-2006 Aug
40	Assistant Warden-Arabuko Sokoke	Ms. Grace Kariuki	2006 Apr to date
41	Warden-Kiunga	Mr. Godfrey Wakaba	2005 Feb-2007 June
42	Senior Warden-Kisite/Mpunguti	Ms. Janet Kleha	2005 Feb-2006 Mar
43	Warden-Kisite/Mpunguti	Mr. Tom Amulavu	2006 Apr to date

Present (No. in bold): 25 persons

Annex 11: Project Cost sharing by Kenyan side and Japanese Side

⟨Japanese Side⟩

(Unit : Ksh)

Items of Expenditure	JFY2004 (Result)	JFY2005 (Result)	JFY2006 (Result)	JFY2007 (Plan)	Total
General recurrent cost	1,607,000.00	2,622,000.00	3,704,000.00	4,730,000.00	12,663,000.00
Equipment		3,406,350.00	1,835,160.00	567,000.00	5,808,510.00
Total of JICA	1,607,000.00	6,028,350.00	5,539,160.00	5,297,000.00	18,471,510.00

*JFY: Japanese Financial Year; April - March

⟨Kenyan Side⟩

Items of Expenditure	KFY2004 (Result)	KFY2005 (Result)	KFY2006 (Result)	KFY2007 (Plan)	Total
Operation cost	482,500.00	766,000.00	1,213,139.00	1,091,430.00	3,553,069.00
Total of GOK	482,500.00	766,000.00	1,213,139.00	1,091,430.00	3,553,069.00

**KFY: Kenyan Financial Year; July - June

付属資料2 インタビュー結果

(1) ケニア野生生物公社 (KWS) ケニア側関係者

面談者：Mr. Paul Mbugua, Assistant Director, Conservation Education (プロジェクトマネージャー)

日時：8月27日(月) 11:00～11:45

場所：ケニア野生生物公社 (KWS) 本部 (ナイロビ)

概要：

- ・2006年10月より現職でプロジェクトマネージャーを務めているが、前任者からプロジェクトの引継ぎは十分であった。また、高校での教員経験があるため住民への教育に関心が強い。もう1人のカウンターパートである Ms. Mary Kirabui も KWS Training Institute で教員経験があり、スタッフの能力強化に関心が強い。
- ・本プロジェクトの C/P たちは必ずしも保全教育に特化しているわけではないが、KWS スタッフ (3,525 人) のうち、野生生物・コミュニティサービス局 (1,444 人) のスタッフは、国立公園・保護区部門、野生生物・コミュニティサービス部門または保全教育部門のいずれかに配属されるため、実際には1人のワーデンが3つの分野全てを担当している。特に、野生生物・コミュニティサービス部門と教育部門には明確に区別のできない業務も多いため、連携は必須である。
- ・対象地域には KWS の教育関連施設の過半数が、つまり4つの教育センターのうち2つ (ナイロビ、ナクル)、9つのインフォーションセンターのうち5つ (全てコースト)、3つのその他教育関連施設のうち2つ (全てナイロビ) が位置しており、対象地域の選択は適切であった。
- ・ナイロビで実施した WS では全国の KWS スタッフを対象に能力強化を行い、ナクルとコーストでは KWS スタッフ以外にも住民も対象にその地域の問題を取り扱った。プロジェクトで実施した各種の能力強化は非常に有益で、C/P を含めてスタッフは今まで知らなかった多くのことを学ぶことができた。
- ・組織改変により教育部門は規模が大きくなった。保全教育戦略では、その実行予算として2006年からの5年間で Ksh 171.18 million を見積もっている。教育部門では今年度 (2007/08) に Ksh 5 million を計上している。今後、必要に応じて KWS へプロポーザルを提出することにより、更に予算を確保することも考えている。

面談者：Ms. Mary Njeri Kirabui, Senior Warden, Conservation Education (カウンターパート)

日時：8月27日(月) 11:45～12:30

場所：ケニア野生生物公社 (KWS) 本部 (ナイロビ)

概要：

- ・2006年3月より現職となり、プロジェクトに参加している。
- ・プロジェクトで実施した多くの研修により KWS スタッフの能力強化が進んだ。特に、日本での研修に参加したスタッフは、他のスタッフへ技術移転を行うキーパーソンとして活躍している。スタッフの日本での研修は非常にインパクトが大きかった。日本でなくとも、近隣諸国を短期間訪問するだけでも大きなインパクトがあると考えている。

- ・2008年2月にISO9001を取得するため、各部局は戦略や計画を作成済み、または作成中である。教育部門においては、プロジェクトがなければこれほど早く保全教育戦略は完成しなかった。
- ・研修の計画から実施にかけての長期専門家との関係は良好であった。短期専門家からは非常に有益なことを学んだ。JICA のボランティアによるプロジェクトの支援は活発であった。特に、マリンディの協力隊員が作成した海の生物図鑑は、ボート・オペレーターへの教材として有益である。
- ・プロジェクトの対象地域はより広い方が良かったし、実施期間は短かったように思う。また、プロジェクトの予算をKWSが10%受け持つのは現実には厳しい。
- ・ナクルとコーストではWSにコミュニティの代表も参加したが、ここでKWSとコミュニティが情報を共有できた事は非常に有益であった。このような機会は通常は少ない。
- ・以前はKWSの組織改革のため人事異動が頻繁にあったが、JICAとも話し合った結果、プロジェクト関係者の異動は少なくなった。人事異動が多かった理由の1つに、教育オフィサーであっても実際には教育以外も担当するため、他の部署に配属される可能性もあることがあげられる。
- ・プロジェクトにより教育分野の能力強化が行われ、教育活動の実施能力が高まった。このことは、KWSが今後、教育分野の活動に力を注ぐための後押しとなると考えている。
- ・ナクルには教育センターがあり、教育分野の人員は十分にいる。コーストにも教育に従事しているオフィサーは多数いるため、教育オフィサーの能力強化のニーズは大きい。KWSにおける教育部門の役割は大きくなりつつある。保全教育戦略に従って、教育分野の活動は今後も実施されていくと考えている。
- ・プロジェクトと他団体（ケニア野生生物クラブ(WCK)、ケニア国立博物館(NMK)、国家環境管理局(NEMA)、地方自治体等）との関係は良好であった。
- ・全体に供与機材は良好に使用、管理されている。

面談者：Mr. Richard Obanda, Senior Warden, Nairobi Education Centre（カウンターパート）

日時：8月27日（月） 14:00～17:00

場所：ケニア野生生物公社（KWS） ナイロビ教育センター（ナイロビ）

概要：

- ・プロジェクトには計画段階から携わっている唯一のC/Pである。本プロジェクトは、自分と当時の長期専門家とで計画した。
- ・プロジェクトで見られた問題は、人事異動のみである。C/Pが頻繁に入れ替わったのは、2005年に組織改変に伴う人事異動があったためである。人事異動により一時はプロジェクト内外に混乱があったが、今は安定している。また、組織改変により教育部門は拡大され、全国の教育関連の活動を管理することになった。
- ・Assistant Directorは積極的にプロジェクトに参加し、活動はほぼ予定通り実施された。JICA、日本政府や他の関係団体とも関係は良好であった。
- ・C/Pの配置においてKWSは最善を尽くしたので、人数や質は適切であった。また、JICAの専門家はその質、パフォーマンスともに良好であった。供与された機材も適切であった。

- ・研修ニーズアセスメントにより対象地域のニーズを把握してから研修を計画した。
- ・教育分野の問題は、実際には教育分野だけで取り扱える問題ではないこともあり、WS やセミナーには他の部署のスタッフも呼んだ。研修を通じてスタッフの能力強化が行われ、KWS の中でも評判が良い。
- ・KWS には本部に 4 人の教育スタッフ、4 つの教育センターに各 1 人の教育スタッフ、9 つの情報センターに各 1 人の教育スタッフ（他分野と兼任）がおり、その他、3 つの施設と全国 26 ヶ所の国立公園にも各 1 名の教育スタッフ（他分野と兼任）がいる。
- ・動物孤児院とサファリウォークの主な目的は 3 つあり、動物の保護管理、教育、および観光である。2 つの施設に見られる一番の変化としては、展示がわかりやすくなった事と、スタッフの能力向上がある。その他、プロジェクトから供与された機材も有効に利用されている。ここで働くスタッフの 10 人が研修を受けており、彼らの能力向上は明らかである。
- ・サファリウォークの子ども博物館は以前閉鎖していたが、研修を受けたスタッフにより展示の改善が行われ再開した。今はインターンの学生が一人で解説を行っている。
- ・プロジェクト開始前の 2004 年と開始後の 2005 年には、施設の職員を国内の動物園/保護施設等に連れて行き、視察を行った。特に民間の施設では動物のケアが行き届いていることもあり、職員にとっては良い参考例となった。その後、施設の人員に大きな変化がないことや、国内には他に行く場所がないことから、新たに視察は行っていない。
- ・飼育動物の中には不健康なものもいたが、プロジェクトにより給餌等の改善を行ったところ、健康が改善された。飼育動物には生きる教材との位置付けもあり、その観点からも健康である事は重要である。

面談者：本部・動物孤児院・サファリウォーク 教育オフィサー4 名（研修参加者）

日時：8 月 28 日（火） 9:45～10:30

場所：ケニア野生生物公社（KWS） ナイロビ教育センター（ナイロビ）

概要：

- ・1 人が 1999 年より、1 人が 2006 年より、2 人が 2007 年より現職である。研修を受けた同僚のうち、1 人が転職、2 人が他の公園へ異動したが、6 人が残っている。本部の教育部門が全国の教育オフィサーの異動をモニタリングしているため、今後の人事異動に不安はない。
- ・教育ツールの研修によりハンズ・オン教材は以前より良くなった。特に子ども博物館の展示はプロジェクトのおかげで改善された。今まで自分の知識を教育に活かす術を持っていなかったが、展示、パンフレット、パネルなどの作成方法を学び、コミュニティへの伝え方を学んだ。そのことにより自分たちの仕事への姿勢も変わってきたと思う。
- ・プロジェクトの研修はどれもとても有益であり、今後も同様な研修の必要性を感じている。
- ・プロジェクトによる大きな変化としては、供与機材により業務が円滑に行われるようになった他、オフィサーのプレゼンテーション能力が向上したため業務の質が向上したと思われる。
- ・教育関連オフィサーは、全体に教育活動に集中できている。ナイロビに教育関連オフィサーは 5 人いるが、大人数の生徒が訪問したときなどは対応しきれないこともある。その際はボランティアに頼っている。また、サファリ・ウォークの教師用マニュアルも有効利用されている。

- ・生徒は多い日に 20 団体ほど、月に 300 団体ほど訪問している。1 団体当たりの人数は明確には言えないが、30～120 人くらいの範囲にある。
- ・教育部門の予算に関しては可も不可もない。活動計画は予算に応じて立てている。
- ・WCK のメンバー学校の生徒に対しては施設の入場料を無料にしている。また、WCK の短大生を KWS はインターンとして受け入れている。NMK は新しい科学的な情報を KWS に提供してくれている。

面談者：動物孤児院・サファリウォーク 動物管理スタッフ 4 名（研修参加者）

日時：8 月 28 日（火） 10:45～11:30

場所：ケニア野生生物公社（KWS） ナイロビ教育センター（ナイロビ）

概要：

- ・2 人は 1997 年より、1 人は 2001 年より、および 1 人は 2007 年より現職である。KWS の同様な施設は他にキスムにしかないため、人事異動はほとんどない。
- ・プロジェクトからのコンピュータ、冷蔵庫、冷凍庫などの供与により活動がしやすくなった。特に冷蔵庫と冷凍庫があることにより、動物のエサの保管ができるようになった。それまでは壊れているものしかなく、他の部署のものを借りることもあった。
- ・プロジェクト以前のものを含めて 2 度、他の動物飼育施設を見学に行ったが、各施設の良い面と悪い面を見る事ができ、自分たちの施設の改善に繋がった。特に他の施設を見学してから動物の病気が減った。具体的な数字はわからないが、おそらく以前は孤児院に連れてこられる動物の 1/2 以上はすぐに死んでいた。今は 1/4 以下だと思う。今まで国内の施設しか見学していないので、次は海外のものも見学したい。
- ・プロジェクトにより、展示が随分と改善された。またスタッフは自分たちの仕事をより理解できるようになり、以前よりも楽しんで仕事を行えるようになった。
- ・現在、人員は全部で 9 人（Curator が 1 人、Animal Keeper が 4 人、Pen Attendant が 4 人）いるが不足している。現在、30 人（うち 2 人が日本人）いるボランティアによりある程度補われているが、不定期にしか来られない人が多いため、あまり多くは期待できない。
- ・KWS からの支援には特に問題がない。支援してくれる外部組織は JICA のみで、残りは個人からの募金である。
- ・スタッフの技術と機材の不足を感じている。機材については、冷蔵庫と冷凍庫が依然として不足している。病気の動物を治療する場所も不足しているので、一般の病院の施設を使用することもある。
- ・プロジェクトの研修や供与機材には特に悪い点は見当たらない。負の影響もない。

面談者：Dr. Charles Musyoki, Senior Scientist, Headquarters（研修参加者）

日時：8 月 28 日（火） 12:00～12:45

場所：ケニア野生生物公社（KWS） 本部（ナイロビ）

概要：

- ・プロジェクト開始前の長期専門家の勧めから JICA の研修制度を使用し、京都大学で博士号を取

得した（2007年3月）。

- ・研究内容はケニアのニエリ県の村におけるゾウによる農作物被害を事例とした、住民と野生動物の軋轢に関するものである。研究活動に当たり、指導教官は英語とスワヒリ語に長けていたため、コミュニケーションに不都合はなかった。また学位論文も英語であったため問題はなかった。研究は、村のホストファミリーを探し、住み込み、住民から受け入れてもらうところからは始まった。同じ国民とはいえ受け入れられるのには時間がかかった。しかし、住民と仲良くなったことにより、本音で話し合える仲となった。おかげで村人と KWS の両方の視点から物事を見ることができるようになった。
- ・論文は KWS の各部署に配布し、JICA と KWS ではプレゼンテーションも行った。現在、論文を IUCN 発行の研究雑誌に投稿するために編集している。また、KWS のワーデンと研究者を交えた会議でも論文の内容を発表する予定でいる。

面談者：Mr. Joseph V. Onyango, Human Capital Manager, Headquarters（その他の関係者）

日時：8月27日（月） 11:45～12:00

場所：ケニア野生生物公社（KWS） 本部（ナイロビ）

概要：

- ・KWS における職員に対する研修の担当者である。
- ・2008年2月のプロジェクト終了後も、プロジェクトで実施していたような研修を今後も続けた。なお、支援を期待できる外部組織はなく、いくつかの団体の奨学金がある程度である。
- ・現在、KWS が予定している職員への研修は1つあり、プロポーザルを提出したところである。内容は MS オフィスの使用方法で、期間は1週間で180人のスタッフ（ワーデンとレンジャー）を対象としている。
- ・KWS は財政的な自立を目指しているが、現在はまだ難しい。

面談者：Mr. Charles K. Muthui, Senior Warden, Lake Nakuru National Park（カウンターパート）

Ms. Elema Hapicha, Assistant Warden, Lake Nakuru National Park（研修・WS参加者）

日時：8月29日（水） 14:45～17:00

場所：ケニア野生生物公社（KWS） ナクル湖国立公園（ナクル）

概要：

- ・Assistant Warden は、1997年よりナクル湖国立公園に勤務している（2002～2003は休職）。2007年3月まで出産休暇を3ヶ月間とっていた。復帰後は、週に3回コミュニティに赴き、約35のCBOを訪問した。
- ・ナクル湖国立公園には14のDepartmentがあり約150人の職員がいるが、実際の活動はどれも共同で実施されている。また、ナクル教育センターはナクル県の全コミュニティ、全学校を対象としている。
- ・ナクル教育センターの訪問者のデータは整理していないが、2007年5月だけを見ると、生徒と先生を合わせて合計2,574人が訪問している。訪問する学校数は5～7月と10～11月に多い。インハウス・プログラムは週に2回ほど行っている。

- ・プロジェクトによる変化として、教材作成の促進（研修を受けるまでは誰も教材を自分で作った事がなかった）、コミュニケーションとプレゼンテーションスキルの向上、自信の向上（初めて会うコミュニティの人々の前でも堂々と接する事ができるようになった）、教育方法の向上（異なるターゲットには異なるアプローチを用いることを知った）、他公園の人との経験の共有、ビデオ教材の作成（現在、本部の協力の下に進行中）、がある。
- ・プロジェクトで供与された PC やプリンターを用いて展示品を作成している。プロジェクトから供与された図鑑などの書籍は、スタッフが教材を作成する際や、学生に教える際に有効に利用されている。
- ・教育用バスは2台で、うち1台はプロジェクト以前に JICA から供与されたもので頻繁に利用されている。

供与された機材はどれも有用だが、特にデジタルカメラは重宝している。しかし、車輛はまだ不足していると感じている。

- ・2004年に文化無償により視聴覚機材が供与された。当時、1人のスタッフがマルチメディアの研修をナイロビで受けたが、その後すぐに退職したため最近まで誰も使用方法がわからなかった。プロジェクトで実施されたマルチメディア研修で使用方法を覚えたので、その後は頻繁に使用するようになった。（インタビュー当日も学生たちに教えるために使用していた。）
- ・ナクル湖国立公園にはオランダ政府の支援により作成された” Lake Nakuru Integrated Ecosystem Management Plan” という 2002～2012 年の計画がある。KWS の下、個々の活動は多数の団体により計画・実施されている。実施において特に問題は感じていない。なお、計画の中には人と野生生物の軋轢と環境教育・意識向上も取り上げられている。

面談者：Mr. Andrew K. Mwaka, Ranger, Lake Nakuru National Park（研修参加者）

日時：8月31日（金） 8:30～9:30

場所：ケニア野生生物公社（KWS） ナクル湖国立公園（ナクル）

概要：

- ・2002年1月からセキュリティー部門、2004年から観光部門に配属された後、2004年9月から教育部門に配属されている。なお、上司のアシスタントワーデンはコミュニティ部門と教育部門を両方見ていたが、6月からは教育部門専属になった。
- ・プロジェクトの前からナクル教育センターはあったが、以前は教育の意味をみんなわかっていなかった。学校から入場料を取ることにしか考えていなかった。また、プロジェクトが開始してから、ナクルにおける教育部門への力の入れ方が随分と変わった。それまでは教育にはほとんど力を入れられていなかった。今は他部門と同じくらいの力の入れようになっている。
- ・研修の内容は良く理解もしやすかったが、期間が1週間では短く感じた。しかし研修に参加した後、仕事を任せられる機会が多くなった。特にコンピューターの使い方、特にパワーポイントとポスター作成を覚えたのは良かった。今は作業を隊員と一緒に学びながらやっている。
- ・2006年に教育スタッフが3人（ワーデン1人、レンジャー1人、ドライバー1人）から6人（ワーデン1人、レンジャー2人、ドライバー2人、JOCV1人）まで増えたが、まだ不足している。インハウス・プログラムとアウトリーチ・プログラムを同時に行う機会があることを考えると、

あと3人くらい必要だと感じている。インハウス・プログラムでは、視聴覚機材を主に使用している。これを補う形で、その他の教材を用いている。また、予算の過不足については特に何も感じた事はない。上が全て決めている。

- ・教育部門ではコミュニティを扱っていないが、土日祝日に2回/日のコミュニティ・シャトルを運行している。大人 Ksh 250、子ども Ksh 100 で、特別なイベント時には無料で運行することもある。毎回、30人くらいの参加者がいる。コミュニティとの関係は良好になりつつあるが、これはKWSが1997年からコミュニティ活動を開始し、色々な支援を行ってきたためで、プロジェクトによる影響ではない。
- ・公園における一番の問題は、道路の悪さである。4WDでも行けない場所がある。また、教育部門には十分な数の車輛（バス2台、4WD1台）があるが、メンテナンスが悪くて使えないことがある。

面談者：本部 視聴覚オフィサー2名（研修参加者）

日時：8月31日（金） 16:10～17:00

場所：ケニア野生生物公社（KWS） 本部

概要：

- ・研修を受けた後、他のオフィサーに対する講師となっている。既にプロジェクトの研修においても講師を務めた。その他、短期大学でも教えている。2006年5月に各公園の教育担当者へ研修を実施した後、企画書（ビデオのあらすじ）が各公園からあがってきた。今まで、ナクル、キシテ、アバーデア、サイワ、ムウェアからあがっている。以前は自分たちが公園まで行き企画書を作成していたので、非常に楽になった。
- ・教育部門の仕事の割合は6割程度で、それ以外はコミュニティ、調査部門の仕事が多い。現在、動物孤児院、ナイロビ・サファリ・ウォーク、ナクル湖国立公園の他、ツァボ西国立公園ツァボ東国立公園、キスム・インパラ公園の教材の作成を行っている。
- ・以前はAV関係の知識しかなかったが、プロジェクトが開始してから野生生物に関して学んだ。以前はマッキントッシュしかなかったが、プロジェクトによりウィンドウズ用のPCが供与され、他の部署のパソコンとの互換性があるようになった。機材が増えて部屋が狭くなったので、2007年1月に今の広い部屋へ移動した。全体の業務量が増えており仕事は忙しく、人員が足りない。近いうちに1人増員してもらい、4人体制になる予定である。
- ・NMKとの協力体制は強まりつつあり、教材も共有している。
- ・最近、住民は野生動物の貨幣価値について気が付き始めているようである。ナイロビの近郊にもGame Ranch（野生動物の牧場）ができ、利益を用いて周辺に学校を建設している。

面談者：Mr. Philip E. Mwakio, Assistant Director, Mombasa HQ（その他の関係者）

日時：9月3日（月） 10:30～11:30

場所：ケニア野生生物公社（KWS） モンバサ本部（モンバサ）

概要：

- ・WCKはメンバー校の生徒に対する野生生物保全教育を行っているが、KWSは観光客、コミュ

ニティ、ボートオペレーター、大学生など広い範囲を対象に教育を行っている。また、政府機関であることから森林局、水産局などの政府機関との連携がしやすい。

- ・問題が多岐に亘るため他の政府機関との連携が必須である。KWS は多くのフォーラムに参加しているが、その 1 つに四半期ごとに開催される県開発委員会がある（ここでは各省庁の代表が集まり県開発の現状と問題点について話し合いが行われる。）。
- ・コーストでは年次活動計画に従って活動を行っている。その他、現在コーストエリアの戦略計画を作成中で、2007 年 9 月には完成する予定である。本戦略では、Resource Conflict を主な課題としている。この中には教育やセキュリティの問題も含まれている。
- ・コーストには約 200 人の職員がおり、そのうち約半数が教育関係の活動に従事している。教育に専属で従事している職員はいない。1 人のワーデンがコミュニティや調査など複数の業務を兼務している。教育担当が増えている理由の 1 つに、協力隊員（環境教育等）を受け入れる際に C/P が必要なので増やしていることがある。また、現在 Conflict の対応に多くの予算をつぎ込んでいるが、教育によって Conflict を減らし早くその状態から脱却したい。
- ・国立公園周辺の資源利用に関しては、「過剰利用」というよりも「利用方法」に問題がある。例えば、地元の漁師は沿岸でしか漁業をしていないこと、薪炭のためのマングローブ伐採などがある。その他、港には冷蔵・冷凍庫がないのも問題だ。
- ・プロジェクトが始まるまではボートはパトロール用しかなかった。今は教育用がある。協力隊員の存在は活動の実施において非常に大きな役割を果たしている。
- ・コーストの国立公園には JICA 以外のドナーは入っていない。
- ・コーストの国立公園では職員に対する能力強化研修は、語学研修があるだけである。
- ・コーストの国立公園を訪問する観光客は年間約 8 万人である。観光客の 60%は内陸部を訪問している。現在、観光客はヨーロッパとアメリカが多いが、今後はアジア地域のマーケット拡大を目指したい。

面談者：Mr. Yussuf Adan Wato, Warden, Mombasa HQ（研修参加者）

日時：9 月 3 日（月） 11:30～12:15

場所：ケニア野生生物公社（KWS） モンバサ本部（モンバサ）

概要：

- ・コーストの国立公園における環境教育プログラムには、訪問する学生や人々に対するインハウス・プログラムがある。その他、適切な漁法に対する教育や禁止事項の周知、Environmental Day（Turtle Day, Dolphin Day, Wetland Day など）の活動がある。また、住民と野生生物の軋轢に関する活動も多い。
- ・プロジェクトの良かった点として、必要な資機材を揃えてもらった事、協力隊員を複数派遣してもらった事、研修や WS を実施してもらった事がある。自分も以前はマリンディにいたが、当時は協力隊員から教材作成の作成を助けてもらった。また、WS にコミュニティ（漁業組合、ボートオペレーター組合など）から代表者を多数呼んだのは良い工夫であった。
- ・コースト地域においても職員の異動は多い。自分もマリンディで 4 ヶ月いた後、モンバサに来た。ここでも 1 年数ヶ月過ぎしたが、次はキシテに異動が決まっている。

- ・全てのオフィサーは保全教育戦略に従って活動を行っている。業務評価制度が導入されたこともあり、みんな必死になっている。今は保全教育マニュアルの作成に追われている。
- ・多くのプロジェクトはドナーが引き上げたらそこで活動が全て終わってしまう。持続性の問題がある。
- ・教育活動における他団体との協力は全体に良好である。

面談者：Mr. Arthur Tuda, Warden, Mombasa Marine National Park（研修参加者）

日時：9月3日（月） 12:30～13:00

場所：ケニア野生生物公社（KWS） モンバサ本部（モンバサ）

概要：

- ・プロジェクトで行われた WS ではコミュニティとの意見交換が行われ非常に有益であった。日常業務の中では、コミュニティの人々と話す機会があまりなく、また同様な WS も今まで開催されたことがなかった。
- ・保全教育は非常に重要で、それに関するスタッフの能力強化の必要性も感じている。一方で活動レベルでは他の活動に比べて最も頻度が少ないという矛盾がある。レンジャーは知識があっても、それを人に伝える術を知らない。ワーデンにも同じ事がいえる。
- ・2004 年ごろから、教育活動に対する本部の対応が変わってきた。以前は本部からの支援はなかったが、その頃から本部からの支援が始まった。これには本部の教育部局の位置付けが変わった事が影響していると思う。以前はナイロビ周辺のみを担当していたが、今は全国を担当している。
- ・モンバサのインハウス・プログラムには毎月 10～30 の学校（1 校あたり 40 人前後）が訪問している。アポなしでくる学校も多く、そういった場合対応がなかなかできない。公園にはレンジャーが 30 人（ワーデンは 1 人）いるが、それでも他の業務に追われていて学校への対応は難しい。また、公園で使用している教材としてはポスターやハンドアウトがある。ガイドブックがないので作成する必要性を感じている。なお、アウトリーチ・プログラムは KWS ではなく WCK が対応している。
- ・最近、環境教育を行う NGO が増えてきた。WCK との関係は良好である。KWS が教育関係に強くないので助かっている。以前は NMK とともにイベントを企画していたが、最近はない。政府機関にせよ NGO にせよ、同じ目的を共有して活動を行っている。今後の課題としては、各機関の協力を最大限に活かして行きたいと思っている。しかし NGO は政府機関と異なり活動も期間限定で行われている。そういう意味では NMK のような政府機関の方がやりやすい。
- ・コミュニティの住民は国立公園内まで漁に入ってくる。
- ・ボートオペレーターとの関係は全体に良好である。

面談者：Mr. D. K. Gitau, Warden, Watamu Marine National Park（研修参加者）

日時：9月4日（火） 9:00～10:00

場所：ケニア野生生物公社（KWS） モンバサ本部（モンバサ）

概要：

- ・2005年10月よりモンバサ、2007年2月よりワタムにいる。モンバサに来て SOWCE の存在を知った。協力隊が派遣されていることも知っていたが、ワタムに来て初めて会った。
- ・ワタムには国立公園と自然保護区がある。見所は魚とサンゴ礁で、国立公園の特徴はシュノーケリングなどの観光が盛んなこと、自然保護区の特徴は大きなマングローブ林があることである。事務所には合計18人（ワーデン1人、レンジャー13人、秘書1人、会計1人、アルバイト2名）の職員がいる。
- ・WSにはKWSからはレンジャーが参加した。住民からは漁師1人、ボート・オペレーター1人、Mida Creek Conservation Committee (MCCC)メンバー1人を選んだ。
- ・KWSと土地利用者との対立は植民地の頃の影響が残っている。以前のKWSはコミュニティに自然資源は政府のものだと教えていたが、今は違う。KWSはコミュニティとの接し方を変え、今ではコミュニティが自発的に自然環境保全を行うようになってきた。プロジェクトのWSではコミュニティとの交流ができ、感謝している。また、事務所では協力隊員と一緒に働いているが、そのことにも感謝している。
- ・漁師に国立公園に入るなどと言っても、彼らの生活をどうやってサポートすればよいのか、非常に難しい。また、やり、目の小さな網、毒を用いた違法な漁法を行っている人がいる。
- ・国立保護区のマングローブ林の伐採は、KWSは禁止しているもののケニア森林局（KFS）は許可している。
- ・以前はUSAIDにより自動車、バイク、コンピューターおよび資金の援助があったが、今はJICAしかない。基本的にKWSからの予算のみに頼っている。ワタムはUNESCOのBiosphere Areaに含まれており、先日、UNESCOから視察が来た。しかし、今まで、UNESCOはこの地域で特に何の活動もしていない。
- ・アウトリーチ・プログラムはワタム・タートル・ウォッチと共同で行っている。インハウス・プログラムは、学校が来たときだけに実施している。
- ・国立公園内にはホテルがあるものの、人は住んでいない。一方で、自然保護区には沢山の村人が住んでいる。
- ・MCCCの傘下に小さなグループが沢山あり、彼らはエコツーリズムを開始しようとしているが、まだ始まっていない。MCCCには1つだけ成功しているグループがあるが、これはA Rocha Kenyaの支援によるもので、自力では無理だった。このグループは利益を独り占めするので、他のグループと仲が悪い。
- ・KWSとMCCCの関係は良好である。MCCCは違法漁法を用いている人をKWSに通報してくれる。KWSは彼らをWSに招いたりドナーに紹介したりと支援を行っている。
- ・公園の入場料収入は予算配分にそのまま反映される。コーストはどこも入場者が少なく、ワタムでは教育分野の予算が全くない。先月の実績はNon-Residentだけで2,117人の入場者がいた。
- ・住民が環境保全活動を始めするには、教育だけでは無理だと思う。彼らには資金も余裕もない。

面談者：Ms. Grace Kariuki, Assistant Warden, Arabuko Sokoke NP（研修参加者）

日時：9月4日（火） 10:00～11:00

場所：ケニア野生生物公社（KWS） モンバサ本部（モンバサ）

概要：

- ・8月のWSはコミュニティのためになり良かった。今までは同様なWSはなかった。
- ・研修に参加し、企画書はみんな書けるようになった。今までこのようなことは考えたこともなかった。教育ツールや教材は作成したが、時間と資金がないため立派なものではない。事務所にはコンピューターもない。
- ・スタッフは21人いるが、教育を担当しているのは自分1人だけである。以前は上司がいたので自分が教育活動を行えたが、自分が昇進したため教育活動に割くことのできる時間が減った。
- ・以前まで住民と野生動物との軋轢はひどかったが、公園にフェンスをした事や意識向上活動により随分と減ってきた。
- ・2004年にUSAIDのプロジェクトで農地への植林、養蜂およびアロエ栽培が行われた。しかし、蜂蜜の需要もあり有益な活動にも関わらずコミュニティの反応は悪かった。この地域では人々は農業をやろうとしない。それでも10以上の住民組織（CBO）が良い結果を出していた。農業と言えばココナッツやマンゴーのような果樹栽培で、それ以外は盛んではない。
- ・森林局とは個人的には仲良くしているが、KWSとは方向性が異なるので組織としては難しい。NMKやケニア林業研究所（KEFRI）とも仲良くやっているが、WCKは近くに事務所がないため付き合いもない。WCKのメンバー校は年にKsh750支払うが、それすら支払えない学校は多い。払える学校だけのことを学ぶ事ができる。
- ・事務所には車が1台あるが、これはパトロール用のため教育用には使えていない。
- ・公園には鳥と蝶が多い。住民への教育活動はNGOのア・ロチャ・ケニアが実施しており、観光客のためのコミュニティ・ガイドの育成をしている。観光客がガイドに料金（Ksh800/3時間）を直接支払うことにより、ガイドは収入を得ている。

面談者：Mr. Hamisi Chuma, Corporal, Watamu Marine National Park（ワークショップ参加者）

日時：9月4日（火） 14:30～15:00

場所：ケニア野生生物公社（KWS） ワタム海洋国立公園（ワタム）

概要：

- ・ワタム国立公園の面積は10km²で、ワタム国立保護区の面積は32km²である。
- ・教育活動としては、インハウスプログラムの他、ワタムタートルウォッチ（WTW）と共同でコミュニティに対して適切な漁業の手法を教えている。また、ボートオペレーターに対してはサングの保全について教えている。インハウスプログラムに使用する機材は不足しており、テレビと衛星放送はあるものの、プロジェクター、ビデオ、DVD等を所有していない
- ・ワタムでは多くの団体が活動しており、MCCC、ボートオペレーター、土産売り、ホテル、WTW、ア・ロチャ・ケニアなどがいる。

面談者：Mr. Joel O. Nyika, Tourism Officer, Malindi Marine National Park（研修参加者）

日時：9月5日（水） 9:45～10:30

場所：ケニア野生生物公社（KWS） マリンディ海洋国立公園（マリンディ）

概要：

- ・事務所には 30 人のスタッフが働いており、うち 2 名がオフィサーである。最も重要視している活動は国立公園への入場料の徴収で、年間 4 万人前後の訪問客がいる。
- ・教材の作成はまだ行われていないが、その理由として、教育関連の予算がないことや、観光オフィサーが教育関連の活動を担当しており手が回らないことなどがある。青年海外協力隊員が来て初めて教育活動が実施できる状況にある。教育関連活動としては、インハウスプログラム、アウトリーチプログラムがあるものの、現在は協力隊員がいないためあまり活発でない。インハウスプログラムには、週に 1 校程度が訪問し、自分と 2 人のレンジャーが対応している。
- ・周辺には多くのホテルがあるが、その運営管理において環境への配慮がなされていない。また漁師たちが国立公園内で漁をしたり、また違法漁法を用いたりしているが、これらは貧困に由来するもので一筋縄ではいかない。
- ・近隣の住民はほとんどが漁師である。その他の職業にはボートオペレーターなどがある。
- ・以前のワーデンは色々と問題があったが、6 ヶ月前に新しく来たワーデンは良い。
- ・KWS のダイレクターが変わって以来、本部による支援が改善された。同様に、大統領が変わったことにより経済成長が続いており、全体に良い方向に動きつつある。
- ・四半期に 1 度、計画・モニタリングレポートを提出している。
- ・KWS の研修制度としては、ナイバシャとマニヤニにある訓練所での研修があるが、これらでは保全教育に関する研修はなく、マニヤニではレンジャーの養成が主であるため、ワーデンには関係がない。保全教育に関する研修は、JICA のプロジェクトのみである。プロジェクトで実施されたような研修を KWS が今まで自前で実施したこともない。

(2) ケニア野生生物公社 (KWS) 日本側関係者

面談者：本部 新田和弘 (JICA 長期専門家)

日時：8 月 28 日 (火) 13:30~14:30

場所：ケニア野生生物公社 (KWS) 本部 (ナイロビ)

概要：

- ・教育戦略に関して、当初は策定までをプロジェクトで支援することとなっていたが、合同調整委員会 (JCC) によりフォローアップも行うことが決まった。現在、教育マニュアル (戦略 2.1.3) とモニタリング計画 (戦略 5.1.1 の活動 5.1.1.1) の策定に重点を置き、コミュニティを含めて WS を開催して進めている。2007 年 10 月までに完成し承認を得ることを目指している。
- ・PDM の成果 1 と 2 に比べると、成果 3 である教育ツール等の開発、使用および保守管理は全体に遅れている。マルチメディア教材の研修では、サポートしてくれたシニアボランティアの意向もあり、あくまでも KWS スタッフが自発的に教材の開発を行えるように、企画書作成の研修のみを行った。その後、ナクルとキシテからのプロポーザルを本部のマルチメディア部と教育部で承認した。現在は撮影が進められており、2007 年度内には完成する見込みである。
- ・サファリウォークの教師用マニュアルは、2006 年にインターンの方がドラフトを作成し、その後、短期専門家が KWS スタッフと共に最終化した。本マニュアルは、サファリウォークに解説員が不足していることから、先生が自ら生徒に解説できるようにと作成したものである。同

様なマニュアルと自然カレンダーがナクルでも作成中である。

- ・2006 年 2 月のハンズ・オン教材の研修により、ナイロビでは展示の改善がされた。ナクルでも展示が改善されたが、これには隊員活動の影響が大きく、教育スタッフの能力強化だけによるものではない。マリンディのボートにも同様なことが言え、隊員がいなければどう使用されていたのか不安がある。全体的に見て、教育スタッフの能力強化は行われているものの、それに比べて現場での活動への反映は遅れている。
- ・教材作成の研修直後のアンケート調査では、今後の活動に活かしたいとの声があるが、実際にはどの参加者も活動が遅れがちである。そこで、短期専門家は研修中の実習で教材を作成する方法を取った。
- ・プロジェクト以前のものも含め、供与機材は全体に良好に管理、使用されている。当初の目的以外に使用されている例はほとんどない。
- ・野生生物保全を行う上で、環境教育だけでは不十分である。元々は、世銀や USAID 等との援助分野の住み分けの中で、JICA は環境教育を受け持つようになった背景がある。KWS は公園管理に関して古くからの知見を蓄積しているので日本が支援する必要は感じないが、環境教育分野に関しては KWS の蓄積は少なく、日本の経験を活かせると考えている。
- ・現在、フランスがメルーで、USAID がコミュニティに対して、国際動物福祉基金（IFAW）がツァボヤメルーで、NGO がツァボヤマサイ・マラで行っている。本プロジェクトとこれらと直接的な協力体制はないが、活動の重複もない。
- ・ナクルのワークショップでは、マウ・フォレストの保全を提案した。その後、EU 支援によるプロジェクトの対象地域を決定する際にそれが参考にされ、現在はマウ・フォレスト保全教育プロジェクトが開始された。KWS の教育オフィサーも関わっている。
- ・コミュニティが野生生物より得られる利益についての検討が野生生物政策（案）でもなされている。一方で、KWS ではこれらから得られる直接的な利益（主に貨幣価値）に目が行き過ぎるのが懸念事項でもある。自然の価値とはそれだけではないはずだが、難しい問題である。
- ・教育戦略では人員配置の提案も行っている。マルチメディア部では人材が不足していたが、要請したところ現在は 4 人（うち 1 名はシニアボランティア）が配置されている。
- ・KWS は今まで研修の費用を 10～15%負担しており、この点について今まで問題はなかった。

面談者：本部 岡部繁勝（JICA シニアボランティア）

日時：8 月 27 日（月） 13:00～14:00

場所：ケニア野生生物公社（KWS） 本部（ナイロビ）

概要：

- ・プロジェクト事務所のそばに事務所を構えており、活動はプロジェクトと重なっている。
- ・KWS の職員は専門知識を持っているが、それを人に伝える手段を持っていなかった。活動を通してその手段を教えると感謝されることが多い。
- ・プロジェクトでは 1 回の WS で例えば 50 人ほどを対象とする場合がある。このような場合、各自の理解度が同じとは思えない。いくらか差があるはずなので、そのためのフォローアップが重要だと考えている。

- ・前任者が各公園の機材のチェックと説明を行っていた。また、プロジェクトの一環として、前任者が公園別のビデオ製作の企画を行い、現在もそれが進行中である。
- ・日本から供与された機材の中には、ボランティアが派遣されるまで適切に管理や使用がされていなかったものもある。これは日本、ケニアの双方が注意すべき問題であると考える。
- ・全体的に見て、個人レベルでの技術移転は組織内で行われているようである。例えば、講義を受けた職員がわからないところを質問に来ることがあるが、他のスタッフに教えたいから理解を深めたいと言っている。

面談者：ナクル湖国立公園 青年海外協力隊 2名

日時：8月30日（木） 13:00～14:00

場所：ケニア野生生物公社（KWS） ナクル湖国立公園（ナクル）

概要：

- ・少し前まで、ナクル湖国立公園では教育部門と調査部門の連携はほとんどなかった。これは、調査部門は教育部門に出せるようなデータを持っていなかったこと、トップ同士の仲が悪かった事がある。しかし、隊員が来てからデータの整理を行い教育部門に出せるデータが揃ったこと、また調査部門のトップが変わったことから、今では調査部門は教育部門へプレゼン資料のデータを提供し始めた。KWSは本部でも調査部門と教育部門の連携が進んでいない。
- ・ナクルの調査部門では、今まで10年分のデータが整理されずに放置されていた。隊員が来なかったら、そのまま放置されていたと思われる。
- ・ナクルの教育部門では、プロジェクトのおかげで職員がやる気になっている。また、2006年4月に来たシニア・ワーデンは教育部門への理解があり、彼が来てから教育活動が行いやすくなった。しかし、彼はプロジェクトの仕事を隊員に割り当てるので、KWSのスタッフではなく隊員がほとんどの活動を行っており、KWSスタッフの能力向上につながらないという問題もある。
- ・先日まで教育担当のアシスタント・ワーデンが産休でいなかったことや、教育担当のレンジャーが1人しかいなかったことが、ナクルにおける活動の遅れに影響している。アシスタント・ワーデンは管理職のため実務は大抵レンジャーに任せる上、他の業務に追われており、教育活動に時間を注いでいない。3ヶ月前にレンジャーが1人増えたので、少しは活動ができるようになってきた。とにかくナクルは忙しい公園である。

面談者：コースト地域 青年海外協力隊3名

日時：9月2日（日） 16:15～18:30

場所：シルバースプリングホテル（ナイロビ）

概要：

【モンバサについて】

- ・現地で活動している NGO は全般に縄張り意識が強く、他団体との協力を好まない。例えば、WCKはKWSと表面的には仲良くしており、大きな活動を行う際はKWSに声をかけるようにしている。しかし、KWSに実績を横取りされないよう警戒している。他地域でも同様な話があり、他の多くの NGO も KWS を警戒している。

- ・モンバサの KWS に隊員がいた頃、巡回教育はモンバサの KWS と共同で行っていたらしいが、現在はモンバサに隊員がおらず、共同の巡回教育は行われていない。互いに共同で行いたくないと思っているようである。なお、モンバサの KWS には教育専任のオフィサーはいない。
- ・プロジェクトのワークショップでは KWS、NGO、コミュニティが意見交換を行えて良かった。
- ・WCK に登録している学校の生徒は、国立公園に無料で入れる。WCK の年会費は Ksh750 である。会費が安い裕福な学校でなくともメンバーになれる。そのため僻地の学校も多い。週に 3 回程度行っている巡回教育はコースト州の 6 県のメンバー校を対象としている。1 回当たりの時間は 2 時間程度で、ビデオショーやプレゼンテーションを行っている。
- ・巡回教育の教材で使用するビデオはナイロビの KWS からコピーしているもので、KWS 制作や市販の野生動物の映像などである。英語の通じない地域が多いので、KWS が作成しているスワヒリ語版が重宝されている。巡回教育で教える内容は、以前は野生動物の事が多かったが、最近は流域管理についても教えている。特に植林が流行っていて、WCK が育てた苗木を学校に配布することもある。
- ・世界自然保護基金（WWF）がコミュニティ関係の活動を活発に行っている。WWF の他にも Wildlife Conservation Society (WCS)等が活発である。

【キシテについて】

- ・住民と KWS の仲は悪くなく、KWS はプロポーザルを提出した住民組織（CBO）やボートオペレーターに支援を行っている。野生生物保全とは関係ないが、KWS は学校にイスや机の供与や校舎の建設も行っている。
- ・住民の環境保全に対する意識は高く、月 1 度のビーチ清掃（公園内ではなく保護区内）も行っている。このような活動に対して KWS が能動的に動くことはなく、依頼があれば道具を貸す程度の支援を行っている。
- ・研修に参加したワーデンは多数の業務を兼任しているので、ビデオの作成を開始した以外の教育活動は特にない。ワーデンくらい地位が高いと現場レベルへの反映が難しく、研修を受けてもそれっきりになりがちである。現在、隊員が水中写真を撮って教材を作成している。
- ・公園の情報を KWS はほとんど持っていない。NGO や KWS モンバサ本部が調査に来る事があるが、そのデータはキシテには届いていない。
- ・観光業と漁業が盛んで、コミュニティにおける貧富の差はそんなにあるようには見えない。
- ・来週、ワーデンが入れ替わる予定である。

【ワタムについて】

- ・コミュニティによる環境保全活動は活発だが、以前までその情報は KWS に届いていなかった。KWS は自らコミュニティと関係を持とうとはしないので、隊員が両者の間を取り持っている。KWS と住民が意見交換を行うワークショップはこれまでなかったが、プロジェクトが開催したワークショップにより住民はかなり励まされた。
- ・環境教育に関しては、NGO が活発に行っているので KWS や隊員は特に取り組んでいない。また、ワタムでは予算はかなり不足している。
- ・ワタムタートルウォッチ（WTW）による企画で 8 月にワークショップ（プロジェクトとは別）が開催され、KWS、水産局、森林局（KFS）、KEMFRI、NGO、CBO、ボートオペレーター、漁

師等からなるコミッティ（Watamu Marine Conservation Association）が結成された。この目的の1つに情報の共有がある。

- ・職員の異動は多く、特にレンジャーの異動は計画的にされていないように思える。中には泳げないレンジャーもいる。現地に長く配置されている職員が少ないので、ワタムに詳しい職員が少ない。事務所には複数の部族が働いているが、特にそれによる支障はない。KWS 職員とコミニティとの部族の違いも特に問題とはなっていない。
- ・住民はマングローブの伐採が悪いと知っているが、生活のために止むを得ず切っている。

(3) その他の関係団体

面談者：ケニア国立博物館（NMK）本部 視聴覚オフィサー3名（研修参加者）

日時：8月28日（火） 15:15～16:00

場所：ケニア国立博物館（NMK）本部（ナイロビ）

概要：

- ・視聴覚部門の主任オフィサーは、本プロジェクトの計画段階より参加している。また、視聴覚部門からは4人がプロジェクトの研修に参加した（うち2名は本邦研修参加）。研修の内容には満足しており、特に悪い点はない。
- ・研修に参加した後、学んだ技術を活かして教育プログラムを計画中である。現在、進行中の教育プログラムは2つある。1つは西部地域の人々、音楽および自然資源、またコースト地域の歴史を紹介するビデオの作成である。もう1つは固有の有用植物を紹介するビデオの作成（2008年3月に完成予定）である。プロジェクトの研修で得た知識なしでは、これらは計画・実施できなかった。ビデオは全国に21ある博物館のうち6カ所に配布する他、KWS やテレビ局にも配布する予定でいる。なお、これらの内容は KWS の活動とは関わらない部分が多いため、独自のプログラムとしているが、必要に応じて KWS とも協働していこうと考えている。
- ・今まで KWS とは成果品のシェアはあっても、共同で何かを制作することはなかった。しかし、今後はプログラムの共同実施を積極的に考えている。2007年7月に KWS と会議をもち、教育教材を共同で制作することが決まった。具体的な内容は今後の会議の中で決めていくが、共同作業によりお互いに技術を高めあえると期待している。
- ・現在、視聴覚機材を用いてプログラムを実施する予算は自前で捻出できるが、新たに視聴覚機材を購入するための予算は自前では持っていない。
- ・日本政府からは、1995年にアナログ式機材が、2001年にデジタル式機材が供与された。・機材の使用法の技術移転は十分に行われたので、特に支障なく使用できている。機材が供与された当初は専門家が派遣されていたが、2002年からは派遣されていない。最近は撮影にはデジタル式ビデオのみを使用するので、編集にはデジタル式機材のみを使用している。アナログ式機材の使用頻度は低い。

面談者：Mr. Eric M.S Deche, Programme Officer, WCK Nairobi（研修参加者）

日時：8月29日（水） 9:30～10:45

場所：ケニア野生生物クラブ（WCK） ナイロビ支部（ナイロビ）

概要：

- ・以前モンバサに勤務していた頃、協力隊員と共に働いた経験がある。当時、日本で 1 年間の研修も受けた。なお、モンバサでは 1993 年より協力隊員を受け入れており、今年からはキスムにも受け入れる。
- ・ナイロビ支部の教育関連スタッフは 3 名（オフィサー 1 人、サポート 2 人）いる。その他、本プロジェクト対象地域では、モンバサに 1 人（+協力隊員 1 人）、マリンディに 1 人、ナクルに 1 人いる。
- ・WCK のメンバー校は KWS の施設に無料で入る事ができる。サファリウォークの教師用マニュアルはメンバー校の先生にも使用してもらっている。しかし、メンバー校がサファリ・ウォークを訪問した際、WCK の教育スタッフも同行するようにしている。まだ先生だけの解説では不十分な場合が多い。
- ・KWS の教育部門とはプロジェクト以前から協力し合っているが、プロジェクトでは教育戦略策定の WS に参加、モンバサとナクルでの WS に参加、ナイロビでの研修に講師として参加した他、サファリウォークの教師用マニュアル作成にも WCK のオフィサーが協力した。プロジェクト以前からの協力としては、学校で使用する教材（ビデオ、ポスター）の作成と使用がある。KWS が教材を作成する際、WCK はその作成に協力する。一方、作成された教材は WCK でも有効活用させてもらう。
- ・プロジェクトとの連携は良好であったが、唯一、KWS の頻繁な人事異動は問題であった。しかし、プロジェクトを通して KWS の教育部門は明らかに強化されており、今後も連携体制を継続していくことで合意している。
- ・ケニアにおいて野生生物は、特に経済面、観光面から重要な資源だと考えている。特にナイロビとモンバサだけで国の経済の 60%を占めていることから、これらの地域では重要性が高い。
- ・野生生物の多くは国立公園・保護区の外に生育・生息していることから、住民と野生生物の共存なしではケニアの野生生物保全は成り立たない。その為には、コミュニティ・ツーリズムの発展も必要である。コミュニティ・ツーリズムの優良事例がカジアドにある。ここは国立公園にも保護区にも指定されていない地域だが野生生物が豊富なため、住民たちが観光客を案内して利益を得ている。利益は各自の持つ土地の割合に応じて配分している。

面談者：Dr. Patterson Poli Semenye, Project Coordinator, SUMAWA Project（WS 参加者）

日時：8 月 30 日（木） 10:45～12:00

場所：エガートン大学（ナクル市）

概要：

- ・SUMAWA プロジェクトには 6 人のスタッフ（エガートン大学の教授・講師）がいる。その他は学生である。また、多くの関係者との協力が必要だと考えており、KWS を始めとして Water Resources Management Authority、モイ大学、ワイオミング大学、カリフォルニア大学デービス校、水産局等と協力している。
- ・同プロジェクトの研究活動は、人々の利益、つまり生計向上を目的としている。対象としてい

る Njero 川流域は 270km²あり、そこには 30 万人の人が住んでいる。その中には極貧層の住民も含まれている。

- ・コミュニティの人々が水源から集める飲料水はそのままでは飲めないで、ウォーターガード（市販の浄水薬品）を投入する必要がある。しかしコストが高いため、より安価に済む方法を検討した結果、浄水フィルターの普及を行っている。これは通常 Ksh1,200 で販売しているが、極貧住民には Ksh300 で売っている。
- ・現在、川の汚濁によるナクル湖への影響や、Njero 川の水位低下による経済的な影響について、コミュニティの人達に教えている。例えば、Njero 川の水位低下に伴い Egerton 大学にある 17 の井戸全てが枯れてしまった。これは経済価値に換算すると Ksh 400 万の価値がある。KWS の敷地内にも 7 つの井戸があるが、そのうち 3 つが既に枯れている。
- ・あるコミュニティに住む住民は狩猟採集民で、以前は木を切ってはいけないという掟を持っていた。しかし、コミュニティ外から木の貨幣価値を教えられたために、木を切るようになってしまった。その他、農耕民族のカレンジン族が外部から入ってきて、畑作を始め化学肥料や農薬を用いるようになった。これらの影響でナクル湖の汚濁・汚染が進むようになった。
- ・ナクルは多くの民族が集まっている地域である。キクユ族もいるが、彼らは農地をあまり持っていない。その他、キシイ族もいる。
- ・ナクルはもともと天然資源に恵まれていた。そのため先のことを考えなくてもかつては生きていけた。そのせいで、みんな目の前のことしか考えないのが身についている。そんな背景があるため、この地域では人々の能力強化には時間がかかる。
- ・以前の KWS は動物にしか関心がなかった。今ではコミュニティと交流を持つようになり、人々の利益のために動物保護を考えている。以前はコミュニティとの関係は悪かったが、随分と良くなった。このような変化が起き始めたのは 1995 年ごろからだと思う。
- ・コミュニティに関わる人は、それに特化していないと難しい。コミュニティの人達は外部者に本音を話さない。例えば、平和部隊のボランティアはコミュニティに住んで溶け込んでいる。彼らは仲間として受け入れられているし、コミュニティのことも良く知っている。

面談者：Mr. S.C. Kiarie, Environmental Department, MCN（WS 参加者）

日時：8 月 31 日（金） 9:45～10:45

場所：ナクル市役所（Municipal Council of Nakuru: MCN）（ナクル）

概要：

- ・ナクル市の面積は 290km²で、うち 180km²がフラミンゴで有名なナクル湖国立公園である。
- ・自然環境保全および環境汚染の両方の観点から、ナクル湖は最も重要な場所である。市内にはいくつかの工場があるが、それらからの排水を毎月 1 回モニタリングしている。また、雨季には多くの水がナクル湖に流れ込むが、これには農業に由来する汚染物質や土壌が含まれている。これらがどの程度なのかを知る必要を感じている。
- ・現在、ナクル市では、Nakuru Environmental Consortium という団体が結成された。これにはナクル市役所、KWS、NEMA、民間企業、ジュアカリ（小規模な製造業または修理業のことで 1 人で営まれる事が多い。）が含まれる。ジュアカリはインフォーマル・セクターではあるが経済の

18%を占めているので軽視してはならない。Consortium では公衆トイレの建設などを行っているが、2007年2月より学校に対する植林の支援も開始した。70校を対象に300,000本の苗木の植林を計画しているが、今まで全ての学校がGreen Parkを設置し、合計100,000本の植林を実施した。

- ・ナクル市では、選挙区開発資金（CDF）から年間Ksh 200,000を得て、植林プロジェクトも実施している。これは、砂採掘所からの砂がナクル湖に流れ込むことを防止するためである。
- ・EUがMau Forestの植林プロジェクトにKsh 2,470万の資金提供を決めた。2007年5月から3年間のプロジェクトだが、2007年12月までの予算はKsh 500万となっている。このプロジェクトは、SOWCEプロジェクトで実施したWS結果を参考に内容を決められている。
- ・ナクル市の開発はStrategic Plan of Development of Nakuruという総合開発計画に基づいて行われている。これは環境を含む全セクターを取り扱っている2000～2020年までの計画である。

面談者：Ms. Sally Kibos, District Environmental Officer, Nakuru District, NEMA（WS参加者）

日時：8月31日（金） 11:00～11:45

場所：国家環境管理局（NEMA） ナクル県事務所

概要：

- ・ナクルには2004年11月に赴任した。
- ・NEMAは環境分野を統括している政府機関で、主に環境アセスメントの審査を行っている他、毎年、環境報告書を作成している。NEMAナクル事務所はNakuru Environmental Consortiumの一員でもあり、今はここでの活動を一番重要視している。例えば、適切な農業手法の普及を行っている他、砂の採掘により環境への影響が出ている地域で、それ以外の生計向上活動の検討（例えば採砂跡地での魚の養殖など）を行っている。また、EUの支援によるMau Forestの植林プロジェクトでは、モニタリングと審査を担当している。
- ・NEMAは多岐に亘る分野の環境教育を行っているが、住民の貧困度が高いことを考えると、受け入れられるにはまだまだ時間がかかると思う。
- ・NEMAは毎年、環境報告書を作成しているが、この時にKWSからの協力を得ている。また、今年のNational Environmental DayではNjoro川流域のMau Forestをターゲットに苗木を配布した。この時、KWSからは車輛とドライバーを提供してもらった。

面談者：Mr. Hassan Mohamed Hassan, Education Officer, NMK Fort Jesus（WS参加者）

日時：9月3日（月） 14:00～15:00

場所：ケニア国立博物館（NMK） フォートジーザス博物館（モンバサ）

概要：

- ・2007年8月のワークショップに参加した。
- ・NMKはKWSの他、WCK、水産局、ケニア海洋水産研究所（KMFRI）等と協力して活動を行っている。WCKには色々と協力を行っている。例えば、植林やWater Dayの時に講師を依頼される。その他、博物館のホールを提供することもある。2年前まではKWS、WCKと協力してMobile Education Programmeを実施していたが、支援してくれたオランダのドナーが引き上げた

ため、今は行っていない。

- ・環境に関する啓蒙活動は、学校から始めた。子どもは家に帰ると学校で習ったことを両親に伝えるので、普及を行う場合にキーとなる。
- ・現在、町には Municipal Council がゴミ箱を設置しており、それを収集している。しかし処分場が不足しているのが問題である。ビーチのゴミは全体的に量が減っている。この理由は啓蒙活動を推進してきたからだと思う。また、現在、リサイクル活動が推進されている。例えば、ペットボトルを砕いて枕を（200 本から 1 個）、サンダルからビーズを作る工場がある。また、マリンディにはビニール袋から玄関マットを作っている。
- ・モンバサの下水処理場は稼動していないので、現在、海が汚れてきている。ホテルは NEMA に Ksh500,000 の保証金を支払っている。もしホテルが海を汚した場合、その金を使用して清掃を行う。
- ・KWS は生物保全において重要な役割を担っているが、住民からは批判の声もあがっている。

面談者：Ms. Khadija S. Shirazy, Conservation Education Officer, WCK Mombasa（WS 参加者）

日時：9 月 3 日（月） 15:30～16:30

場所：ケニア野生生物クラブ（WCK） モンバサ支部（モンバサ）

概要：

【WCK モンバサ事務所について】

- ・WCK モンバサ事務所は 1994 年に JOCV 隊員により設立された。日本からは地球環境ファシリティー（GEF）を利用して 1999 年にボートを購入した。現在、年末から年始にかけて事務所の移転する予定でいる。新しい場所には宿泊施設などを準備している。
- ・モンバサ事務所には、スタッフが 3 人（うち 2 人が教育担当）いる。その他、協力隊員とインターンが 1 人ずついる。マリンディ事務所にはスタッフが 2 人（うち 1 人が教育担当）とインターンが 1 人いる。

【プロジェクトについて】

- ・プロジェクトとは、ワークショップに 2 回参加しただけの関係である。コミュニティと意見交換できた。普段出ているワークショップは教育関係のものしかなく、このような内容は初めてで良かった。プロジェクトがこのようにコミュニティを巻き込んでいるところは非常に良い。
- ・JICA の長期専門家とも数回会ったが、落ち着いた良い人だと思う。事務所には協力隊員もいるが、彼女はよく働いてくれている。
- ・教育スタッフに対する研修は、ほとんどが OJT によるもので、稀に視察研修も行う。研修の必要性は感じているが、そのための資金がない。

【KWS について】

- ・KWS とは長い間、お互いに協力してきたが最近は良くなってきた。特にこの 2 年で随分と変わった気がする。以前はなかった教育部門が本部にでき、今では教材の作成も行っている。その他、KWS はコミュニティと関わりあうようになってきたので、住民は KWS を怖がらなくなりつつある。住民も KWS の役割を認識し、支援を求めるようになってきた。
- ・WCK では人員、事務所ともに不足しており、補うために KWS との協力が欠かせない。関係に

については特に問題がない。

- ・ KWS は、教育活動に限らず色々な面で変わってきている。以前は警察のような感じだったが、今ではコミュニティとのコミュニケーションがあり、イメージが全く変わった。
- ・ WCK のアウトリーチ・プログラムは遠くまで行くが、KWS は近くまでしか行かないと思う。また、WCK の教育活動は学校生徒のみを対象で、コミュニティまでは対象としていない。しかし KWS とは活動の重複も見られるので、これは防がないといけない。
- ・ WCK が使用する教材については KWS に頼る事が多い。モンバサ本部だけでなくナイロビ本部に行くこともある。教育戦略の実施により教材が改善されていくことを期待している。
- ・ KWS の教育部門とは、今後も協力しお互いの足りない部分を補足し合っていきたい。KWS に対しては、今後も環境保全の能力を強化して欲しいと思っている。

【コミュニティについて】

- ・ 2004 年ごろからコミュニティの活動に変化が見られる。現在、海岸の清掃、植林、リサイクルなどの活動が見られる。
- ・ 昔の人たちは自然環境と人々の関わりについて良く知っていた。しかし一時期その重要性を認識しない時代があったが、最近になって以前の姿に戻りつつある。
- ・ コミュニティでは、以前は誰も海洋国立公園の意味をわかっていなかった。

【その他】

- ・ モンバサは内陸に住むケニア人にとって人気の観光地である。さらに仕事を求めて人口が増えているため、最近ではインフラの許容範囲を超えてきている。環境の悪化も進んでいる。
- ・ 以前、津波が来た後に一時期、魚が減少したが、すぐに回復した。しかし長い目で見ると魚は減少しており、価格が上がりつつある。森林伐採による土壌浸食も見られるが、それに対して植林のペースは非常に遅い。

面談者：Mr. Steve Trott, Project Manager, Watamu Turtle Watch (WTW)

日時：9月4日（火） 15:00～15:30

場所：ワタムタートルウォッチ（ワタム）

概要：

- ・ 職員は 5 人で、ミダクリークにいる漁師への教育の他、14 の学校に対して教育を行っている。また、MCCC が開始しようとしているエコツーリズムの支援もしている。
- ・ 1 年半ほど前から関係者の情報共有のためのコミッティを作ろうと考えていたが、8 月に Watamu Marine Stakeholders Association を結成した。これには KWS も参加している。
- ・ ワタムでは、KWS、水産局、森林局、NEMA のそれぞれが住民に対して異なる指導をするため、混乱が生じている。例えば、森林局は国立保護区の木を伐採してよいと言うが、KWS はそれを禁止している。

(4) 国立公園周辺の住民グループ

面談者：キロ・モジャ住民グループ 4 名（うち 2 名はワークショップ参加者）

日時：8月30日（木） 15:15～16:00

場所：キロ・モジャ（ナクル市）

概要：

- ・2001年に80人のメンバーで開始した住民グループ（CBO）である。薪炭採取のため、農地に植林を行っている。今まで、苗木を合計30,167本植えた。しかし、ここ数年、旱魃が続いたため（他地域に住民が移住して）村の住民が減っている。グループのメンバーも30人まで減った。以前は村とKWSの関係は良くなかったが、今は改善された。
- ・村はKWSより多くのサポートを得ている。例えば、キロ小学校の建設、水の供給、奨学金の取得支援（KWSを通してドナーに申請）などがある。苗畑の管理はKWSが設置した水源の水（無料）を使用して行っている。KWSがいなければ、苗畑の造成はできなかった。
- ・プロジェクトのWSには、代表者2名が参加したが、そこでKWSが何をやっているのか知る事ができた。また、適切な農業技術、土壌浸食の防止、植林による地球温暖化の防止、流域の保全についても学んだ。これらの内容をグループメンバーだけでなく、他の住民にも伝えている。特にグループメンバーはこのような話をよく理解してくれる。

面談者：Mida Creek Conservation Committee (MCCC) 10名（うち1名はワークショップ参加者）

日時：9月4日（火） 16:15～17:00

場所：MCCC 事務所（ワタム）

概要：

- ・少し前まで多くの住民はKWSや森林局、水産局が何をしている組織なのか知らなかった。例えば、魚を獲っていたらKWSに捕まることがあったが、何故捕まるのか理由をみんな知らなかった。そこで2000年にMCCCを結成して2002年には政府に登録した。その後、他の住民に教会や住民集会で情報を伝えるようにしたら、多くの住民がKWSなどの活動のことを知るようになった。
- ・MCCCには傘下にグループが13あり、それぞれ異なる活動を行っている。例えば、カキやカニの養殖、養蜂、リサイクル製品の製造・販売などである。現在、ミダクリークでのエコツーリズムを計画しているが、ライフジャケットを入手していないため活動を開始できない。なお、違法漁業を行っている人がいたらKWSに伝えている。
- ・SOWCEプロジェクトについては、ワークショップに参加して初めて知った。ワークショップでは他の組織が何をやっているのか知る事ができた。特に、各団体の活動の関連性について理解できたのは良かった。
- ・コミュニティの住民にとっては、政府機関やNGOよりも協力隊員の活動の影響が大きい。隊員からは、マングローブについて色々と教えてもらった上、マングローブのガイドや教材を作成してもらった。
- ・ワタムの住民のほとんどは漁師で、あとはホテルの期間雇用があるだけである。漁獲量も減っており、以前は一度漁に出れば5kgほど獲れたが、今では1kg以下である。

面談者：ボートオペレーターグループ 18人（うち1名はワークショップ参加者）

日時：9月5日（水） 10:30～11:30

場所：ケニア野生生物公社（KWS） マリンディ海洋国立公園（マリンディ）

概要：

- ・この10年でサンゴが随分と減った。サンゴは観光資源でもあるので、ボートオペレーターにとっては非常に重要な問題である。特に2004年の津波の被害は大きかったが、この分に関しては回復しつつある。ホテルの観光客はサンゴ礁の上を歩いており、これによるサンゴ礁への被害が懸念される。
- ・観光客はあまり多くないが、シーズン（年間6ヶ月）には1日 Ksh500～1,500 の利益がある。その他の季節（年間6ヶ月）は全く商売にならないので、ほとんどが漁に出る。しかし以前に比べて漁獲量は大きく減っており、1日に Ksh200 程度しか稼ぎがない。さらに近年、主にアジアから来たと思われるトロール船が、違法な漁をしている。多くの住民にとって生計の手段は漁業しかなく、漁獲量の減った現在、生活が非常に困難になっている。
- ・KWS との関係について意識した事がほとんどない。何らかの教育を KWS から受けたことも特にない。関係と言え、観光客を海に連れて行くとき、入場料の Ksh300 を事務所まで支払いに行く程度のことである。また、2006 年はライフジャケットの供与を受けている。
- ・（一部のオペレーターは）KWS に対して不満を抱いており、特に以前いたワーデンとの関係は悪かった。例えば、プロジェクトのワークショップに参加し、意見交換が行われたものの、その後、KWS や水産局は何も動いていない。トイレの整備等、ビーチの管理もなされていない。また、サンゴ礁の近くにはボートを留める場所が整備されていないため、ボートオペレーターは否応なしにもサンゴ礁に錨を下ろさざるを得ない場合がある。

付属資料3 アンケート調査結果

アンケート調査結果1（メインカウンターパート）

回答者：メインカウンターパート（合計2部）

回答者の内訳

配属先	KWS 本部教育部局 2 名
性別	男性 1 名、女性 1 名

(1) Achievement and Effectiveness

- How was the cooperation of the Project with other offices and department in KWS?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	0	2

* 1:Bad 2:Not good 3:So-so 4:Good 5:Very good

- How was the cooperation of the Project with other projects and organizations outside?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	2	0

* 1:Bad 2:Not good 3:So-so 4:Good 5:Very good

- Which project/organization outside had good cooperation with the Project?

Answer:

Other project/organization	How cooperated?	Number
National Museum of Kenya (NMK)	Their officers participated in the trainings.	1
Wildlife Club of Kenya (WCK)	Their officers participated as resource persons in the trainings	1

- How much did the training/workshop meet your organization's need?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	0	2

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

Reason	Number
Beneficiaries learnt new skills important in their work	1
Most of the officers become to develop education programmes and materials by themselves.	1

- In general, how was the period of the training/workshop?

Answer:

Answer	Number
Appropriate	2

- Have you participated in any non-SOWCE training since the Project started?

Answer:

Answer	Yes	No
Number	0	2

(2) Implementation Process

- Have the Project management been monitored appropriately?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	0	2

* 1:Inappropriate 2:A bit inappropriate 3:No-opinion 4:A bit appropriate 5:Appropriate

Reason	Number
Implementation has been on schedule	1

- How much actively have you participated in the Project?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	0	2

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

Reason	Number
Involved in organizing all the activities like training workshops	1

- Were there any factor influenced on your participation in the Project?

Answer:

Positive factor	Number
JICA Experts are very cooperative.	1
KWS is supportive of the activities.	1

Negative factor	Number
Too much commitments leaving little time for the Project	1

- Have the trained officers been monitored appropriately?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	2	0

* 1:Inappropriate 2:A bit inappropriate 3:No-opinion 4:A bit appropriate 5:Appropriate

- Did the frequent change of the Project Manager have any negative influence on the Project?

Answer:

Answer	Yes	No
Number	1	1

What influence?	Number
It took time for the new manager to learn about the project and this slowed the progress.	1

What did you do?	Number
Voiced our concern.	1

What effect did your countermeasure have?	Number
The transfers have stabilized.	1

(3) Relevance

- How do you think about the target area?

Answer:

Answer	Appropriate	A bit small
Number	1	1

Reason	Number
Capacity and resources available could not have an impact had the project been spread further.	1
Should cover a wider area.	1

- How do you think about the target field, which is conservation education?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	0	1

* 1:Inappropriate 2:A bit inappropriate 3:No-opinion 4:A bit appropriate 5:Appropriate

Reason	Number
Conservation education has been the missing link in conservation.	1

- How do you think about the target group, which is KWS education related officers?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	0	2

* 1:Inappropriate 2:A bit inappropriate 3:No-opinion 4:A bit appropriate 5:Appropriate

Reason	Number
They deal with communities.	1

(4) Efficiency

- Was your expertise and position appropriate to the project?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	0	2

* 1:Inappropriate 2:A bit inappropriate 3:No-opinion 4:A bit appropriate 5:Appropriate

Reason	Number
As head of the department, my position give the project necessary importance.	1

- How were the chief advisors' areas of expertise?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	0	2

* 1:Inappropriate 2:A bit inappropriate 3:No-opinion 4:A bit appropriate 5:Appropriate

Reason	Number
He was very conversant with education matters.	1

- How were the chief advisors' performances?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	0	2

* 1:Bad 2:Not good 3:So-so 4:Good 5:Very good

Reason	Number
He stayed focused and this was good for the project.	1
Very instrumental in education programmes achievement.	1

- How were the short-term experts' areas of expertise?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	1	1

* 1:Inappropriate 2:A bit inappropriate 3:No-opinion 4:A bit appropriate 5:Appropriate

Reason	Number
He understood his area very well.	1
He was very good at demonstrating materials production.	1
Some lack Kenya situation exposure	1

- How were the short-term experts' performances?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	1	1

* 1:Bad 2:Not good 3:So-so 4:Good 5:Very good

Reason	Number
Conducted demonstrations at a very good pace.	1
Good but limited by inadequate exposure of Kenyan situations.	1

- How much have JOCV volunteers collaborated with the Project?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	1	1

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

Reason	Number
They were active participants all through.	1
Mostly involved in education programmes especially trainings.	1

- How often are the equipments, which were provided by the Project, utilized?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	0	2

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

- Do you have any difficulties in use/maintenance of the equipments?

Answer:

Answer	Yes	No
Number	0	2

- Are the equipments appropriate to promote your activities?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	0	2

* 1:Inappropriate 2:A bit inappropriate 3:No-opinion 4:A bit appropriate 5:Appropriate

Reason	Number
Computer for daily use	1
Camera for capturing images of functions and wildlife	1
Always in use to prepare education information and communication	1

(5) Impact

- How much has the number of community people participating in conservation activities been increasing because of the Project?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	2	0

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

Reason	Number
Because of enhanced collaboration	1
They understand various aspects of conservation hence increased support.	1

- How much is the capacity building of the officers promoting conservation activities of community?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	0	2

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

Reason	Number
Now collaborating more	1
Staffs now understand importance of the communities hence they endeavour to work together.	1

- How much have the Project influenced on the wildlife conservation policy in Kenya?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	0	2

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

(6) Sustainability

- Were the education materials and tools, which were provided by the project, appropriate?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	1	1

* 1:Inappropriate 2:A bit inappropriate 3:No-opinion 4:A bit appropriate 5:Appropriate

Reason	Number
Now being used to enhance education	1

- How much did the awareness of the education related officers increased through the Project?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	0	2

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

Reason	Number
I was exposed to community issues that earlier on I had no idea.	1
Most of them are very happy and enthusiastic of their work.	1

- How much did the capacity of the education related officers increased through the Project?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	0	2

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

Reason	Number
We now implement education programmes with confidence.	1
I learnt a lot from the project such as making of the hands on materials.	1

- How much does KWS emphasize capacity building of the staffs for conservation education?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	0	2

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

Reason	Number
Conservation education is very crucial for the success of conservation.	1
Done by training department	1

- How much do you think that KWS will continue the trainings for conservation education?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	0	2

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

Reason	Number
There is need for expanding education activities to new areas.	1
Training office have already done training needs assessments.	1

- How much are there expectations that other donors will support KWS to implement the training?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	1	1	0	0

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

Reason	Number
KWS is trying its best to fund most of its activities and to reduce dependency.	2

- What is the most important thing for KWS to continue and improve the conservation education?

Answer:

Answer	Number
Staff capacity building and equipment development	2

アンケート調査結果 2 (KWS 教育関連オフィサー)

回答者：KWS 教育関連オフィサー（合計 25 部）

回答者の内訳

配属先	本部 3 人、ナイロビ 8 人、ナクル 2 人、コースト 6 人、その他 6 人
性別	男性 15 名、女性 10 名

(1) Relevance

- How much do you think awareness of community is important for wildlife conservation?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	1	24

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

- How much do you think participation of community is important for wildlife conservation?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	3	22

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

- How much does your workstation emphasise on conservation education?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	1	3	4	17

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

- How much do you think conservation education is important in your area?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	3	22

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

- What is the most emphasized activity in your workstation?

Answer:

Activities	Number
Revenue collection	5
Education and awareness	5
Sanitation	3
Human-wildlife conflict resolution	2
Community wildlife service	2
Animal health	2
Security	2
Biodiversity management	1

- What do you think is the most important activity in your workstation?

Answer:

Activities	Number
Education and awareness	8
Hygiene of exhibit animals	4
Research	3
Community wildlife service	3
Human-wildlife conflict resolution	1
Security	1
Revenue collection	1

- Which activities are more focused than conservation education in your workstation?

Answer:

Activities	Number
Security	12
Revenue collection	9
Animal care	5
Community wildlife service	5
Human-wildlife conflict resolution	5
Research	4
Biodiversity management	3
Partnership	2
Printing reports	2
Administration	1
Financial management	1
Exhibit management	1
Videos	1
Production of posters	1
Park marketing	1
Maintenance of equipment	1

- Which activities are less focused than conservation education in your workstation?

Answer:

Activities	Number
Revenue collection	6
Human wildlife conflict	2
Administration	1
Office meetings	1
Community programme	1
Provincial administration meeting	1
Infrastructure development	1
Staff welfare	1
Human capital	1
Recreational facilities	1
Routine maintenance duties	1
Local tourism promotion	1
Support service	1

(2) Effectiveness

- Have you made education material/tool in last 3 years?

Answer:

Answer	Yes	No
Number	20	3

Item	Number
Poster	9
Hands on material	9
Video	3
Exhibition	3
Guide book	2
Brochure	2
Nature calendar	2
Press release	1
Model animal	1
Teachers guide	1

- To make the material/tool above, how much did you utilize what you learned in the SOWCE training?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	2	2	4	11

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

- Have you made education programme in last 3 years?

Answer:

Answer	Yes	No
Number	14	9

- Have you worked according to the education programme above?

Answer:

Answer	Yes	No	Yes and No
Number	7	0	7

- How much did you utilize what you learned in the SOWCE training to conduct education programme?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	3	4

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

- Have you conducted any community awareness activities in last 3 years?

Answer:

Answer	Yes	No
Number	14	8

How often?	Number
Every week	3
Every month	8
Every few months	1
Every year	0
A few times	2

- Has the number of your community awareness activities increased recently?

Answer:

Answer	Yes	No
Number	11	3

If "Yes", why?	Number
Due to acquired knowledge through capacity building.	4
Community willingness to learn	4
Education department in KWS has been quite active.	1
Since a JICA volunteer left I was left to do the job alone.	1
I was transferred to a field station.	1
Education strategy requires that we meet specific targets.	1

If “No”, why?	Number
I was transferred to out of my area.	2
I have been occupied by other equal important activities.	1

(3) Efficiency

- Which trainings did you participate?

Answer:

Training	Number
Exposure & Exchange Workshop on Marine Life Management (Mar. 2005)	4
Technical Exchange on Captive Management (Nov. 2005)	6
Training Workshop on Education aid Development (Jan. 2006)	6
Training Workshop on Presentation Skills & Synopsis Writing (May 2006)	10
Exposure & Exchange Workshop on Nakuru (Aug. 2006)	7
NWS Nature Calendar/Eco-school Development & Synopsis Writing (Jan. 2007)	14
Training Workshop on Education Aid Development (Feb. 2007)	13
Exposure & Exchange Workshop on Marine Life Management (Aug. 2007)	5

- In general, how much did the training meet your needs?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	1	4	11

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

Reason	Number
It improved communication.	4
It helped me know how to design programmes.	2
I can now do activities that were initially impossible.	2
Because the technology is changing.	1
I can now handle most of AV equipments.	1
The workshop focused on issued that has been a challenge to me.	1
I can assist the communities.	1
It made me aware of different community needs.	1

- In general, how was the period of the training?

Answer:

Answer	Number
Too long	0
Long	0
Appropriate	5
Short	9
Too short	2

- Have you participated in any non-SOWCE training for last 3 years?

Answer:

Answer	Yes	No
Number	10	13

Implementation Organization	Number
KWS	3
Zoological society of London	2
PENHA	1
Mcgill University in Canada	1
Moi University	1
European Union	1
Duke University in USA	1

Advantages of non-SOWCE training over SOWCE training	Number
Exposure to conservation activities in different surroundings.	3
Long term training	2
We can modify it if it is applicable to our environment.	1
Wide area	1

Advantages of SOWCE training over non-SOWCE training	Number
It is practical and address immediate need.	3
It is interactive.	2
Has focus on specific area or issue of concern.	1
Strengthen individual	1
Easy to implement	1

- Are there Japanese volunteer in your workstation?

Answer:

Answer	Yes	No
Number	14	9

- How much does Japanese volunteer contribute to promote education activities?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	0	4	10

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

- Did your station receive any equipment from the Project?

Answer:

Answer	Yes	No
Number	18	5

- If you answered “Yes” in above, how often are the equipments utilized?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	1	0	0	5	12

* 1:Not at all 2:Not so much 3:So-so 4:Much 5:Very much

- Do the equipments appropriate to promote your activities?

Answer:

5-grade*	1	2	3	4	5
Number	0	0	1	0	17

* 1:Inappropriate 2:A bit inappropriate 3:No-opinion 4:A bit appropriate 5:Appropriate

- Do you have any difficulties in use/maintenance of the equipment?

Answer:

Answer	Yes	No	Yes and No
Number	2	12	1

If “Yes”, what is difficulty?	Number
Some cannot be repaired locally.	1
One needs training to operate them.	1
Office space is not enough to accommodate.	1

- Does your workstation collaborate with outside organizations to enhance conservation activities?

Answer:

Answer	Yes	No
Number	21	0

If “Yes”, with which organization?	Number
Wildlife Club of Kenya (WCK)	11
National Museum of Kenya (NMK)	6
NEMA	4
Forest Department	3
Provincial Administration	2
Fishery Department	2
Nature Kenya	2
IFAW	2
Municipal Council	2
WWF	2
Others	8

- Does your workstation collaborate with other KWS stations to enhance conservation activities?

Answer:

Answer	Yes	No
Number	20	1

If “Yes”, with which station?	Number
Malindi MNP	3
Amboseli NP	3
All Kenyan parks	2
Research	2
Kajiado	2
Others	12

(4) Impact

- Are there any changes in conservation activities of communities?

Answer:

Answer	Yes	No
Number	14	2

If “Yes”, what changes?	Number
Awareness on environmental matters has increased.	5
Community conserves nearby environment.	2
More people visit park.	2
Good relation with KWS	2
Others	7

- Are there any major changes in you deriving from the project?

Answer:

Changes in you	Number
Improved communication/presentation skill.	7
Better performance of education activities better than before.	6
Be able to prepare and use education materials.	5
More motivated to carry out conservation education.	3
Be able to develop synopsis.	2
Be able to implement ideas learnt from other facilities.	1
Be able to carry out research and analyze data.	1
Urge to learn more from other conservation education entities.	1

- Are there any major changes in KWS deriving from the project?

Answer:

Changes in KWS	Number
Better standard in conservation education	9
More interaction and exchange with community	4
Education centre has become to train staff.	1
Multimedia office serves KWS as a whole.	1
All the parks can appreciate and incorporated education.	1
Volunteers come with new ideas	1
The managers view education department as very important.	1

- Are there any major changes in communities deriving from the project?

Answer:

Changes in KWS	Number
Communities understand environmental matters.	6
Community are more receptive the conservation programme.	6
More people visit national parks.	4
Involvement of community in conservation activity has increased.	4
Relationship with KWS has improved.	2
Environmental clubs in schools were strengthened.	1

(5) Sustainability

- Have you transferred what you learned in the SOWCE training to your colleague?

Answer:

Answer	Yes	No
Number	16	1

How?	Number
Giving materials	5
Meetings	3
Demonstration	2
OJT	1
Workshop	1
Informal verbal interactions	1

Difficulties	Number
Lack of materials	3
Lack of time	2

- What is constraint to continue conservation education for you?

Constraint	Number
Lack of transport	8
Lack of equipment/facility	7
Lack of staff	5
Lack of continuous training	3

(6) Others

- Do you have any suggestion to the training of the Project?

Suggestion	Number
More training	17
Longer training	2
Support nature schools	1
Training should also target special community groups	1
More advanced training in multimedia	1
Open more education centres	1

アンケート調査結果 3 (JICA 専門家)

回答者：JICA 長期専門家（合計 1 部）

(1) 実績、有効性に関して

- ・プロジェクト担当部局と他部局との連携の程度はどうでしたか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	0	0	1	0

* 1:全く良好でない 2:あまり良好でない 3:普通 4:良好 5:非常に良好

理由	回答数
通常業務で連絡を取り合う。	1

- ・SOWCE と他のプロジェクト・組織との連携の程度はどうでしたか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	0	1	0	0

* 1:全く良好でない 2:あまり良好でない 3:普通 4:良好 5:非常に良好

理由	回答数
特に問題なし。	1

- ・SOWCE と特に連携が良好な部局、外部プロジェクト・組織はどこですか？

回答

KWS の部局	回答数	具体的な事例・上手くいった理由
コミュニティー部局	1	教育普及活動も行うので研修の対象者。 関連会議にも通常招待。

外部組織	回答数	具体的な事例・上手くいった理由
Wildlife Clubs of Kenya	1	研修に講師・参加者として招待。 教育活動の情報交換。
National Museum of Kenya	1	研修に講師・参加者として招待。 AV 本邦研修に参加

- ・SOWCE と特に連携が良好でない部局、プロジェクト・組織はどこですか？

回答

KWS の部局	回答数	具体的な事例・上手くいった理由
調査部局	1	連携が不十分。プロジェクトとして調査部局との 連携まで進んでいない。

- ・ 本邦で研修を受けた教育関連オフィサーのうち、何人が教育関係の部局に残っていますか？

回答 6人中6人

- ・ 本邦研修を受けた教育関連オフィサーからその他の職員への技術移転は見られますか？

回答

技術移転を行っている人の数	4人
回答数	1

技術移転の方法	回答数
実務を通じて	1
ワークショップでの報告	1

- ・ 本邦研修を受けた教育関連オフィサーによる教育活動に変化は見られますか？

回答

変化の見られる人の数	4人
回答数	1

変化の内容	回答数
活動の質が向上	1
意欲が向上	1

内部要因・外部要因	回答数
研修後のフォローアップ	1
業務評価制度の導入	1

- ・ 国内研修を受けた教育関連オフィサーによる教育活動に変化は見られますか？

回答

変化の見られる人の数	20人
回答数	1

変化の内容	回答数
活動の質が向上	1
意欲が向上	1

内部要因・外部要因	回答数
研修後のフォローアップ	1
業務評価制度の導入	1

- ・ 活動を特に阻害した内部要因または外部要因はありますか？

回答

阻害された活動	回答数
教育戦略の策定	1
ターゲット地域における教育活動の促進	1

活動を阻害した内部・外部要因	回答数
KWS 中期戦略計画策定の遅れ	1
KWS 側コミットメントの不足	1
人員不足（JICA・KWS）	1
現地他業務との兼ね合い	1

- ・ 活動を特に促進した内部要因または外部要因はありますか？

回答

促進された活動	回答数
ナイロビ・ナクルでの教材作成	1
ラジオ番組の作成・放送	1

活動を促進した工夫、内部・外部要因	回答数
インターンの派遣	1
協力隊員の現地活動	1
JICA 予算の有効利用	1

- ・ プロジェクト目標の達成を特に阻害した内部要因または外部要因はありますか？

回答

阻害した内部・外部要因	回答数
KWS 機構改革による影響	1
C/P（特にプロジェクトマネージャー）の不在・異動	1

- ・ プロジェクト目標の達成を特に促進した内部要因または外部要因はありますか？

回答

促進した工夫、内部・外部要因	回答数
KWS 中期戦略の策定	1
業務評価制度の導入	1
プロジェクト活動と教育戦略の実施が連携	1

- ・ 上位目標の達成を特に阻害する（すると考えられる）内部要因または外部要因はありますか？

回答

阻害する（すると考えられる）内部・外部要因	回答数
野生生物による被害の増加	1

- ・上位目標の達成を特に促進する（すると考えられる）内部要因または外部要因はありますか？

回答

促進する（すると考えられる）工夫、内部・外部要因	回答数
野生生物政策（改正案）の採択	1

- ・プロジェクト目標を達成する上で、プロジェクト期間中に残されている課題はありますか？

回答

課題	回答数
教育戦略実施のモニタリング・評価	1
ターゲット地域における教育活動の実施支援	1

対応策	回答数
教育戦略 1-2 年目の活動に対する支援	1
研修のフォローアップとして教育プログラム・教材作成・展示改善に対する支援	1

(2) 実施プロセスに関して

- ・PDM の指標が数値化されていない事は、プロジェクトの運営・モニタリングに影響しましたか？

回答

影響	回答数
モニタリングの際に成果達成度を客観的に評価することが困難だった。	1

- ・PDM の指標が今まで数値化されなかった理由は何かありますか？

回答

理由	回答数
数値化の設定が困難なため	1

- ・プロジェクトのモニタリング活動はどのように、またどのぐらいの頻度で実施されましたか？

回答

理由	回答数
進捗報告書の作成に合わせて年 2 回、JCC 会議で年 1 回	1

- ・上記のプロジェクトのモニタリング活動は、方法や頻度の点から見て適切でしたか？

回答

5 段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	0	0	1	0

* 1:適切でない 2:あまり適切でない 3:どちらとも言えない 4:まあまあ適切 5:適切

- ・モニタリング結果がプロジェクト運営の軌道修正に活用された代表的な例は何ですか？

回答

理由	回答数
JCC 会議で PO（活動内容・時期）を修正	1

- ・日本人専門家と C/P とのコミュニケーションは円滑に行われましたか？

回答

5 段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	0	0	1	0

* 1:全く良好でない 2:あまり良好でない 3:普通 4:良好 5:非常に良好

理由	回答数
本部 C/P とは日常的に業務打ち合わせを行うが、ターゲット地域 C/P とは頻繁に会う機会がない。	1

- ・C/P のプロジェクト参加度合いはどうでしたか？

回答

5 段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	0	0	1	0

* 1:全く良好でない 2:あまり良好でない 3:普通 4:良好 5:非常に良好

理由	回答数
本部 C/P については、業務評価制度の導入により、プロジェクトの成果が彼らの業務評価に結びつくようになった。	1
特に教育戦略策定を通じてプロジェクトに対するオーナーシップの醸成。	1

- ・研修後に参加者へのアンケートを実施しましたか？

回答

回答	回答数
毎回実施した。	1

- ・研修後に参加者の理解度テストを実施しましたか？

回答

回答	回答数
全く実施していない。	1

- ・研修後に参加者の活動状況をモニタリング・フォローアップしましたか？

回答

回答	回答数
ほとんど実施していない。	1

理由	回答数
研修の企画・実施に時間を取られた結果、海岸部やナクル等、地方でのモニタリング・フォローアップを同時並行的に適宜行うことは困難であった。	1

- ・カウンターパートが頻繁に変更した影響はありましたか？

回答

主な影響	回答数
活動の停滞と士気の低下。	1

影響を小さくするための対応	回答数
一部の異動に対しては上層部と協議した。	1
プロジェクトの概要説明を新 C/P に早期に行い、活動は残るスタッフで対応した。	1

対応による効果	回答数
活動の停滞を最小限に抑えることができた。	1
異動の取り止め。	1

(3) 妥当性に関して

- ・対象地域はどうでしたか？

回答

回答	回答数
広すぎる。	1

理由	回答数
ターゲット地域の地理的広がりを考えると、物理的に3ヶ所を1人専門家でフォローすることは困難であった。	1

- ・対象グループは適切でしたか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	0	0	1	0

* 1:適切でない 2:あまり適切でない 3:どちらとも言えない 4:まあまあ適切 5:適切

理由	回答数
プロジェクト目標を考えると妥当であるが、教育関連スタッフとした場合、その職種・人数が多く活動も多岐に渡るため、1人専門家では対処仕切れない面がある。	1

(4) 効率性に関して

- ・ 長期専門家の専門分野は適切でしたか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	0	1	0	0

* 1:適切でない 2:あまり適切でない 3:どちらとも言えない 4:まあまあ適切 5:適切

理由	回答数
専門は環境教育ではないが、アフリカの野生生物保護管理については知識・経験がある。	1

- ・ 短期専門家の人数、専門分野、派遣時期は適切でしたか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
人数	0	0	0	0	1
専門分野	0	0	0	0	1
派遣時期	0	0	0	1	0

* 1:適切でない 2:あまり適切でない 3:どちらとも言えない 4:まあまあ適切 5:適切

理由	回答数
研修講師としてプロジェクトの成果（スタッフの能力強化）に貢献した。	1

- ・ 供与機材の種類、数量、及び供与先は適切でしたか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
種類	0	0	0	1	0
数量	0	0	0	0	1
供与先	0	0	0	1	0

* 1:適切でない 2:あまり適切でない 3:どちらとも言えない 4:まあまあ適切 5:適切

理由	回答数
マリンディに供与したグラスボトムボートには使用・管理上の問題があった。	1

- ・ 本邦研修の受講者、内容、期間は適切でしたか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
受講者	0	0	0	1	0
内容	0	0	0	1	0
期間	0	0	0	0	1

* 1:適切でない 2:あまり適切でない 3:どちらとも言えない 4:まあまあ適切 5:適切

理由	回答数
研修生の報告	1
両国の環境教育の背景・目的の差異と方法論の共通点	1

- ・ カウンターパートの人数、配置状況および能力は適切でしたか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
人数	0	0	0	1	0
配置状況	0	0	0	1	0
能力	0	0	0	1	0

* 1:適切でない 2:あまり適切でない 3:どちらとも言えない 4:まあまあ適切 5:適切

理由	回答数
特に活動上の支障はないが、C/Pも多岐に渡るため一概には言えない。	1

- ・ 先方政府が提供した建物や施設の質、規模及び利便性は適切でしたか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
質	0	0	0	1	0
規模	0	0	0	1	0
利便性	0	0	0	1	0

* 1:適切でない 2:あまり適切でない 3:どちらとも言えない 4:まあまあ適切 5:適切

理由	回答数
特に問題なし。	1

質： <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> まあまあ適切 <input type="checkbox"/> どちらとも言えない <input type="checkbox"/> あまり適切でない <input type="checkbox"/> 適切でない
規模： <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> まあまあ適切 <input type="checkbox"/> どちらとも言えない <input type="checkbox"/> あまり適切でない <input type="checkbox"/> 適切でない
利便性： <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> まあまあ適切 <input type="checkbox"/> どちらとも言えない <input type="checkbox"/> あまり適切でない <input type="checkbox"/> 適切でない
理由：

- ・ 青年海外協力隊はプロジェクトの活動、成果、目標の達成にどの程度貢献しましたか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
活動への貢献	0	0	0	1	0
成果への貢献	0	0	0	1	0
プロジェクト目標への貢献	0	0	1	0	0

* 1:全くしない 2:あまりしない 3:どちらとも言えない 4:まあまあした 5:大いにした

理由	回答数
C/Pと共に研修に参加し、現地活動を通してC/Pの理解を深め、教育プログラム・教材・展示作成をすることにより、研	1

修のフォローアップに貢献した。	
-----------------	--

- ・配属先へ日本から供与された機材（プロジェクト以外）の使用状況、管理状況はどうですか？

回答

機材の内訳	回答数
視聴覚機材一式が4セット	1

5段階評価	1	2	3	4	5
使用状況	0	0	0	1	0
管理状況	0	0	0	0	1

* 1:全く良好でない 2:あまり良好でない 3:普通 4:良好 5:非常に良好

	理由	回答数
使用状況	教育センターの教育スタッフがアウトリーチプログラムに使用している。	1
管理状況	シニアボランティアと視聴覚スタッフが定期巡回指導を実施している。	1

- ・活動、成果および目標に対して、全般的に投入の質と量は全体的にどうでしたか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
長期専門家	0	0	1	0	
短期専門家	0	0	0	0	1
本邦研修員	0	0	0	0	1
第三国研修員	0	0	0	0	1
機材供与	0	0	0	1	0
現地業務費（JICA）	0	0	0	1	0
カウンターパート	0	0	0	1	0
プロジェクトスタッフ	0	0	0	1	0
建物・施設等（KWS）	0	0	0	1	0
現地業務費（KWS）	0	0	0	1	0

* 1:適切でない 2:あまり適切でない 3:どちらとも言えない 4:まあまあ適切 5:適切

- ・活動、成果および目標に対して、投入の質と量に問題がありましたか？

回答

投入の種類	問題点	回答数
長期専門家	1 人専門家の場合、同じ専門家がプロジェクト期間を通じて活動するのが望ましい。	1
	アドバイザー・調整員の2人専門家体制の方が望ましいか。	1

(5) インパクトに関して

- ・プロジェクトの影響により野生生物保全活動に参加する住民数は増えていますか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	1	0	0	0

* 1:全く 2:あまり 3:少しだけ 4:まあまあ 5:かなり

- ・職員の能力向上は、住民の野生生物保全活動の促進に影響していますか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	0	1	0	0

* 1:全く 2:あまり 3:少しだけ 4:まあまあ 5:かなり

- ・プロジェクトはケニアの野生生物保全政策に影響を与えていますか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
回答数	1	0	0	0	0

* 1:全く 2:あまり 3:少しだけ 4:まあまあ 5:かなり

(6) 自立発展性に関して

- ・プロジェクトを通してカウンターパートの意識は全般に向上しましたか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	0	0	1	0

* 1:全く 2:あまり 3:少しだけ 4:まあまあ 5:かなり

- ・プロジェクトを通してカウンターパートの能力は全般に向上しましたか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	0	0	1	0

* 1:全く 2:あまり 3:少しだけ 4:まあまあ 5:かなり

- ・KWS は野生生物保全教育に関わる職員の能力強化を重要視していますか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	0	0	1	0

* 1:全く 2:あまり 3:少しだけ 4:まあまあ 5:かなり

- ・KWS はプロジェクト終了後にも職員への研修を継続していく計画を立てていますか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	0	0	1	0

* 1:全く 2:あまり 3:少しだけ 4:まあまあ 5:かなり

- ・KWS が研修を実施する場合、他のドナー等から支援を受けられる見込みはありますか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	1	0	0	0

* 1:全く 2:あまり 3:少しだけ 4:まあまあ 5:かなり

アンケート調査結果 4 (JICA ボランティア)

回答者：シニアボランティア、青年海外協力隊員（合計 4 部）

回答者の内訳

配属先	シニアボランティア 1 名、青年海外協力隊員 3 名
性別	男性 1 名、女性 3 名
配属先	ケニア野生生物公社 (KWS) 3 名、ケニア野生生物クラブ (WCK) 1 名

(1) プロジェクトとボランティアの連携状況について

- ・プロジェクトの活動に参加したことはありますか？

回答

回答	はい	いいえ
回答数	4	0

参加した活動（複数回答可）	回答数
研修	4
教材作成	1

研修に参加した場合の立場（複数回答可）	回答数
受講者	3
オブザーバー	1
VTR 収録	1

- ・ボランティア活動の計画を立てる際、プロジェクトに相談したことはありますか？

回答

回答	はい	いいえ
回答数	3	1

「はい」と答えた場合、誰に相談しましたか？

相談した人（複数回答可）	回答数
JICA 専門家	3
JICA 専門家のカウンターパート	1

「いいえ」と答えた場合、誰に相談しましたか？

相談した人（複数回答可）	回答数
自分のカウンターパート	1
同僚	1

「いいえ」と答えた場合、プロジェクトをどれだけ意識して計画を立てましたか？

5 段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	0	0	0	1

* 1:全く 2:あまり 3:少しだけ 4:まあまあ 5:かなり

- ・プロジェクトはあなたのボランティア活動を促進していますか？

回答

回答	はい	いいえ
回答数	4	0

具体的な内容（複数回答可）	回答数
教材作成などにおいてテーマを絞った活動ができる。	1
活動に必要な機材（プリンター等）の供与がされた。	1
視聴覚スタッフが研修・ワークショップに参加したことは、環境教育プログラムの実施に役立っている。	1
他団体とのコミュニケーション及び連携が強化された。	1
ワークショップに参加したことにより、カウンターパートと目標を共有し活動を行えるようになった。	1

- ・あなたのボランティア活動はプロジェクトに影響を与えていると思いますか？

回答

回答	はい	いいえ
回答数	3	1

具体的な影響の内容（複数回答可）	回答数
教材を使うことにより研修参加者に良い影響を与えている。	1
研修・ワークショップで展示物のアイデアや具体的な活動を紹介して、参考にしてもらっている。	1
NGO による環境教育活動の手法および現場の情報を提供し、プロジェクトの活動の参考にもらっている。	1

(2) 配属機関による教育活動について

- ・質問：配属先では何人の職員が教育活動を担当していますか？

回答

回答	1 人	2 人	3 人
回答数	2	1	1

- ・配属先における教育活動の内容と頻度はどうですか？

回答

活動の内容（複数回答可）	頻度	回答数
巡回教育活動（KWS、WCK）	月 4～12 回（WCK）	1
	月 4～10 回（KWS）	1
インハウスプログラム（KWS）	月 1～3 回	1
	随時	1
教材の作成（KWS）	常時	1
コミュニティ向けバスツアー（KWS）	土日祝日に 1 日 2 回	1
定例イベントの開催、出席（KWS）	年 40 回	1
住民との会議に参加（KWS）	年 12 回	1
住民対象のセミナー（KWS）	年 10 回	1
グラスボートを用いた海の授業（WCK）	年 20 回以上	1

- ・配属先には教育活動に必要な十分な機材、施設はありますか？

回答

回答	はい	いいえ
回答数	2	2

不足している機材、施設（複数回答可）	回答数
パソコン	1
コピー機	1
ラミネーション	1
双眼鏡	1
バス	1
ボート	1
研修会場	1

- ・プロジェクトより機材が供与されている場合、その管理状況はどうですか？

回答

5 段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	0	0	2	1

* 1:全く良好でない 2:あまり良好でない 3:普通 4:良好 5:非常に良好

理由（複数回答可）	回答数
協力隊員が管理しているから	1
毎日使用されているから	1

- ・プロジェクトより機材が供与されている場合、その使用頻度はどうか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	0	0	1	2

* 1:全くない 2:あまりない 3:時々 4:頻繁 5:十分

理由（複数回答可）	回答数
毎日使用されているから	1
教育活動が頻繁に行われているから	1
協力隊員しか使用していないから	1

- ・配属先にはプロジェクト以外に日本から供与された機材はありますか？

回答

回答	はい	いいえ
回答数	3	1

- ・プロジェクト以外に日本から供与された機材の管理状況はどうか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	0	0	2	1

* 1:全くない 2:あまりない 3:どちらとも言えない 4:まあまあ 5:適切

理由（複数回答可）	回答数
毎日使用されている。	1
供与されたのは10年以上前のことで、一部に紛失やダメージがあるものの、全体的にみて維持管理がなされている。	1
埃の多い町であることや、移動が多いことによりダメージを受けることがある。	1

- ・プロジェクト以外に日本から供与された機材の使用頻度はどうか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
回答数	0	0	0	1	2

* 1:全くない 2:あまりない 3:時々 4:頻繁 5:十分

理由（複数回答可）	回答数
活動に不可欠で頻繁に使用されている。	1
毎日使用されている。	1
講義や巡回教育のため頻繁に使用されているが、一部の重たい機材は持ち運びが不便である。	1

- ・配属先にプロジェクトの研修を受けた教育関連オフィサーはいますか？

回答

回答	はい	いいえ
回答数	3	1

- ・配属先では何人の教育関連オフィサーがプロジェクトの研修を受けましたか？

回答

人数	1人	2人	多数
回答数	1	1	1

- ・研修を受けたオフィサーからその他の職員への技術移転は見られますか？

回答

回答	はい	いいえ
回答数	2	1

技術移転の方法（複数回答可）	回答数
実務を通じて（OJT）	2
研修の実施	1
教材やマニュアルの配布	1

- ・研修を受けたオフィサーによる教育活動に変化は見られますか？

回答

回答	はい	いいえ
回答数	2	1

変化の内容（複数回答可）	回答数
活動の質向上	2
意欲の向上	1

変化を促した要因（複数回答可）	回答数
本人に学ぶ意欲がある。	1
本人が教育の手法などを理解できた。	1

(3) 住民による環境保全活動について

- ・ 周辺に住む住民はどのような環境保全活動を実施していますか？

回答

活動の内容（複数回答可）	回答数
巡回教育	2
植林	2
ゴミ拾い	1
リサイクル	1
過剰伐採の監視	1
ビーチの清掃	1
定例イベント	1

活動の主体（複数回答可）	回答数
学校の生徒	1
学校の先生	1
世帯	1

- ・ KWS の教育活動は周辺住民の環境保全活動にどの程度の影響を与えていますか？

回答

5段階評価	1	2	3	4	5
回答数	1	0	2	1	0

* 1:全く 2:あまり 3:少しだけ 4:まあまあ 5:かなり

影響の内容（複数回答可）	回答数
問題解決手段の理解	1
KWS による啓蒙活動や植林活動の支援	1

- ・ あなたが赴任して以来、周辺住民の意識に変化は見られますか？

回答

回答	はい	いいえ
回答数	1	3

変化の内容（複数回答可）	回答数
植林活動が活発化しようという動きがある。	1

変化をもたらした要因（複数回答可）	回答数
プロジェクトで学んだプレゼン技術などは住民の啓蒙活動に役立っている。	1
他ドナー（EU）の支援がある。	1

- ・あなたが赴任して以来、周辺住民の活動に変化は見られますか？

回答

回答	はい	いいえ
回答数	2	2

変化の内容（複数回答可）	回答数
活動の質向上	1

変化をもたらした要因（複数回答可）	回答数
協力隊員による清掃活動	1
コミュニティ開発の NGO のサポート	1